

平成27年度風力発電等環境アセスメント基礎情報整備モデル事業
(北海道八雲町山崎情報整備モデル地区における地域固有環境情報
調査事業) 委託業務仕様書

1. 業務の目的

東日本大震災を契機として、低炭素社会の創出に貢献し、かつ自立分散型で災害にも強い再生可能エネルギーの利用拡大が求められている。

一方、再生可能エネルギーとして期待されている風力発電等については、騒音、動植物（バードストライク等）及び景観等への影響が懸念されている。

こうした背景を踏まえ、環境省では、風力発電等の早期導入に資することを目指し、事業者が環境影響評価を実施する際に活用できる基礎的な情報を体系的に提供し、質の高い環境影響評価を効率的に実施できる条件整備を行うための「風力発電等環境アセスメント基礎情報整備モデル事業」を実施している。

本業務は、風力発電等について適正な環境配慮を確保した健全な立地を円滑に進めていくため、地方公共団体への公募を経て選定した以下に示す「情報整備モデル地区」において、現地調査や地域ヒアリング調査等を実施し、環境影響評価に活用できる地域固有の環境情報（貴重な動植物の生息・生育状況等の情報）を収集・整理することを目的として実施する。

なお、本業務の成果は、上記事業の成果である「環境アセスメント環境基礎情報データベースシステム」の情報として収録される。

<本業務の対象とする情報整備モデル地区>

北海道八雲町山崎情報整備モデル地区（図参照：約800ha）

陸上風力発電事業の計画段階環境配慮書を想定した調査を実施する。

2. 業務の内容

2.1 現地調査計画書の作成

本業務の趣旨を踏まえ、現地調査の実施体制、実施計画、実施工程について記載した現地調査計画書を作成すること。実施計画については、調査項目ごとに具体的な調査地点、調査時期等の案を明記すること。

2.2 業務開始時の現地踏査等

業務開始時に現地踏査（受託者3名×1日程度を想定）を実施し、2.1で整理した現地調査計画書に記載した調査地点及び調査時期等の妥当性を確認するとともに、関係者との事前調整等を実施すること。また、これらの結果を踏まえ、必要に応じて調査地点及び調査時期等の見直しを行うこと。

2.3 地域概況調査

各情報整備モデル地区及びその周囲における自然的社会的状況の概要について、

入手可能な最新の文献その他の資料により、当該情報に係る過去の状況の推移及び将来の状況を把握することとし、必要に応じ、関係地方公共団体、専門家等から聴取し、又は現地の状況を確認することにより取りまとめること。なお、当該資料については、その出典を明らかにできるよう整理すること。

調査の対象とする自然的社会的状況の項目については、各情報整備モデル地区において想定している事業種（陸上風力、洋上風力又は地熱）の区分に応じ、「発電所に係る環境影響評価の手引き」（平成19年1月 経済産業省）及び発電所に係る既往の環境影響評価図書を参考に、想定している事業に係る調査、予測及び評価の項目や手法を検討するにあたって必要と考えられる情報について整理すること。

2. 4 地域ヒアリング調査

別紙1に掲げた調査項目について、専門家その他の環境影響に関する知見を有するもの（環境省地方環境事務所を含む）からの科学的知見などのヒアリングを行うこと。ヒアリングの内容については、当該環境要素に係る一般的な知見や各情報整備モデル地区における情報に加え、必要に応じて現地調査の手法や調査結果の妥当性についても対象とすること。

なお、ヒアリング対象者は7名×2回程度（1回当たり2時間程度）とし、ヒアリングに関する謝金（1名1時間当たり8,100円（所得税含む）、大学教授級を想定）については受託者が負担し、支給するものとする。

2. 5 現地調査

別紙1に示す調査項目について、現地調査を実施すること。調査仕様は、別紙2に示す標準仕様を参照し、該当項目に記載されている調査手法、調査地点、調査時期等を適用すること。

なお、必要に応じて、現地調査の実施に必要な許認可手続等の諸手続について対応すること。

2. 6 報告書のとりまとめ

本業務の成果について、当該情報整備モデル地区において想定している事業に係る環境影響評価手続きにおいて必要となる環境基礎情報のとりまとめであることを踏まえて、情報整備モデル地区ごとに設定された計画段階環境配慮書又は環境影響評価準備書の作成を想定して必要な図表等の情報を整理するとともに結果を解析し、情報整備モデル地区ごとに報告書としてとりまとめること。

なお、報告書は、重要な動植物の位置情報等の秘匿情報の扱いに配慮し、公開版と非公開版を作成すること。

2. 7 地理情報システム（GIS）の電子データの作成

本業務の結果について、別紙3の「地域固有環境情報調査事業電子データ作成要領」に基づいて地理情報システム（GIS）の電子データを作成すること。

2. 8 環境省との協議・打合せ

本業務の実施にあたっては、必要に応じて環境省担当官と協議、打合せを行うこと。また、地域固有環境情報調査事業の委託業務の全受託者を対象として、電子データや報告書のとりまとめ、委託業務の精算方法等に関する説明会を開催するため、これに参加すること。

- ・地域固有環境情報調査事業委託業務の受託者説明会 : 1回程度
- ・環境省協議、打合せ : 4回程度（業務開始時、中間時、報告書納品前2回）

2. 9 関係者間の連携

本業務の遂行にあたっては、別途業務委託を予定している「平成27年度風力発電等環境アセスメント基礎情報整備モデル事業支援委託業務」（以下、「支援業務」という。）の受託者と協議・連携し、以下の対応を実施すること。

- ・現地調査
当該情報整備モデル地区で実施する現地調査について、支援業務の受託者による立会い（1回程度）を予定しているため、これに協力すること。
- ・報告書のとりまとめ
本業務で作成する報告書について、支援業務の受託者により構成、記載内容等の確認を予定しているため、これに協力するとともに、必要に応じて修正等に対応すること。
- ・地理情報システム（GIS）データのとりまとめ
本業務で作成する地理情報システム（GIS）の電子データについて、支援業務の受託者により、データフォーマット等の確認を予定しているため、これに協力するとともに、必要に応じて修正等に対応すること。

3. 留意事項

業務実施中に、当該情報整備モデル地区において、現地調査の実施が困難な事象が判明した場合には、環境省担当官と協議の上、対応を検討することとする。

4. 業務実施期間

委託契約締結日から平成27年10月30日まで

5. 成果物

以下に示す成果物について、情報整備モデル地区ごとにそれぞれ作成し、提出すること。

- ・報告書（A4版300頁程度、軽印刷） 公開版及び非公開版 : 各3部
- ・業務資料（業務にあたり収集・作成した資料等を取りまとめたもの）（A4版300頁程度 ファイル綴じ） : 1式
- ・報告書及び地理情報システム（GIS）データ等の電子データを収納した電子媒体（DVD-R又はハードディスク等） : 3式

報告書等（業務上発生するパンフレット・冊子等の印刷物を含む。）及びその

電子データの仕様及び記載事項は、別添によること。

・提出場所：環境省 総合環境政策局 環境影響評価課 環境影響審査室

6. 著作権等の扱い

- (1) 成果物に関する著作権、著作隣接権、商標権、商品化権、意匠権及び所有権（以下「著作権等」という。）は、環境省が保有するものとする。
- (2) 受託者は自ら制作・作成した著作物に対し、いかなる場合も著作権者人格権を行使しないものとする。
- (3) 成果物に含まれる受託者又は第三者が権利を有する著作物等（以下、「既存著作物」という。）の著作権等は、個々の著作者等に帰属するものとする。
- (4) 納入される成果物に既存著作物等が含まれる場合には、受託者が当該既存著作物の使用に必要な費用の負担及び使用許諾契約等に係る一切の手続を行うものとする。

7. 情報セキュリティの確保

受託者は、下記の点に留意して、情報セキュリティを確保するものとする。

- (1) 受託者は、委託業務の開始時に、委託業務に係る情報セキュリティ対策とその実施方法及び管理体制について環境省担当官に書面で提出すること。
- (2) 受託者は、環境省担当官から要機密情報を提供された場合には、当該情報の機密性の格付けに応じて適切に取り扱うための措置を講ずること。
また、委託業務において受託者が作成する情報については、環境省担当官からの指示に応じて適切に取り扱うこと。
- (3) 受託者は、環境省情報セキュリティポリシーに準拠した情報セキュリティ対策の履行が不十分と見なされるとき又は受託者において委託業務に係る情報セキュリティ事故が発生したときは、必要に応じて環境省担当官の行う情報セキュリティ対策に関する監査を受け入れること。
- (4) 受託者は、環境省担当官から提供された要機密情報が業務終了等により不要になった場合には、確実に返却し又は廃棄すること。
また、委託業務において受託者が作成した情報についても、環境省担当官からの指示に応じて適切に廃棄すること。
- (5) 受託者は、委託業務の終了時に、本業務で実施した情報セキュリティ対策を報告すること。

(参考) 環境省情報セキュリティポリシー

<http://www.env.go.jp/other/gyosei-johoka/sec-policy/full.pdf>

8. その他

受託者は、本仕様書に疑義が生じたとき、本仕様書により難しい事由が生じたとき、あるいは本仕様書に記載のない細部については、環境省担当官と速やかに協議しその指示に従うこと。

(別添)

1. 報告書等の仕様及び記載事項

報告書等の仕様は、「環境物品等の調達の推進に関する基本方針」（平成27年2月3日変更閣議決定。以下「基本方針」という。）の「印刷」の判断の基準を満たすこと。

なお、「資材確認票」（基本方針198頁、表3参照）及び「オフセット印刷又はデジタル印刷の工程における環境配慮チェックリスト」（基本方針199頁、表4参照）を提出するとともに、印刷物にリサイクル適性を表示する必要がある場合は、以下の表示例を参考に、裏表紙等に表示すること。

リサイクル適性の表示：印刷用の紙にリサイクルできます

この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準にしたがい、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料〔Aランク〕のみを用いて作製しています。

なお、リサイクル適性が上記と異なる場合は環境省担当官と協議の上、基本方針(<http://www.env.go.jp/policy/hozen/green/g-law/kihonhoushin.html>)を参考に適切な表示を行うこと。

2. 電子データの仕様

- (1) Microsoft 社 Windows7 SP1 上で表示可能なものとする。
- (2) 使用するアプリケーションソフトについては、以下のとおりとする。
 - ・文章：ワープロソフト Justsystem 社一太郎（2011 以下）、又は Microsoft 社 Word（ファイル形式は Word2010 以下）
 - ・計算表：表計算ソフト Microsoft 社 Excel（ファイル形式は Excel2010 以下）
 - ・画像：BMP 形式又は JPEG 形式
- (3) (2) による成果物に加え、「PDF ファイル形式」による成果物を作成すること。
- (4) 以上の成果物の格納媒体は DVD-R 等とする。事業年度及び事業名称等を収納ケース及び DVD-R 等に必ずラベルにより付記すること。
- (5) 文字ポイント等、統一的な事項に関しては環境省担当官の指示に従うこと。

3. その他

成果物納入後に受託者側の責めによる不備が発見された場合には、受託者は無償で速やかに必要な措置を講ずること。

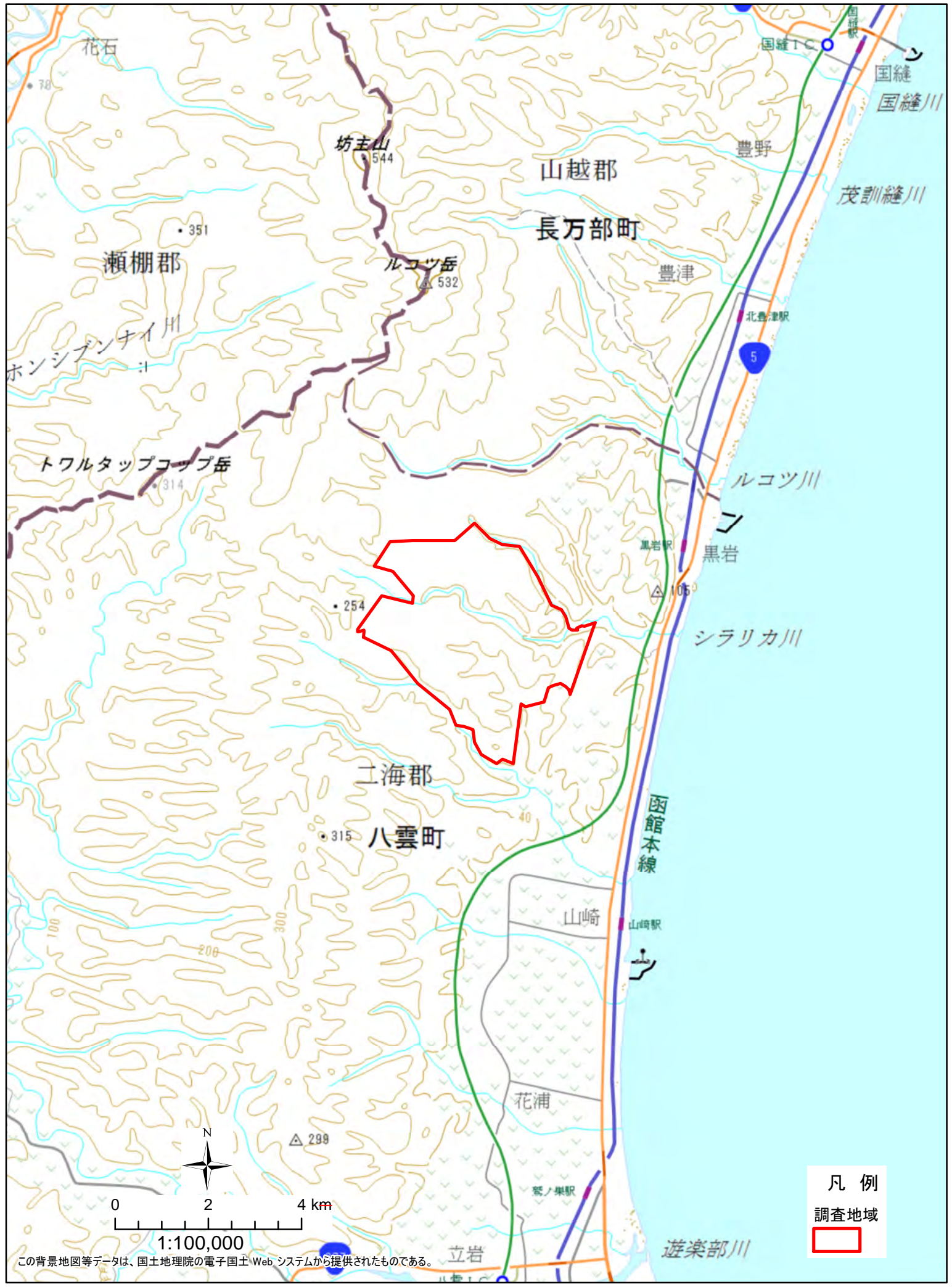


図 北海道八雲町山崎情報整備モデル地区

北海道八雲町山崎情報整備モデル地区において
陸上風力発電所に係る計画段階環境配慮書を想定した調査項目

陸上風力発電所の環境影響評価準備書を想定した調査仕様		本情報整備モデル地区における調査項目 ○：本地区で実施する項目 －：本地区では実施しない項目				【参考】 現地調査の年間調査回数及び時期	
環境要素の区分		地域ヒアリング調査	現地調査		本仕様書の対象の調査回数及び時期		
動物	重要な種及び注目すべき生息地		哺乳類	○			○
		鳥類	○	○	鳥類相(任意調査)	3回(春季, 繁殖期, 夏季)	5回(春季, 繁殖期, 夏季, 秋季, 冬季)
		希少猛禽類(イヌワシ等)	○	○	繁殖期生息確認調査(定点法)	4回(4月, 5月, 6月, 7月)	7回(繁殖期を基本とする)
		希少猛禽類(海ワシ類)	○	－	－	－	－
		渡り鳥	○	－	－	－	－
		ガン, ハクチョウ類	○	－	－	－	－
		爬虫類・両生類	○	○	両生類相・爬虫類相(直接観察法)	2回(春季, 夏季)	3回(春季, 夏季, 秋季)
		魚類	○	○	魚類相(捕獲調査)	2回(春季, 夏季)	3回(春季, 夏季, 秋季)
		昆虫類	○	○	昆虫類相(任意採集)	2回(春季, 夏季)	3回(春季, 夏季, 秋季)
	底生動物	○	－	－	－	－	
植物	重要な種及び重要な群落	植物相	○	－	－	－	－
		植生	○	○	植生	－	1回(初夏～初秋)
生態系	地域を特徴づける生態系	○	○	生態系(現地踏査)	－	1回(現地踏査等)	
景観	主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観	○	○	主要な眺望景観	1回(着葉期)	2回(着葉期, 落葉期)	
人と自然との触れ合いの活動の場	主要な人と自然との触れ合いの活動の場	○	－	－	－	－	

<留意事項>

1. 本事業における地域ヒアリング調査及び現地調査の標準仕様(調査項目、調査密度、調査頻度等)は別紙2のとおりである。詳細は別紙2の該当項目を確認すること。
2. 現地調査の実施にあたっては、安全性等の観点から調査の実施が困難と判断される場合には、担当官と協議の上で対応を検討する。

平成 27 年度風力発電等環境アセスメント基礎情報整備モデル事業
(情報整備モデル地区の地域固有環境情報調査事業) 委託業務

地域ヒアリング調査及び現地調査の標準仕様

1. 陸上風力発電所における環境影響評価準備書を想定した調査仕様(表 1-1～表 1-16)
2. 陸上風力発電所における計画段階環境配慮書を想定した調査仕様(表 2-1～表 2-15)
3. 洋上風力発電所における計画段階環境配慮書を想定した調査仕様(表 3-1～表 3-18)

1. 陸上風力発電事業における環境影響評価準備書を想定した調査仕様

表 1-1 水の濁り

調査すべき情報	・浮遊物質量の状況
調査の基本的な手法	①現地調査 ・浮遊物質量 (SS) ・土質
①現地調査	
調査項目-1	●浮遊物質量 (SS)
調査手法	・採水は直接試料容器で採取するか、またはバケツ等で採水して試料容器に移すものとする。 ・SS の測定方法は、「水質汚濁に係る環境基準について」(昭和 46 年環境庁告示第 59 号) JIS_K_0102 10.2.1 に定められる方法とする。 調査に当たっては、SS 濃度に関わりのある河川流量及び水温を記録する。
調査地域	・一般排水の排出先である河川等の公共用水域とし、河川等の状況が的確に把握できる範囲を設定する。なお、支流、利水状況を考慮し、調査地域及び調査地点の配置に留意する。
調査地点	・調査地域の面積に応じ、200ha 毎に 2 地点配置する。
調査期間等	・調査の期間及び時期は、出水時と平常時を含む 4 回とする。
調査結果のまとめ	・調査結果は、調査位置図、調査結果一覧表、環境基準と比較のできる表等でとりまとめる。
留意事項	・流れ等の変動のメカニズムとそれを支配する主な要因は、水域の特性により大きく異なることに留意して、調査地点を選定すること。
参考図書	・環境アセスメント技術ガイド ー大気・水・土壌・環境負荷ー (社団法人 日本環境アセスメント協会、2006) ・発電所に係る環境影響評価の手引 (原子力安全・保安院編、2007 年改訂) ※各参考図書については、最新版が発行された場合にはそれに倣うこと。
調査項目-2	●土質
調査手法	・試料を採取する。試料は、JIS に定める方法 (標準ふるいによるふるい分け及び比重計使用による沈降法) により分析する。
調査地域	・「浮遊物質量」の調査地点が含まれる水系内の地域とする。
調査地点	・調査地域の面積に応じて、200ha 毎に 1 地点配置する。
調査期間等	・期間中 1 回とする。
調査結果のまとめ	・土壌沈降試験結果を一覧表等により整理する。
留意事項	
参考図書	・「浮遊物質量」に同じ。

表 1-2 哺乳類

調査すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> ・哺乳類相 ・重要な種及び注目すべき生息地の分布、生息の状況及び生息環境の状況
調査の基本的な手法	①地域ヒアリング調査
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の専門家（大学、博物館、NPO（コウモリの会等）、関連学会等）
	②現地調査
	<ul style="list-style-type: none"> ・哺乳類相（フィールドサイン法） ・哺乳類相（小型哺乳類・トラップ調査） ・コウモリ類（バットディテクター法）
②現地調査	
調査項目-1	●哺乳類相（フィールドサイン法）
調査手法	<ul style="list-style-type: none"> ・痕跡観察法ともいい、中・大型哺乳類相の調査法として一般的である。調査対象地を踏査してフィールドサイン（糞や足跡、食痕、巣、爪痕、クマダナ、モグラ塚等の生息痕跡）を発見し、生息する動物種を確認する。重要な種を確認した場合はGPSを用いて位置データを取得する。また、主に中型哺乳類のデータを補完するため、無人撮影法も併用して行う。無人撮影法では哺乳類が頻繁に往来しているような「けもの道」あるいは小径に設置し、カメラの視野内にさつまあげや魚肉ソーセージ等の餌を置く。無人撮影装置は1調査地域あたり2台を1晩設置する。
調査地域	・設定された調査地域
調査地点	・調査地域の面積に応じ、200ha 毎に約 2km の踏査ルートを 2 ルート設定する。
調査期間等	・4 回（春季、夏季、秋季、冬季）
調査結果のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果は、確認種のリスト、確認地点及び状況を図、表等に整理するとともに、その解説を平易に既述する。 ・重要な種及び注目すべき生息地については、保全すべき理由、確認地点及び状況並びに生息環境を図、表等に整理するとともに、その解説を平易に既述する。 ・確認地点等は、1/10,000～1/25,000 程度の図に整理する。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドサインによる種の同定は熟練を要するため、同定の根拠（足跡、糞、食痕、巣等の生活痕跡の特徴や写真等）を明らかにすること。
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境アセスメント技術マニュアル（財団法人自然環境研究センター、1995） ・風力発電のための環境影響評価マニュアル（第2版）（独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構、2006） <p>※各参考図書については、最新版が発行された場合にはそれに倣うこと。</p>
調査項目-2	●哺乳類相（小型哺乳類・トラップ調査）
調査手法	<ul style="list-style-type: none"> ・捕獲調査に使用するトラップとしては、捕殺式のもの、生け捕り式のもの（シャーマントラップ等）があるが、本調査では環境への影響の小さい生け捕り式のトラップの使用を基本とする。 ・トラップの設置個数は、原則として調査区当たり 20 個程度、付け餌には、生ピーナッツ、サツマイモ、油揚げ、チーズなど対象種の食性に応じて選択する。設置期間は原則として2晩とし、設置日の翌日にも捕獲状況の確認を行う。 ・捕獲した個体については、種の判定根拠として外部形態（全長、尾長、後足長、耳長、体重）及び性別を計測・記録する。 ・モグラ目のトガリネズミ、ジネズミなど一般のトラップでは捕獲が難しく、フィールドサイン調査でも確認が困難な種の生息が想定される場合は、地中に容器を埋設し、墜落させて捕獲するピットホールトラップ（墜落缶：直径 5～25cm、深さ 10～30cm 程度）を採用する。 ・なお、モグラ類については、フィールドサイン（塚穴等）により確認する。ただし、2 種以上が混生する地域ではピットホールトラップ又はモルトラップにより捕獲調査し同定する。
調査地域	・設定された調査地域
調査地点	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域の面積に応じて、100ha 毎に 4 地点配置する。（ただし、20 地点を上限とする。）
調査期間等	・4 回（春季、夏季、秋季、冬季）
調査結果のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果は、確認種のリスト、確認地点及び状況を図、表等に整理するとともに、その解説を平易に既述する。 ・重要な種及び注目すべき生息地については、保全すべき理由、確認地点及び状況並びに生息環境を図、表等に整理するとともに、その解説を平易に既述する。

留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・確認地点等は、1/10,000～1/25,000 程度の図に整理する。 ・ネズミ科（ドブネズミ、クマネズミ及びハツカネズミを除く）、モグラ科、トガリネズミ科に属する鳥獣の捕獲に際しては、環境大臣または都道府県知事の許可が必要であるため所要の手続きを行うこと。 ・生け捕り式トラップ（シャーマントラップ等）を用いて生体を捕獲した場合には、外部形態の計測は一般に困難であるため、種の同定は慎重に行うこと。
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・「哺乳類相（フィールドサイン法）」に同じ。
調査項目-3	●コウモリ類（バットディテクター法）
調査手法	<ul style="list-style-type: none"> ・バットディテクター（超音波探知機）を用いて、調査地域及びその周囲におけるコウモリ類の出現状況を確認する。
調査地域	<ul style="list-style-type: none"> ・設定された調査地域
調査地点	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域の面積に応じ、200ha 毎に約 2km の踏査ルートを 2 ルート設定する。
調査期間等	<ul style="list-style-type: none"> ・3 回（春季、夏季、秋季）
調査結果のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果は、確認種のリスト、確認地点及び状況を図、表等に整理するとともに、その解説を平易に既述する。 ・重要な種及び注目すべき生息地については、保全すべき理由、確認地点及び状況並びに生息環境を図、表等に整理するとともに、その解説を平易に既述する。 ・確認地点等は、1/10,000～1/25,000 程度の図に整理する。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・バットディテクターを用いた調査においては、すべての種の判定を行うことは困難であり、文献その他の資料あるいは聞き取りによる調査の結果等と併せて調査結果の整理を行う必要がある。現地調査の際には、目的とする種に適した周波数を設定する必要があるため、複数の種を対象にする場合には、周波数の切り替えを行いながら調査を行う必要がある。なお判定が困難な場合においても、確認位置、周波数帯、反応回数等は別途整理しておくこと。 ・夜間調査のため、現地調査の際には反射帯等を着用し安全確保を図ること。 ・調査地域の近傍にコウモリの生息する洞窟の情報があれば、洞窟への出入りを把握する地点を設け、バットディテクターによるセンサス（対象種により周波数設定）を行うこと。出入りがある場合、冬眠期や保育期に洞窟内の目視調査を行うこと。 ・農地部の中に転々と残る樹林を利用する種がいるため、農地部であっても注意すること。
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・コウモリ識別ハンドブック改訂版（コウモリの会、2011） ・風力発電のための環境影響評価マニュアル（第 2 版）（独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構、2006） ・コウモリ類の調査の手引き（案）（国土交通省国土技術政策総合研究所、2006）

表 1-3 鳥類

調査すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥類相 ・重要な種及び注目すべき生息地の分布、生息の状況及び生息環境の状況
調査の基本的な手法	<p>①地域ヒアリング調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の専門家（大学、博物館、NPO（日本野鳥の会の地域支部等）、関連学会等） <p>②現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥類相（ラインセンサス） ・鳥類相（定点センサス） ・鳥類相（任意調査）
②現地調査	
調査項目-1	●鳥類相（ラインセンサス）
調査手法	<ul style="list-style-type: none"> ・一定の調査ルートでの観察幅内に出現する種類、個体数等を直接観察あるいは鳴き声などで確認し、記録する。調査ルートは2km程度を基本とし、地形、植生等を考慮のうえ、さまざまな環境が調査対象となるように設定する。観察幅は森林では調査ラインより片側25m、草原では片側50m、調査者の歩行速度は1.5～2.0km/hとする。 ・確認した鳥類はその位置を地図上に記録するとともに、種名、個体数、確認環境、繁殖行動等を記録する。
調査地域	・設定された調査地域
調査地点	・調査地域の面積に応じ、200ha毎に2kmのラインを2ライン設定する。
調査期間等	・5回（春季、繁殖期、夏季、秋季、冬季）
調査結果のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果は、確認種のリスト、確認地点及び状況を図、表等に整理するとともに、その解説を平易に既述する。 ・重要な種及び注目すべき生息地については、保全すべき理由、確認地点及び状況並びに生息環境を図、表等に整理するとともに、その解説を平易に既述する。 ・確認地点等は、1/10,000～1/25,000程度の図に整理する。
留意事項	風の強い日や雨の日などは確認率が低下するので調査を避けること。
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境アセスメント技術マニュアル（財団法人自然環境研究センター、1995） ・風力発電のための環境影響評価マニュアル（第2版）（独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構、2006） <p>※各参考図書については、最新版が発行された場合にはそれに倣うこと。</p>
調査項目-2	●鳥類相（定点センサス）
調査手法	<ul style="list-style-type: none"> ・湖沼、河川、海域（干潟、河口を含む）などの特定の環境に生息するカモ類、サギ類、シギ・チドリ類及び牧草地周辺に生息する猛禽類等を対象として、見通しのきく場所に定点を設定し、出現する種類、個体数等を直接観察により記録する。視野範囲内の識別が可能な距離までを対象とし、一定時間観察を行う。 ・確認した鳥類はその位置を地図上に記録するとともに、種名、個体数、確認環境、繁殖行動等を記録する。 ・調査時間は1調査定点につき30分程度とし、調査時間帯は鳥類の活動が活発な日の出～午前中とする。
調査地域	・設定された調査地域
調査地点	・調査地域の面積に応じて、100ha毎に2地点配置する。（ただし、10地点を上限とする。）
調査期間等	・5回（春季、繁殖期、夏季、秋季、冬季）
調査結果のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果は、確認種のリスト、確認地点及び状況を図、表等に整理するとともに、その解説を平易に既述する。 ・重要な種及び注目すべき生息地については、保全すべき理由、確認地点及び状況並びに生息環境を図、表等に整理するとともに、その解説を平易に既述する。 ・確認地点等は、1/10,000～1/25,000程度の図に整理する。
参考図書	「鳥類相（ラインセンサス）」に同じ。
調査項目-3	●鳥類相（任意調査）
調査手法	<ul style="list-style-type: none"> ・任意の観察によりを実施し、鳴き声や目視などで確認した種を記録する。 ・確認した鳥類はその位置を地図上に記録するとともに、種名、個体数、確認環境、繁殖行動等を記録する。
調査地域	・設定された調査地域
調査地点	・調査地域の面積に応じて、200ha毎に約2kmの踏査ルートを1ルート設定する。
調査期間等	・5回（春季、繁殖期、夏季、秋季、冬季）

調査結果の まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果は、確認種のリスト、確認地点及び状況を図、表等に整理するとともに、その解説を平易に既述する。 ・重要な種及び注目すべき生息地については、保全すべき理由、確認地点及び状況並びに生息環境を図、表等に整理するとともに、その解説を平易に既述する。 ・確認地点等は、1/10,000～1/25,000 程度の図に整理する。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・日出前、日没後の時間帯において夜間の調査を実施し、フクロウ、ミゾゴイ等の夜行性の鳥類の確認にも努めること。
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境アセスメント技術マニュアル（財団法人自然環境研究センター、1995） ・風力発電のための環境影響評価マニュアル（第2版）（独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構、2006） <p>※各参考図書については、最新版が発行された場合にはそれに倣うこと。</p>

表 1-4 希少猛禽類（イヌワシ等）

調査すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> ・希少猛禽類相（イヌワシ等） ・重要な種及び注目すべき生息地の分布、生息の状況及び生息環境の状況
調査の基本的な手法	<ul style="list-style-type: none"> ①地域ヒアリング調査 ・地域の専門家（大学、博物館、NPO（日本イヌワシ研究会等）、関連学会等） ②現地調査 ・繁殖期生息確認調査（定点法）
②現地調査	
調査項目-1	●繁殖期生息確認調査（定点法）
調査手法	<ul style="list-style-type: none"> ・猛禽類の生息状況及び営巣の可能性の有無の確認を目的に、定点観察を行う。対象種は、環境省及び各県のレッドリスト等の該当種を基本とし、専門家等の指摘があった場合は適宜追加する。 ・定点は、調査地域を広く見渡せる地点に設定し、各地点から同時観測を行う。調査は、1地点あたり1人の調査員を配置し、双眼鏡（倍率8～10倍程度）、望遠鏡（20～60倍程度）を使用して、猛禽類の確認に努める。 ・調査は、1回あたり3日連続を基本とし、調査時間は、9時～16時頃を中心としながら、対象種の生活サイクル等を考慮のうえ、必要に応じて早朝の時間帯の調査を組み合わせること。 ・猛禽類を確認した場合は、飛翔軌跡等の確認位置を1/10,000～1/25,000程度の図に記載するとともに、種名、年齢、性別、個体の特徴、行動、目測等による飛翔高度等を記録する。地点間では互いに無線機等で連絡を取り合いながら、猛禽類の追跡に努める。また、個体識別に努めるとともに、ディスプレイや餌運び、巣材運び等の繁殖行動に注意して観察し、営巣地の絞り込みを行う。
調査地域	・設定された調査地域及びその周辺域
調査地点	・調査地域の面積に応じ、100ha毎に2地点配置する。（ただし、10地点を上限とする。）
調査期間等	<ul style="list-style-type: none"> ・7回（繁殖期を基本とする） ※イヌワシのほか、クマタカ、オオタカの生息も想定 ・連続した3日/回
調査結果のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・猛禽類の記録は、飛翔軌跡等の確認位置を1/10,000～1/25,000程度の図に整理するとともに、種名、出現日時、年齢、性別、個体の特徴、行動等を表に整理する。 ・飛翔高度は、出現の記録の主たる飛翔高度、最高標高値、最低標高値等を整理する。とりまとめに際しては、高度の観測方法ならびに基準面を明記する。 ・調査結果をもとに、調査地域での営巣の可能性等、利用状況について考察する。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・繁殖期の前期の調査ではペアの存在及び繁殖行動について、繁殖期の後期の調査では巣立ち雛の生息について、それぞれ確認すること。 ・現地調査にあたっては、調査圧を与えないよう（特に繁殖に影響を及ぼさないよう）注意すること。 ・開けた場所で狩りを行う猛禽類の場合には、事業により新たに出現した開放地が採餌場所となり、結果的にバードストライクの危険性を高めてしまう可能性もある。このような観点も踏まえた上で、現状の採餌場所の状況（位置や規模）の把握に努めること。 ・種によっては、巣を中心とした高度利用域の外であっても、飛び地的に狩場があることが知られている。このような狩場や狩場と巣との移動経路の存在についても念頭に置いて調査を実施すること。
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・「猛禽類保護の進め方」（改訂版）（平成24年環境省） ※各参考図書については、最新版が発行された場合にはそれに倣うこと。

表 1-5 希少猛禽類（海ワシ類）

調査すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> ・希少猛禽類相（海ワシ類） ・重要な種及び注目すべき生息地の分布、生息の状況及び生息環境の状況
調査の基本的な手法	①地域ヒアリング調査
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の専門家（大学、博物館（斜里町立博物館等）、NPO、関連学会等）
	②現地調査
	<ul style="list-style-type: none"> ・越冬期生息状況調査（定点法） ・繁殖状況確認調査（定点法）
②現地調査	
調査項目-1	●越冬期生息状況調査（定点法）
調査手法	<ul style="list-style-type: none"> ・海ワシ類の生息状況及び営巣の有無の確認を目的に、定点観察を行う。対象種は、環境省及び各県のレッドリスト等の該当種を基本とし、専門家等の指摘があった場合は適宜追加する。 ・定点は、調査地域を広く見渡せる地点に設定し、海ワシ類の出現状況に応じた適切な地点に配置する。調査は、1地点あたり1人の調査員を配置し、双眼鏡（倍率8～10倍程度）、望遠鏡（20～60倍程度）を使用して、海ワシ類の確認に努める。 ・調査は、1回あたり3日連続を基本とし、調査時間は、9時～16時頃を中心としながら、対象種の生活サイクル等を考慮のうえ、必要に応じて早朝の時間帯の調査を組み合わせること。 ・海ワシ類を確認した場合は、飛翔軌跡等の確認位置を1/10,000～1/25,000程度の図に記載するとともに、種名、年齢、性別、個体の特徴、行動、目測等による飛翔高度等を記録する。地点間では互いに無線機等で連絡を取り合いながら、海ワシ類の追跡に努める。また、個体識別に努めるとともに、採食場の位置や行動に注意して観察する。
調査地域	・設定された調査地域及びその周辺域
調査地点	・調査地域の面積に応じ、100ha毎に2地点配置する。 (ただし、10地点を上限とする。)
調査期間等	<ul style="list-style-type: none"> ・2回（11～12月に1回、1～2月に1回） ・連続した3日/回
調査結果のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・海ワシ類の記録は、飛翔軌跡等の確認位置を1/10,000～1/25,000程度の図に整理するとともに、種名、出現日時、年齢、性別、個体の特徴、行動、飛翔高度等を表に整理する。 ・飛翔高度は、出現の記録の主たる飛翔高度、最高標高値、最低標高値等を整理する。とりまとめに際しては、高度の観測方法ならびに基準面を明記する。 ・調査結果をもとに、調査地域の利用状況について考察する。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・河川や沿岸のほか、漁港等での採食行動に注意して調査を行うこと。 ・越冬個体は特定の越冬地を持たず、秋から春にかけて連続的に移動していることが多いため、初冬と厳冬期、北帰直前などでは分布状況が大きく異なる。調査時期や定点の配置などに注意すること。 ・渡り中は特に崖の起点部において飛翔行動が低くなるため、崖の起点部についても調査を行うこと。 ・オジロワシは少数個体で分布しているケースもあることに留意すること。 ・特に海岸崖部については、崖直上に発生する上昇気流を利用するため、この上昇気流の利用範囲の把握に努めること。 ・海岸部では海風により発生する上昇気流を利用することが確認されており、陸風の状態では飛翔は著しく少なくなる。調査時には風向きにも注意すること。
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・「猛禽類保護の進め方」（改訂版）（平成24年環境省） <p>※各参考図書については、最新版が発行された場合にはそれに倣うこと。</p>
調査項目-2	●繁殖状況確認調査（定点法）
調査手法	<ul style="list-style-type: none"> ・オジロワシの生息状況及び営巣の有無の確認を目的に、定点観察を行う。 ・定点は、調査地域を広く見渡せる地点に設定し、オジロワシの出現状況に応じた適切な地点に配置する。調査は、1地点あたり1人の調査員を配置し、双眼鏡（倍率8～10倍程度）、望遠鏡（20～60倍程度）を使用して、オジロワシの確認に努める。 ・調査は、1回あたり3日連続を基本とし、調査時間は、9時～16時頃を中心としながら、オジロワシの生活サイクル等を考慮のうえ、必要に応じて早朝の時間帯の調査を組み合わせること。 ・オジロワシを確認した場合は、飛翔軌跡等の確認位置を1/10,000～1/25,000程度

	<p>の図に記載するとともに、種名、齢、性別、個体の特徴、行動等を記録する。地点間では互いに無線機等で連絡を取り合いながら、オジロワシの追跡に努める。また、個体識別に努めるとともに、ディスプレイや餌運び、巣材運び等の繁殖行動に注意して観察し、営巣地の絞り込みを行う。</p>
調査地域	<ul style="list-style-type: none"> ・設定された調査地域及びその周辺域 1km の範囲
調査地点	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域の面積に応じ、100ha 毎に 2 地点配置する。 (ただし、10 地点を上限とする。)
調査期間等	<ul style="list-style-type: none"> ・3 回 (5 月、7 月、3 月) ・連続した 3 日/回
調査結果のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・猛禽類の記録は、飛翔軌跡等の確認位置を 1/10,000~1/25,000 程度の図に整理するとともに、種名、出現日時、齢、性別、個体の特徴、行動、飛翔高度等を表に整理する。 ・飛翔高度は、出現の記録の主たる飛翔高度、最高標高値、最低標高値等を整理する。とりまとめに際しては、高度の観測方法ならびに基準面を明記する。 ・調査結果をもとに、調査地域での営巣の可能性等、利用状況について考察する。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・現地調査にあたっては、調査圧を与えないよう (特に繁殖に影響を及ぼさないよう) 注意すること。 ・河川や沿岸のほか、漁港等での採食行動に注意して調査を行うこと。 ・抱卵期に入ると、雄は雌が抱卵する営巣木周辺の目立つ特定の場所にとまることが多くなるため、この行動を確認すること。 ・育雛期にカラフトマスが遡上する河川が周辺にある場合には、繁殖を行う可能性があるため注意すること。冬期にサケが遡上する河川とは異なる可能性があることにも注意すること。
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・「猛禽類保護の進め方」(改訂版)(平成 24 年環境省) <p>※各参考図書については、最新版が発行された場合にはそれに倣うこと。</p>

表 1-6 渡り鳥

調査すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> ・渡り鳥相 ・重要な種及び注目すべき生息地の分布、生息の状況及び生息環境の状況
調査の基本的な手法	<ul style="list-style-type: none"> ①地域ヒアリング調査 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の専門家（大学、博物館、NPO（日本野鳥の会の各支部等）、関連学会等） ②現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・小鳥類渡り調査 ・猛禽類渡り調査
②現地調査	
調査項目-1	●小鳥類渡り調査
調査手法	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地点は、見通しのきく場所に定点を設定し、1 地点に 2 名を配置する。調査対象は、群れで渡りをする鳥類とし、渡り鳥の種、飛翔経路、高度（目測等で標高を記録）、大凡の個体数等を記録する。調査時間は、対象とする種に合わせ、日中だけでなく、必要に応じて夜明け～早朝、夕方～日没などの時間帯などにも実施する。
調査地域	<ul style="list-style-type: none"> ・設定された調査地域
調査地点	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域の面積に応じ、100ha 毎に 2 地点配置する。（ただし、10 地点を上限とする。）
調査期間等	<ul style="list-style-type: none"> ・6 回（3～5 月に 3 回、9～11 月に 3 回） ※対象地の渡りの時期に合わせて設定 ・連続した 3 日/回
調査結果のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果は、渡り鳥の種、飛翔経路、高度、大凡の個体数、気象条件（風向、風速等）等を図、表等に整理するとともに、その解説を平易に既述する。 ・また、対象地の植生、地形等の自然環境と渡りのルート・中継地の結びつきを整理する。 ・確認地点等は、1/10,000～1/25,000 程度の図に整理する。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・中型鳥類、小鳥類などについては、群れで渡る種を対象とすることが現実的である。 ・調査時間は、対象とする種に合わせ、日中だけでなく、必要に応じて夜明け～早朝、夕方～日没などの時間帯などにも実施する。 ・岬は基本的に渡りの経路となりやすいため、注意が必要である。 ・一般に知られている渡り観察ポイント等は、アクセスが良い、渡り規模が比較的大きい、視界が得られやすいなど、観察し易い場所で行われていることが多い。しかし実際にはこのようなポイント以外でも渡りが行われているため、調査地域内にそのような渡り観察ポイントが無くとも、留意が必要である。 ・渡りの規模については、渡りの時期を通して連続的に変化していることから、調査時期等は春の渡り・秋の渡りそれぞれ 3 回程度を基本とする。
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・風力発電のための環境影響評価マニュアル（第 2 版）（独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構、2006） ・鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き（環境省自然環境局野生生物課、平成 23 年） ※各参考図書については、最新版が発行された場合にはそれに倣うこと。
調査項目-2	●猛禽類渡り調査
調査手法	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地点は、見通しのきく場所に定点を設定し、1 地点に 2 名を配置する。調査対象は、渡りをするタカ類（サシバ、ハチクマ、ノスリ、アカハラダカ等）とし、渡り鳥の種、飛翔経路、高度（目測で標高を記録）、大凡の個体数等を記録する。調査時間は、対象とする種に合わせ、日中だけでなく、必要に応じて夜明け～早朝、夕方～日没などの時間帯などにも実施する。
調査地域	<ul style="list-style-type: none"> ・設定された調査地域
調査地点	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域の面積に応じ、100ha 毎に 2 地点配置する。（ただし、10 地点を上限とする。）
調査期間等	<ul style="list-style-type: none"> ・6 回（3～5 月に 3 回、9～11 月に 3 回） ※対象地の渡りの時期に合わせて設定 ・連続した 3 日/回
調査結果のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・「小鳥類渡り調査」に同じ
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・猛禽類の渡りでは、標高 3000m の尾根を越えて渡る個体も確認されているため、地

	<p>形等に基づいて評価することは避けるべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・猛禽類などについて、『鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き』（環境省自然環境局野生生物課、平成 23 年）では調査結果が報告されていない地域や、渡りの規模が小さい地点があるが、調査不十分の地点も含まれているため、注意が必要である。 ・秋に日本列島を北上するハイタカの渡りが知られているが、これについてはほとんど既知のデータが無いことから、現地調査に当たっては十分に注意する必要がある。 ・調査時間は、対象とする種に合わせ、日中だけでなく、必要に応じて夜明け～早朝、夕方～日没などの時間帯などにも実施すると良い。 ・岬は基本的に渡りの経路となりやすいため、注意が必要である。 ・一般に知られている渡り観察ポイント等は、アクセスが良い、渡り規模が比較的大きい、視界が得られやすいなど、観察し易い場所で行われていることが多い。しかし実際にはこのようなポイント以外でも渡りが行われているため、調査地域内にそのような渡り観察ポイントが無くとも、留意が必要である。 ・渡りの規模については、渡りの時期を通して連続的に変化していることから、調査時期等は春の渡り・秋の渡りそれぞれ 3 回程度を基本とする。
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・「小鳥類渡り調査」に同じ

表 1-7 ガン、ハクチョウ類

調査すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> ・ガン、ハクチョウ類相 ・重要な種及び注目すべき生息地の分布、生息の状況及び生息環境の状況
調査の基本的な手法	①地域ヒアリング調査
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の専門家（大学、博物館、NPO（日本雁を保護する会等）、関連学会等）
	②現地調査
	<ul style="list-style-type: none"> ・ガン、ハクチョウ類相（ねぐら分布、餌場分布、移動経路確認調査）
②現地調査	
調査項目	●ガン、ハクチョウ類相（ねぐら分布、餌場分布、移動経路確認調査）
調査手法	<p>[ねぐら分布調査]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガン、ハクチョウ類のねぐらとなっている湖沼、河川、海域（干潟、河口を含む）において、見通しのきく場所に定点を設定し、種類、個体数等を直接観察により記録する。確認したガン、ハクチョウ類は種名、個体数を記録するとともに、ねぐらの位置や環境を記録する。 ・調査は、ガン、ハクチョウ類がねぐらにいる早朝もしくは、夕方に行う。 <p>[餌場分布調査]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガン、ハクチョウ類の餌場となっている水田や湿地等において、車両で移動しながらガン、ハクチョウ類の種類、個体数、分布位置等を直接観察により記録する。確認したガン、ハクチョウ類は種名、個体数を記録するとともに、餌場の位置や環境を記録する。 ・調査は、ガン、ハクチョウ類が餌場にいる日中に行う。 <p>[移動経路調査]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ねぐらと餌場の間の見通しのきく場所に地点を設定（1地点に2名を配置）し、ねぐらと餌場を移動するガン、ハクチョウ類の移動経路を把握する。ガン、ハクチョウ類が通過した場合には、種、飛翔経路、高度（目測等で標高を記録）、大凡の個体数等を記録する。 ・調査は、ガン、ハクチョウ類がねぐらから餌場に向かう朝と、餌場からねぐらに帰る夕方に行う（1回の調査でねぐら入り、ねぐら出の調査は各2回実施）。
調査地域	<ul style="list-style-type: none"> ・設定された調査地域周辺における水域や水田等
調査地点	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域の面積に応じ、100ha 毎に3地点配置する。（ただし、15地点を上限とする。）
調査期間等	<ul style="list-style-type: none"> ・3回（渡来期、厳冬期、北帰期） ※対象地の渡りの時期に合わせて設定 ・連続した3日/回
調査結果のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ねぐら分布、餌場分布調査結果は、種名、個体数、環境条件等を表に整理するとともに、ねぐらや餌場の位置は図に整理し、その解説を平易に既述する。 ・移動経路調査結果は、種、飛翔経路、高度、大凡の個体数、気象条件（風向、風速等）等を図、表等に整理するとともに、その解説を平易に既述する。 ・確認地点等は、1/10,000～1/25,000程度の図に整理する。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ねぐらや餌場での調査では、ガン、ハクチョウ類を脅かさないよう適度な距離をとるように調査員の配置に留意すること。 ・集結地からの飛び立ちなどについて飛翔高度と集結地からの距離についての報告などがあるが、渡りのための飛翔時と採餌場との往来の時の飛翔とでは高度が異なるため、留意すること。 ・ハクチョウ類では、現在知られている大規模集結地のほかに、集結地分散化のための候補地や小規模集結地も存在する。そのような場所では将来的な集結地や採餌場としての利用状況にも留意すること。
参考図書	

表 1-8 爬虫類・両生類

調査すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> ・爬虫類相・両生類相 ・重要な種及び注目すべき生息地の分布、生息の状況及び生息環境の状況
調査の基本的な手法	①地域ヒアリング調査
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の専門家（大学、博物館、NPO、関連学会等）
	②現地調査
	<ul style="list-style-type: none"> ・両生類相・爬虫類相（直接観察法）
②現地調査	
調査項目	●両生類相・爬虫類相（直接観察法）
調査手法	<p>[両生類]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接観察（鳴き声の確認を含む）及び採集により実施する。両生類の一部は、卵・幼生により種を同定することが可能なため、産卵期に卵塊の観察も併せて行う。重要な種を確認した場合はGPSを用いて位置データを取得する。 <p>[爬虫類]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接観察（鳴き声の確認を含む）及び採集により実施する。爬虫類の一部は、脱皮殻により種を同定することが可能なため、脱皮殻の観察も併せて行う。なお、直接観察調査において種名の確認が困難な場合は、採集を行う。重要な種を確認した場合はGPSを用いて位置データを取得する。
調査地域	<ul style="list-style-type: none"> ・設定された調査地域
調査地点	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域の面積に応じ、200ha 毎に約 2km の踏査ルートをも 2 ルート設定する。（調査は哺乳類調査と併せて実施してもよい）
調査期間等	<ul style="list-style-type: none"> ・3 回（春季、夏季、秋季） ・2 日/回
調査結果のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果は、確認種のリスト、確認地点及び状況を図、表等に整理するとともに、その解説を平易に既述する。 ・重要な種及び注目すべき生息地については、保全すべき理由、確認した地点及び状況並びに生息環境を図、表等に整理するとともに、その解説を平易に既述する。 ・確認地点等は、1/10,000～1/25,000 程度の図に整理する。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・両生類、爬虫類とも、道路上で轢死体として確認されるものも多いため、調査地域内の道路上を観察することも効果的である。 ・爬虫類は、普段石垣の隙間や地中の穴、草むらなどに潜んでおり、人目につくのは採食や日光浴のために活動している時だけである。種によって日光浴等をする場所が少しずつ異なっており、各種のこうした生態的特性をあらかじめ承知しておくこと
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境アセスメント技術マニュアル（財団法人自然環境研究センター、1995） ・風力発電のための環境影響評価マニュアル（第 2 版）（独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構、2006） <p>※各参考図書については、最新版が発行された場合にはそれに倣うこと。</p>

表 1-9 魚類

調査すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> ・魚類相 ・重要な種及び注目すべき生息地の分布、生息の状況及び生息環境の状況
調査の基本的な手法	①地域ヒアリング調査
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の専門家（大学、博物館（地域の水族館等）、NPO、関連学会等）
	②現地調査
	<ul style="list-style-type: none"> ・魚類相（捕獲調査）
②現地調査	
調査項目	●魚類相（捕獲調査）
調査手法	<ul style="list-style-type: none"> ・投網、タモ網、サデ網、セルビン、かご網等を用いた捕獲調査を実施し、確認された魚類の種名、個体数等を記録する。採捕した個体は、種名の記載、体長（種別の最大個体及び最少個体）の計測後、放流する。現地で同定が難しい種や留意すべき種については、必要最小限の個体をホルマリン標本にして持ち帰る。1 調査地点の採捕時間は2時間程度とし、調査地点以外においても適宜に目視観察や採集を行い、調査地域の魚類相の把握を行う。 ・なお、使用する漁具は、調査地域の状況に応じて適宜選定する。
調査地域	<ul style="list-style-type: none"> ・設定された調査地域
調査地点	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域の面積に応じ、100ha 毎に 4 地点配置する。（ただし、20 地点を上限とする。）
調査期間等	<ul style="list-style-type: none"> ・3 回（春季、夏季、秋季）
調査結果のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果は、確認種のリスト、確認地点及び状況を図、表等に整理するとともに、その解説を平易に既述する。 ・重要な種及び注目すべき生息地については、保全すべき理由、確認した地点及び状況並びに生息環境を図、表等に整理するとともに、その解説を平易に既述する。 ・確認地点等は、1/10,000～1/25,000 程度の図に整理する。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・捕獲にあたっては、特別採捕許可（都道府県水産関係部署）、内水面漁業協同組合の同意等の所要の手続きを行うこと。
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境アセスメント技術マニュアル（財団法人自然環境研究センター、1995） ・平成 18 年度版河川水辺の国勢調査基本調査マニュアル〔河川版〕（魚類調査編）（国土交通省河川局河川環境課、財団法人リバーフロント整備センター） <p>※各参考図書については、最新版が発行された場合にはそれに倣うこと。</p>

表 1-10 昆虫類

調査すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> ・昆虫類相 ・重要な種及び注目すべき生息地の分布、生息の状況及び生息環境の状況
調査の基本的な手法	①地域ヒアリング調査
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の専門家（大学、博物館、NPO、関連学会等）
	②現地調査
	<ul style="list-style-type: none"> ・昆虫類相（任意採集、ベイトトラップ、ライトトラップ）
②現地調査	
調査項目	●昆虫類相（任意採集、ベイトトラップ、ライトトラップ）
調査手法	<p>[任意採集]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スウィーピング法、ビーティング法、直接観察（バッタ類、セミ類など鳴き声による観察も含む）等により実施する。重要な種を確認した場合は、GPSを用いて位置データを取得する。 <p>[ベイトトラップ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・糖蜜や腐肉等の誘引物をプラスチックコップ等に入れ、口が地表面と同じになるように埋設し、地表徘徊性の昆虫を捕獲する。1地点あたりのトラップ数は20個程度とする。 <p>[ライトトラップ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブラックライト等を利用した、カーテン法又は捕虫箱法により行う。
調査地域	<ul style="list-style-type: none"> ・設定された調査地域
調査地点	<p>調査地域の面積に応じて次の地点数で実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・任意採集：200ha 毎に約2kmの踏査ルートを2ルート設定する。 ・ベイトトラップ：100ha 毎に4地点配置（ただし、20地点を上限とする。） ・ライトトラップ：100ha 毎に2地点配置（ただし、10地点を上限とする。）
調査期間等	<ul style="list-style-type: none"> ・3回（春季、夏季、秋季）
調査結果のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果は、確認種のリスト、確認地点及び状況を図、表等に整理するとともに、その解説を平易に既述する。 ・重要な種及び注目すべき生息地については、保全すべき理由、確認した地点及び状況並びに生息環境を図、表等に整理するとともに、その解説を平易に既述する。 ・確認地点等は、1/10,000～1/25,000程度の図に整理する。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・チョウ類等では、小さな草地在り地域個体群の最後の繁殖地となっている場合があるので留意すること。 ・風を利用する種としてトンボ類、チョウ類等のほか、例えば海浜群落性の昆虫類などもいることに留意すること。 ・調査地域に存在する草地については、自然草地であるか人工草地であるのかを把握した上で、調査を行うこと。 ・昆虫については、渡りを行うことが知られている種もあることにも留意すること。 ・ライトトラップ調査時の気象は無風で気温、湿度の高い時がより効果的である点にも留意して調査を実施すること。
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境アセスメント技術マニュアル（財団法人自然環境研究センター、1995） ・風力発電のための環境影響評価マニュアル（第2版）（独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構、2006） <p>※各参考図書については、最新版が発行された場合にはそれに倣うこと。</p>

表 1-11 底生動物

調査すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> ・底生動物相 ・重要な種及び注目すべき生息地の分布、生息の状況及び生息環境の状況
調査の基本的な手法	①地域ヒアリング調査 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の専門家（大学、博物館、NPO、関連学会等）

表 1-12 植物相

調査すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> ・種子植物その他主な植物に関する植物相の状況 ・重要な種及び重要な群落の分布、生育の状況及び生育環境の状況
調査の基本的な手法	①地域ヒアリング調査 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の専門家（大学、博物館、NPO、関連学会等） ②現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・植物相 ・付着藻類
②現地調査	
調査項目-1	●植物相
調査手法	<ul style="list-style-type: none"> ・植物相調査は、調査地域内を任意に踏査する方法により実施する。調査の対象は維管束植物（シダ植物、種子植物）とし、現地で同定が困難な種については標本を採集し、室内で同定を行う。重要な種が確認された場合には、確認位置及び確認個体（株）数、生育環境について記録するとともに写真撮影とGPSによる位置情報の取得に努める。
調査地域	<ul style="list-style-type: none"> ・選定された調査地域
調査地点	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域の植生分布に応じ、必要な調査密度を設定する。
調査期間等	<ul style="list-style-type: none"> ・4回（春季、夏季、秋季、早春季）
調査結果のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果は、確認種のリスト、確認地点及び状況を図、表等に整理するとともに、その解説を平易に既述する。 ・重要な種及び注目すべき生息地については、保全すべき理由、確認した地点及び状況並びに生息環境を図、表等に整理するとともに、その解説を平易に既述する。 ・確認地点等は、1/10,000～1/25,000程度の図に整理する。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果については、調査地域のみではなく、地域全体の中での位置づけを把握したうえで、考察すること。
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境アセスメント技術マニュアル（財団法人自然環境研究センター、1995） ・風力発電のための環境影響評価マニュアル（第2版）（独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構、2006） ※各参考図書については、最新版が発行された場合にはそれに倣うこと。

表 1-13 植生

調査すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> ・種子植物その他主な植物に関する植生の状況 ・重要な種及び重要な群落の分布、生育の状況及び生育環境の状況
調査の基本的な手法	①地域ヒアリング調査
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の専門家（大学、博物館、NPO、関連学会等）
	②現地調査
	<ul style="list-style-type: none"> ・植生
②現地調査	
調査項目	●植生
調査手法	<p>[植生分布調査]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存資料、空中写真を参考に、植生や土地利用の状況によって植物群落を区分した現存植生図を作成する。 <p>[コドラート調査]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植生分布調査において区分された植物群落について、各植物群落を代表する箇所にコドラートを設定し、ブラウンブランケの植物社会学的植生調査法により調査区毎に植生高、階層構造、出現種数、種組成、被度、群度、成立立地等を調査する。また、群落の階層構造を記録するため、断面模式図を作成するとともに、コドラート内の写真撮影を行う。
調査地域	<ul style="list-style-type: none"> ・設定された調査地域
調査地点	<p>[コドラート調査]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域において代表的な植生を選定し、10地点配置する。
調査期間等	<ul style="list-style-type: none"> ・1回（初夏～初秋）
調査結果のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果は、現存植生図、植生調査票、組成表、断面模式図等として整理し、その解説を平易に既述する。現存植生については群落別の面積を明示する。 ・重要な群落については、保全すべき理由、分布状況を図、表等に整理するとともに、その解説を平易に既述する。 ・また、本調査結果や空中写真をもとに過去から現在の植生の変化について考察する。 ・現存植生図は、1/10,000～1/25,000程度の図に整理する。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地点は、対象地域の植生の特徴を把握できるよう、代表的な群落のほか、特徴的な群落（脆弱な群落や特殊性の高い群落等）を網羅して設定すること。 ・調査結果については、調査地域のみではなく、地域全体の中での位置づけを把握したうえで、考察すること。
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境アセスメント技術マニュアル（財団法人自然環境研究センター、1995） ・風力発電のための環境影響評価マニュアル（第2版）（独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構、2006） <p>※各参考図書については、最新版が発行された場合にはそれに倣うこと。</p>

表 1-14 地域を特徴づける生態系

調査すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> ・動植物その他の自然環境に係る概況 ・複数の注目種等の生態、他の動植物との関係又は生息環境若しくは生育環境の状況
調査の基本的な手法	①地域ヒアリング調査 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の専門家（大学、博物館、NPO、関連学会等） ②現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・生態系
②現地調査	
調査項目	●生態系
適用条件	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域の面積に応じ、200ha 毎に約 2km の踏査ルート を 2 ルート設定する。
調査手法	<ul style="list-style-type: none"> ・文献調査や現地調査結果をもとに動植物の概況、その他の自然環境に係る概況、対象地域の基盤環境と生物群集の関係について把握したうえで、現地踏査により微地形や水系、土地利用等に関する目視確認を行う。
調査地域	<ul style="list-style-type: none"> ・設定された調査地域
調査期間等	1 回
調査結果のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・動植物調査の現地調査結果等を整理し、地域を特徴づける生態系について、類型区分図、生態系断面模式図、食物連鎖模式図等に整理するとともに、その解説を平易に既述する。 ・また、注目種（上位性・典型性・特殊性）に位置付けられる種又は群集について抽出し、その生息・生育状況や生態、行動圏、生活史等を、既存文献及び現地調査結果等によって整理する。 ・類型区分図は、1/10,000～1/25,000 程度の図に整理する。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・文献調査、ヒアリング調査等により、「重要な自然環境のまとまりの場」を予め把握した上で、現地での確認調査を実施すること。
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・環境アセスメント技術ガイド生態系（財団法人自然環境研究センター、2002） ・自然環境アセスメント技術マニュアル（財団法人自然環境研究センター、1995） ・風力発電のための環境影響評価マニュアル（第 2 版）（独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構、2006） ※各参考図書については、最新版が発行された場合にはそれに倣うこと。

表 1-15 主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観

調査すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> ・主要な眺望点 ・景観資源 ・主要な眺望景観
調査の基本的な手法	①地域ヒアリング調査
	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村、NPO等
	②現地調査
	<ul style="list-style-type: none"> ・主要な眺望景観
②現地調査	
調査項目	●主要な眺望景観
調査手法	<ul style="list-style-type: none"> ・主要な眺望点及び景観資源の状況について文献調査等により把握を行い、抽出した主要な眺望地点について、現地調査により眺望景観の目視確認及び写真撮影を行う。 ・現況写真の撮影に当たっては、対象とする眺望景観の状況を考慮し、実際の視野角に近い画角のレンズ（35mm フィルム換算で 28mm～35mm レンズ）を使用するものとする。 ・眺望点からの景観と調査地域との関係を把握しやすいようにパノラマ撮影も行う。
調査地域	<ul style="list-style-type: none"> ・選定された調査地域周辺
調査地点	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域の面積に応じ、200ha 毎に 3 地点配置する。（ただし、9 地点を上限とする。）
調査期間等	<ul style="list-style-type: none"> ・2 回 ※着葉期、落葉期を基本とし、対象地域の景観特性に応じて設定
調査結果のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・主要な眺望点は、リスト（名称、選定理由等）及び個票（眺望点の写真、眺望特性、利用特性等）として整理する。 ・景観資源の状況は、リスト（名称、選定理由等）及び個票（景観資源の写真、資源特性、利用特性等）として整理する。 ・主要な眺望景観の状況は、リスト（名称、選定理由等）及び個票（眺望景観の写真、眺望特性、利用特性等）として整理する。 ・眺望点や景観資源の位置は、調査地域を含む広域図で位置関係が把握できるように整理する。 ・眺望景観の調査対象として選定した眺望点は、周囲の状況が確認できる位置図を整理し、撮影位置、撮影方向、撮影範囲（画角）を整理する。 ・眺望景観の写真には、調査地域に該当する範囲を明示する。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・調査時期は、眺望点の特性、眺望景観の特性、景観資源の特性に応じて、適宜選定すること。また、調査時期の設定根拠を明らかにすること。
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境アセスメント技術マニュアル（財団法人自然環境研究センター、1995） ・環境アセスメント技術ガイド 自然とのふれあい（財団法人自然環境研究センター、2002） ・風力発電のための環境影響評価マニュアル（第2版）（独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構、2006） ※各参考図書については、最新版が発行された場合にはそれに倣うこと。

表 1-16 主要な人と自然との触れ合い活動の場

調査すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> ・人と自然との触れ合いの活動の場の状況 ・主要な人と自然との触れ合いの活動の場の分布、利用の状況及び利用環境の状況
調査の基本的な手法	①地域ヒアリング調査
	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村、NPO等

2. 陸上風力発電事業における計画段階環境配慮書を想定した調査仕様

表 2-1 哺乳類

調査すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> ・哺乳類相 ・重要な種及び注目すべき生息地の分布、生息の状況及び生息環境の状況
調査の基本的な手法	①地域ヒアリング調査
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の専門家（大学、博物館、NPO（コウモリの会等）、関連学会等）
	②現地調査
	<ul style="list-style-type: none"> ・哺乳類相（フィールドサイン法）
②現地調査	
調査項目-1	●哺乳類相（フィールドサイン法）
調査手法	<ul style="list-style-type: none"> ・痕跡観察法ともいい、中・大型哺乳類相の調査法として一般的である。調査対象地を踏査してフィールドサイン（糞や足跡、食痕、巣、爪痕、クマダナ、モグラ塚等の生息痕跡）を発見し、生息する動物種を確認する。重要な種を確認した場合はGPSを用いて位置データを取得する。また、主に中型哺乳類のデータを補完するため、無人撮影法も併用して行う。無人撮影法では哺乳類が頻繁に往来しているような「けもの道」あるいは小径に設置し、カメラの視野内にさつまあげや魚肉ソーセージ等の餌を置く。無人撮影装置は1調査地域あたり2台程度を1晩設置する。
調査地域	<ul style="list-style-type: none"> ・設定された調査地域およびその周辺域
調査地点	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域の面積に応じ、200ha 毎に約2kmの踏査ルートを1ルート設定する。（ただし、10ルートを上限とする。）
調査期間等	<ul style="list-style-type: none"> ・4回（春季、夏季、秋季、冬季）
調査結果のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果は、確認種のリスト、確認地点及び状況を図、表等に整理するとともに、その解説を平易に既述する。 ・重要な種及び注目すべき生息地については、保全すべき理由、確認地点及び状況並びに生息環境を図、表等に整理するとともに、その解説を平易に既述する。 ・確認地点等は、1/10,000～1/25,000程度の図に整理する。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドサインによる種の同定は熟練を要するため、同定の根拠（足跡、糞、食痕、巣等の生活痕跡の特徴や写真等）を明らかにすること。
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境アセスメント技術マニュアル（財団法人自然環境研究センター、1995） ・風力発電のための環境影響評価マニュアル（第2版）（独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構、2006） <p>※各参考図書については、最新版が発行された場合にはそれに倣うこと。</p>

表 2-2 鳥類

調査すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> ・動物相（鳥類） ・重要な種及び注目すべき生息地の分布、生息の状況及び生息環境の状況
調査の基本的な手法	<ul style="list-style-type: none"> ①地域ヒアリング調査 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の専門家（大学、博物館、NPO（日本野鳥の会の地域支部等）、関連学会等） ②現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・鳥類相（任意調査）
②現地調査	
調査項目	●鳥類相（任意調査）
調査手法	<ul style="list-style-type: none"> ・任意の観察調査を実施し、鳴き声や直接観察などで確認し、記録する。 ・確認した鳥類はその位置を地図上に記録するとともに、種名、個体数、確認環境、繁殖行動等を記録する。
調査地域	・設定された調査地域およびその周辺域
調査地点	・調査地域の面積に応じ、200ha 毎に約 2km の踏査ルートを一ルート設定する。（ただし、10 ルートを上限とする。）
調査期間等	・5 回（春季、繁殖期、夏季、秋季、冬季）
調査結果のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果は、確認種のリスト、確認地点及び状況を図、表等に整理するとともに、その解説を平易に既述する。 ・重要な種及び注目すべき生息地については、保全すべき理由、確認地点及び状況並びに生息環境を図、表等に整理するとともに、その解説を平易に既述する。 ・確認地点等は、GIS で作図し、1/10,000～1/25,000 程度の図に整理する。
留意事項	・日出前、日没後の時間帯において夜間の調査を実施し、フクロウ、ミゾゴイ等の夜行性の鳥類の確認にも努めること。
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境アセスメント技術マニュアル（財団法人自然環境研究センター、1995） ・風力発電のための環境影響評価マニュアル（第 2 版）（独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構、2006） <p>※各参考図書については、最新版が発行された場合にはそれに倣うこと。</p>

表 2-3 希少猛禽類（イヌワシ等）

調査すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> ・動物相（希少猛禽類） ・重要な種及び注目すべき生息地の分布、生息の状況及び生息環境の状況
調査の基本的な手法	①地域ヒアリング調査
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の専門家（大学、博物館、NPO（日本イヌワシ研究会等）、関連学会等）
	②現地調査
	<ul style="list-style-type: none"> ・繁殖期生息確認調査（移動定点法）
②現地調査	
調査項目	●繁殖期生息確認調査（移動定点法）
調査手法	<ul style="list-style-type: none"> ・希少猛禽類の繁殖の可能性のある地域の有無を確認することを目的に、移動しながら定点観察を行う。対象種は、環境省及び各県のレッドリスト等の該当種を基本とし、専門家等の指摘があった場合は適宜追加する。 ・定点は、事業が想定される地域の周辺を見渡せる地点を設定し、猛禽類の出現状況に応じて移動させる。調査は、1地点あたり1人の調査員を配置し、双眼鏡（倍率8～10倍程度）、望遠鏡（20～60倍程度）を使用して、猛禽類の確認に努める。 ・調査は、1回あたり3日連続を基本とし、調査時間は、9時～16時頃を中心としながら、対象種の生活サイクル等を考慮のうえ、必要に応じて早朝の時間帯の調査を組み合わせること。 ・猛禽類を確認した場合は、飛翔軌跡等の確認位置を1/10,000～1/25,000程度の図に記載するとともに、種名、年齢、性別、個体の特徴、行動等を記録する。地点間では互いに無線機等で連絡を取り合いながら、猛禽類の追跡に努める。 ・ディスプレイや餌運び、巣材運び等の繁殖行動を記録し、対象地周辺において繁殖の可能性の種及びエリアを抽出する。
調査地域	<ul style="list-style-type: none"> ・設定された調査地域およびその周辺域
調査地点	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域の面積に応じ、200ha毎に1地点配置する。（ただし、10地点を上限とする。）
調査期間等	<ul style="list-style-type: none"> ・7回（繁殖期を基本とする） ※イヌワシのほか、クマタカ、オオタカの生息も想定 ・連続した3日/回
調査結果のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・猛禽類の記録は、飛翔軌跡等の確認位置を1/10,000～1/25,000程度の図に整理するとともに、種名、出現日時、年齢、性別、個体の特徴、行動、目測等による飛翔高度等を表に整理する。 ・飛翔高度は、目測で出現の記録の主たる飛翔高度、最高標高値、最低標高値等を整理する。とりまとめに際しては、高度の観測方法ならびに基準面を明記する。 ・調査結果をもとに、調査地域での営巣の可能性等、利用状況について考察する。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・繁殖期の前期の調査ではペアの存在及び繁殖行動について、繁殖期の後期の調査では巣立ち雛の生息について、それぞれ確認すること。 ・現地調査にあたっては、調査圧を与えないよう（特に繁殖に影響を及ぼさないよう）注意すること。 ・開けた場所で狩りを行う猛禽類の場合には、事業により新たに出現した開放地が採餌場所となり、結果的にバードストライクの危険性を高めてしまう可能性もある。このような観点も踏まえた上で、現状の採餌場所の状況（位置や規模）の把握に努めること。 ・種によっては、巣を中心とした高度利用域の外であっても、飛び地的に狩場があることが知られている。このような狩場や狩場と巣との移動経路の存在についても念頭に置いて、調査を実施すること。
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・「猛禽類保護の進め方」（改訂版）（平成24年環境省） ※各参考図書については、最新版が発行された場合にはそれに倣うこと。

表 2-4 希少猛禽類（海ワシ類）

調査すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> ・動物相（海ワシ類） ・重要な種及び注目すべき生息地の分布、生息の状況及び生息環境の状況
調査の基本的な手法	<ul style="list-style-type: none"> ①地域ヒアリング調査 ・地域の専門家（大学、博物館（斜里町立博物館等）、NPO、関連学会等）

表 2-5 渡り鳥

調査すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> ・動物相（渡り鳥） ・重要な種及び注目すべき生息地の分布、生息の状況及び生息環境の状況
調査の基本的な手法	<ul style="list-style-type: none"> ①地域ヒアリング調査 ・地域の専門家（大学、博物館、NPO（日本野鳥の会の各支部等）、関連学会等）

表 2-6 ガン、ハクチョウ類（越冬地）

調査すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> ・動物相（ガン、ハクチョウ類） ・重要な種及び注目すべき生息地の分布、生息の状況及び生息環境の状況
調査の基本的な手法	<ul style="list-style-type: none"> ①地域ヒアリング調査 ・地域の専門家（大学、博物館、NPO（日本雁を保護する会等）、関連学会等）

表 2-7 爬虫類・両生類

調査すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> 動物相（爬虫類・両生類） 重要な種及び注目すべき生息地の分布、生息の状況及び生息環境の状況
調査の基本的な手法	①地域ヒアリング調査
	<ul style="list-style-type: none"> 地域の専門家（大学、博物館、NPO、関連学会等）
	②現地調査
	<ul style="list-style-type: none"> 両生類相・爬虫類相（直接観察法）
②現地調査	
調査項目	●両生類相・爬虫類相（直接観察法）
調査手法	<p>[両生類]</p> <ul style="list-style-type: none"> 直接観察（鳴き声の確認を含む）及び採集により実施する。両生類の一部は、卵・幼生により種を同定することが可能なため、産卵期に卵塊の観察も併せて行う。重要な種を確認した場合はGPSを用いて位置データを取得する。 <p>[爬虫類]</p> <ul style="list-style-type: none"> 直接観察（鳴き声の確認を含む）及び採集により実施する。爬虫類の一部は、脱皮殻により種を同定することが可能なため、脱皮殻の観察も併せて行う。なお、直接観察調査において種名の確認が困難な場合は、採集を行う。重要な種を確認した場合はGPSを用いて位置データを取得する。
調査地域	<ul style="list-style-type: none"> 設定された調査地域およびその周辺域
調査地点	<ul style="list-style-type: none"> 調査地域の面積に応じ、200ha 毎に約 2km の踏査ルートをもとに 1 ルートを設定する。（ただし、10 ルートを上限とする。） （調査は哺乳類調査と併せて実施してもよい。）
調査期間等	<ul style="list-style-type: none"> 3 回（春季、夏季、秋季）
調査結果のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> 調査結果は、確認種のリスト、確認地点及び状況を図、表等に整理するとともに、その解説を平易に既述する。 重要な種及び注目すべき生息地については、保全すべき理由、確認した地点及び状況並びに生息環境を図、表等に整理するとともに、その解説を平易に既述する。 確認地点等は、1/10,000～1/25,000 程度の図に整理する。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> 両生類、爬虫類とも、道路上で轢死体として確認されるものも多いため、調査地域内の道路上を観察することも効果的である。 爬虫類は、普段石垣の隙間や地中の穴、草むらなどに潜んでおり、人目につくのは採食や日光浴のために活動している時だけである。種によって日光浴等をする場所が少しずつ異なっており、各種のこうした生態的特性をあらかじめ承知しておくこと。
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境アセスメント技術マニュアル（財団法人自然環境研究センター、1995） 風力発電のための環境影響評価マニュアル（第 2 版）（独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構、2006） <p>※各参考図書については、最新版が発行された場合にはそれに倣うこと。</p>

表 2-8 魚類

調査すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> ・動物相（魚類） ・重要な種及び注目すべき生息地の分布、生息の状況及び生息環境の状況
調査の基本的な手法	①地域ヒアリング調査 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の専門家（大学、博物館（地域の水族館等）、NPO、<u>関連学会</u>等）
	②現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・魚類相（捕獲調査）
③現地調査	
調査項目	●魚類相（捕獲調査）
調査手法	<ul style="list-style-type: none"> ・投網、タモ網、サデ網、セルビン、かご網等を用いた捕獲調査を実施し、確認された魚類の種名、個体数等を記録する。採捕した個体は、種名の記載、体長（種別の最大個体及び最少個体）の計測後、放流する。現地で同定が難しい種や留意すべき種については、必要最小限の個体をホルマリン標本にして持ち帰る。1 調査地点の採捕時間は2時間程度とし、調査地点以外においても適宜に目視観察や採集を行い、調査地域の魚類相の把握を行う。 ・なお、使用する漁具は、調査地域の状況に応じて適宜選定する。
調査地域	・設定された調査地域およびその周辺域
調査地点	・調査地域の面積に応じ、100ha 毎に2地点配置する。 (ただし、20地点を上限とする。)
調査期間等	・3回（春季、夏季、秋季）
調査結果のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果は、確認種のリスト、確認地点及び状況を図、表等に整理するとともに、その解説を平易に既述する。 ・重要な種及び注目すべき生息地については、保全すべき理由、確認した地点及び状況並びに生息環境を図、表等に整理するとともに、その解説を平易に既述する。 ・確認地点等は、1/10,000～1/25,000 程度の図に整理する。
留意事項	・捕獲にあたっては、特別採捕許可（都道府県水産関係部署）、内水面漁業協同組合の同意等の所要の手続きを行うこと。
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境アセスメント技術マニュアル（財団法人自然環境研究センター、1995） ・平成18年度版河川水辺の国勢調査基本調査マニュアル〔河川版〕（魚類調査編）（国土交通省河川局河川環境課、財団法人リバーフロント整備センター） ※各参考図書については、最新版が発行された場合にはそれに倣うこと。

表 2-9 昆虫類

調査すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> ・動物相（昆虫類） ・重要な種及び注目すべき生息地の分布、生息の状況及び生息環境の状況
調査の基本的な手法	①地域ヒアリング調査
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の専門家（大学、博物館、NPO、関連学会等）
	②現地調査
	<ul style="list-style-type: none"> ・昆虫類相（任意採集）
②現地調査	
調査項目	●昆虫類相（任意採集）
調査手法	<p>[任意採集]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スウィーピング法、ビーティング法、直接観察（バッタ類、セミ類など鳴き声による観察も含む）等により実施する。重要な種を確認した場合は、GPSを用いて位置データを取得する。
調査地域	・設定された調査地域およびその周辺域
調査地点	・調査地域の面積に応じ、200ha 毎に約 2km の踏査ルートを一ルート設定する。（ただし、10 ルートを上限とする。）
調査期間等	・3 回（春季、夏季、秋季）
調査結果のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果は、確認種のリスト、確認地点及び状況を図、表等に整理するとともに、その解説を平易に既述する。 ・重要な種及び注目すべき生息地については、保全すべき理由、確認した地点及び状況並びに生息環境を図、表等に整理するとともに、その解説を平易に既述する。 ・確認地点等は、1/10,000～1/25,000 程度の図に整理する。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・チョウ類等では、小さな草地在り地域個体群の最後の繁殖地となっている場合があるので留意すること。 ・風を利用する種としてトンボ類、チョウ類等のほか、例えば海浜群落性の昆虫類などもいることに留意すること。 ・調査地域に存在する草地については、自然草地であるか人工草地であるのかを把握した上で、調査を行うこと。 ・昆虫については、渡りを行うことが知られている種もあることにも留意すること。
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境アセスメント技術マニュアル（財団法人自然環境研究センター、1995） ・風力発電のための環境影響評価マニュアル（第2版）（独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構、2006） <p>※各参考図書については、最新版が発行された場合にはそれに倣うこと。</p>

表 2-10 底生動物

調査すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> ・動物相（底生動物） ・重要な種及び注目すべき生息地の分布、生息の状況及び生息環境の状況
調査の基本的な手法	①地域ヒアリング調査
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の専門家（大学、博物館、NPO、関連学会等）

表 2-11 植物相

調査すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> ・種子植物その他主な植物に関する植物相及び植生の状況 ・重要な種及び重要な群落の分布、生育の状況及び生育環境の状況
調査の基本的な手法	①地域ヒアリング調査
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の専門家（大学、博物館、NPO、関連学会等）

表 2-12 植生

調査すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> ・種子植物その他主な植物に関する植物相及び植生の状況 ・重要な種及び重要な群落の分布、生育の状況及び生育環境の状況
調査の基本的な手法	①地域ヒアリング調査
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の専門家（大学、博物館、NPO、関連学会等）
	②現地調査
	<ul style="list-style-type: none"> ・植生
②現地調査	
調査項目	●植生
調査手法	<p>[植生分布調査]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存資料、空中写真判読を参考に現地を踏査し植生や、土地利用の状況によって植物群落を区分した現存植生図を作成する。 <p>[コドラート調査]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植生分布調査において区分された植物群落について、各植物群落を代表する箇所にコドラートを設定し、ブラウン・ブランケの植物社会学的植生調査法により調査区毎に植生高、階層構造、出現種数、種組成、被度、群度、成立立地等を調査する。また、群落の階層構造を記録するため、断面模式図を作成するとともに、コドラート内の写真撮影を行う。
調査地域	<ul style="list-style-type: none"> ・植生分布調査：現存植生図の作成範囲 ・コドラート調査：設定された調査地域およびその周辺域
調査地点	<p>[コドラート調査]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域において代表的な植生を選定し、10 地点配置する。
調査期間等	<ul style="list-style-type: none"> ・1 回（初夏～初秋）
調査結果のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果は、現存植生図、植生調査票、組成表、断面模式図等として整理し、その解説を平易に既述する。 ・本調査結果や空中写真をもとに過去から現在の植生の変化について考察する。 ・重要な群落については、保全すべき理由、分布状況を図、表等に整理するとともに、その解説を平易に既述する。 ・現存植生図は、1/25,000 程度の図に整理する。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地点は、対象地域の植生の特徴を把握できるよう、代表的な群落のほか、特徴的な群落（脆弱な群落や特殊性の高い群落等）を網羅して設定すること。 ・自然環境保全基礎調査植生調査の 1/25,000 植生図が整備されている場合は、その情報を活用することができる。整備されている範囲が一部の場合には、植生境界等について整合のとれた植生図を作成することに留意すること。
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境アセスメント技術マニュアル（財団法人自然環境研究センター、1995） ・風力発電のための環境影響評価マニュアル（第 2 版）（独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構、2006） <p>※各参考図書については、最新版が発行された場合にはそれに倣うこと。</p>

表 2-13 地域を特徴づける生態系

調査すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を特徴づける生態系（「重要な自然環境のまとまりの場」の分布状況および質の状況）
調査の基本的な手法	<ul style="list-style-type: none"> ①地域ヒアリング調査 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の専門家（大学、博物館、NPO、関連学会等） ②現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・生態系
②現地調査	
調査項目	●生態系
調査手法	<ul style="list-style-type: none"> ・「重要な自然環境のまとまりの場」については、文献調査、ヒアリング調査により把握する。 また、地形、水系の分布状況、「重要な自然環境のまとまりの場」の現状を現地踏査により把握する。（植生の分布状況については、別途実施する「植生調査」の結果を活用する）
調査地域	設定された調査地域およびその周辺域
調査地点	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域の面積に応じ、200ha 毎に約 2km の踏査ルートをもとに 1 ルートを設定する。（ただし、10 ルートを上限とする。）
調査期間等	1 回
調査結果のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ①基盤環境の解析 <ul style="list-style-type: none"> ・地形・水系の現地踏査結果、別途実施する植生調査結果を解析し、地域の生態系を支える基盤環境について整理する。 ・基盤環境調査、動物（哺乳類、鳥類、両生類・爬虫類、魚類、植生の調査結果をもとに調査範囲の生態系の類型化を行い、類型区分図、生態系断面模式図、食物連鎖模式図等に整理するとともに、その解説を平易に既述する。 ・また、注目種（上位性・典型性・特殊性）に位置付けられる種又は群集について抽出し、その生息・生育状況や生態、行動圏、生活史等を、既存文献及び現地調査結果等によって整理する。 ②「重要な自然環境のまとまりの場」の抽出 <ul style="list-style-type: none"> ・文献調査、ヒアリング調査をもとに調査地域周辺における重要な生態系を選定する。 ・文献調査、ヒアリング調査、動植物調査結果をもとに、調査範囲における「重要な自然環境のまとまりの場」を抽出し、規模、分布、質的な状況を整理する。 ・類型区分図、重要な自然環境のまとまりの場の分布図は、1/25,000～1/50,000 程度の図に整理する。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・文献調査、ヒアリング調査、基盤環境調査等により、「重要な自然環境のまとまりの場」を予め把握した上で、現地での確認調査を実施すること。
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・環境アセスメント技術ガイド生態系（財団法人自然環境研究センター、2002） ・自然環境アセスメント技術マニュアル（財団法人自然環境研究センター、1995） ・風力発電のための環境影響評価マニュアル（第 2 版）（独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構、2006） <p>※各参考図書については、最新版が発行された場合にはそれに倣うこと。</p>

表 2-14 主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観

調査すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> ・主要な眺望点 ・景観資源 ・主要な眺望景観
調査の基本的な手法	①地域ヒアリング調査
	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村、NPO等
	②現地調査
	<ul style="list-style-type: none"> ・主要な眺望景観
②現地調査	
調査項目	●主要な眺望景観
調査手法	<ul style="list-style-type: none"> ・主要な眺望点及び景観資源の状況について文献調査等により把握を行い、抽出した主要な眺望地点について、現地調査により眺望景観の目視確認及び写真撮影を行う。 ・現況写真の撮影に当たっては、対象とする眺望景観の状況を考慮し、実際の視野角に近い画角のレンズ（35mm フィルム換算で 28mm～35mm レンズ）を使用するものとする。 ・眺望点からの景観と調査地域との関係を把握しやすいようにパノラマ撮影も行う。
調査地域	<ul style="list-style-type: none"> ・設定された調査地域周辺を主要な範囲とする
調査地点	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域の面積に応じ、200ha 毎に 3 地点配置する。（ただし、9 地点を上限とする。）
調査期間等	<ul style="list-style-type: none"> ・2 回 ※着葉期、落葉期を基本とし、対象地域の景観特性に応じて設定
調査結果のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・主要な眺望点は、リスト（名称、選定理由等）及び個票（眺望点の写真、眺望特性、利用特性等）として整理する。 ・景観資源の状況は、リスト（名称、選定理由等）及び個票（景観資源の写真、資源特性、利用特性等）として整理する。 ・主要な眺望景観の状況は、リスト（名称、選定理由等）及び個票（眺望景観の写真、眺望特性、利用特性等）として整理する。 ・眺望点や景観資源の位置は、調査地域を含む広域図で位置関係が把握できるように整理する。 ・眺望景観の調査対象として選定した眺望点は、周囲の状況が確認できる位置図を整理し、撮影位置、撮影方向、撮影範囲（画角）を整理する。 ・眺望景観の写真には、調査地域に該当する範囲を明示する。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・調査時期は、眺望点の特性、眺望景観の特性、景観資源の特性に応じて、適宜選定すること。また、調査時期の設定根拠を明らかにすること。
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境アセスメント技術マニュアル（財団法人自然環境研究センター、1995） ・環境アセスメント技術ガイド 自然とのふれあい（財団法人自然環境研究センター、2002） ・風力発電のための環境影響評価マニュアル（第 2 版）（独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構、2006） <p>※各参考図書については、最新版が発行された場合にはそれに倣うこと。</p>

表 2-15 主要な人と自然の触れ合い活動の場

調査すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> ・人と自然との触れ合いの活動の場の状況 ・主要な人と自然との触れ合いの活動の場の分布、利用の状況及び利用環境の状況
調査の基本的な手法	①地域ヒアリング調査
	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村、NPO等

3. 洋上風力発電事業における計画段階環境配慮書を想定した調査仕様

表 3-1 鳥類

調査すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥類相（海生鳥類相、陸生鳥類相、海ワシ類） ・重要な種及び注目すべき生息地の分布、生息の状況及び生息環境の状況 ・繁殖地、越冬地（ねぐら）の分布状況、渡りの状況
調査の基本的な手法	①地域ヒアリング調査
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の専門家（大学、博物館、NPO（日本野鳥の会の地域支部、日本海鳥グループ等）、漁業関係者等）
	②現地調査
	<ul style="list-style-type: none"> ・海生鳥類相（洋上センサス、繁殖地分布調査、越冬地調査） ・陸生鳥類相（スポットセンサス） ・海ワシ類（越冬期生息状況調査）
②現地調査	
調査項目-1	●海生鳥類相（洋上センサス）
調査手法	<p>調査対象海域に分布する鳥類相と出現状況を把握することを目的として実施する。 [海上部：洋上センサス] 調査地域内に設定した測線上を航走する船舶上から目視観察し、一定の観察幅内に出現する種類、個体数等を記録する。 調査測線は原則として岸沖方向に設定し、測線間隔は最大2kmとする。観察幅は両舷について片側200m程度とし、調査船の航走速度は5～15ノットを目安とする。 確認した鳥類はその位置を地図上に記録するとともに、種名、個体数、行動、目測等による飛翔高度等を記録する。</p>
調査地域	設定された調査海域
調査地点	調査海域全域の岸沖方向の測線（測線間隔：2km）
調査期間等	5回（春季、繁殖期、夏季、秋季、冬季）
調査結果のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果は、確認種のリスト、確認地点及び状況を図、表等に整理するとともに、その解説を平易に既述する。 ・重要な種及び注目すべき生息地については、保全すべき理由、確認地点及び状況ならびに生息環境を図、表等に整理するとともに、その解説を平易に既述する。 ・確認地点等は、1/25,000～1/50,000の図に整理する。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・本調査では、調査対象海域の分布する鳥類相を把握することを目的とすることから、調査時期、調査時間帯に留意して調査を行うこと。このため、地域の状況に精通した有識者などに出現種、出現時期、出現時刻などの情報を得た上で、調査計画を立案すること。 ・調査対象海域の全域または一部が港湾区域内となる場合は、所管の海上保安部又は港長の作業許可を得ること。
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境アセスメント技術マニュアル（財団法人自然環境研究センター、1995） ・風力発電のための環境影響評価マニュアル（第2版）（独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構、2006） ・野鳥と洋上風力発電—影響とその評価（野鳥保護資料集第28集）（日本野鳥の会、2011） ・海上海鳥センサス、海岸漂着海鳥調査、海鳥の外部計測・解剖マニュアル（日本海鳥グループ） <p>※各参考図書については、最新版が発行された場合にはそれに倣うこと。</p>
調査項目-2	●陸生鳥類相（スポットセンサス）
調査手法	<p>海岸及び洋上センサスで確認できない汀線付近を繁殖、ねぐら、採餌などで利用する鳥類相の把握を目的として実施する。 [海岸部：スポットセンサス] 海岸線に沿って調査ルートを設け、一定間隔ごと（2km程度）の定点において10分間の個体数記録を行い、再び一定間隔だけ移動し、次の定点で同様の個体数記録を行い、これを連続して行う。 確認した鳥類はその位置を地図上に記録するとともに、種名、個体数、行動等を記録する。</p>
調査地域	設定された調査海域の海岸部

調査地点数	調査海域に近接する海岸線に対し、5点以上／海岸線延長10kmの間隔で設定する。
調査回数等	5回（春季、繁殖期、夏季、秋季、冬季）
調査結果のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> 調査結果は、確認種のリスト、確認地点及び確認状況を図、表等に整理するとともに、その解説を平易に既述する。 重要な種及び注目すべき生息地が確認された場合は、保全すべき理由、確認地点及び状況ならびに生息環境を図、表等に整理するとともに、その解説を平易に既述する。 確認地点等は、1/25,000～1/50,000の図に整理する。
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> 野鳥と洋上風力発電－影響とその評価（野鳥保護資料集第28集）（日本野鳥の会、2011） 海辺の生物国勢調査マニュアル（案） ※各参考図書については、最新版が発行された場合にはそれに倣うこと。
調査項目-3	●海ワシ類（越冬期生息状況調査）
調査手法	<p>海ワシ類の生息状況の有無の確認を目的に、スポットセンサスによる分布状況確認を行う。</p> <p>調査は、海岸線10kmあたりに調査班1班を配置し、概ね海岸線2km間隔で定点を設け、各定点あたり1時間について、目視ならびに双眼鏡や望遠鏡を用いた観察を行い、順次定点を移動する。なお、定点配置は2kmあたり1地点を基本とするが、漁港や河口等の特に海ワシ類の出現が期待できる場所を優先して設定する。また、調査時間は、昼間7時間を中心とするが、対象種の生活サイクル等を考慮のうえ、早朝の時間帯の調査を組み合わせる。</p> <p>調査日程は、1回の調査で各定点について連続した3日間を設定する。</p> <p>海ワシ類を確認した場合は、飛翔軌跡、種名、齢、性別、個体の特徴、行動、目測等による飛翔高度などを記録する。</p>
調査地域	設定された調査地域の海岸部
調査地点数	調査海域に近接する海岸線に対し、5点／海岸線延長10kmの間隔で設定する。
調査期間	2回（12～2月の間で出現が期待できる時期に設定する） 連続した3日間/回
調査結果のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> 海ワシ類の記録は、飛翔軌跡などの確認位置を1/10,000～1/25,000の図に整理するとともに、種名、出現日時、齢、性別、個体の特徴、飛翔高度、行動などを表に整理する。また、その解説を平易に既述する。 飛翔高度は、出現の記録の主たる飛翔高度、最高高度、最低高度を記録する。とりまとめに際しては、高度の観測方法ならびに基準面を明記する。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> 特に海域部の出現状況に注目して調査を行うこと。 越冬個体は特定の越冬地を持たず、秋から春にかけて連続的に移動していることが多いため、初冬と厳冬期、北帰直前などでは分布状況が大きく異なる。調査時期や定点の配置などに留意すること。
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> 猛禽類保護の進め方（改訂版）（環境省、2012） ※各参考図書については、最新版が発行された場合にはそれに倣うこと。

表 3-2 海棲哺乳類（鯨類、鰭脚類等）

調査すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> ・海棲哺乳類相（鯨類相、鰭脚類等相） ・重要な種及び注目すべき生息地の分布、生息の状況及び生息環境の状況
調査の基本的な手法	<p>①地域ヒアリング調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の専門家（大学、博物館、試験研究機関、漁業関係者、NPO等） ・（一財）日本鯨類研究所（ストランディングレコードの確認など） <p>②現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鯨類相（音響学的方法） ・鰭脚類等相（目視観察）
②現地調査	
調査項目-1	●鯨類相（音響学的方法）
調査手法	<p>調査海域に出現する可能性がある鯨類相ならびにその出現時期を把握することを目的として実施する。</p> <p>[曳航観測]</p> <p>調査地域内に設定した測線上を航走する船舶で水中録音機を曳航し、スナメリ及び同種以外の鯨類の種類、頭数等を記録する。</p> <p>調査測線は岸沖方向に設定し、測線間隔は最大2kmとする。調査船の航走速度は5～8ノットとし、1日あたりの曳航距離は30kmを目安とする。</p> <p>調査に使用する水中録音機は、水中における声の頻度、方位、時刻を記録できるものとし、70kHz±20kHzならびに120kHz±20kHzの2周波数帯を取得できるものとする。</p> <p>[定点観測]</p> <p>調査海域の水深20m程度^注の鯨類の出現が最も期待できる代表1点において、水中録音機を上下層に1ヶ月間を係留し、鯨類の出現状況を観測する。</p> <p>調査に使用する水中録音機は、水中における声の頻度、方位、時刻を記録できるものとし、70kHz±20kHzならびに120kHz±20kHzの2周波数帯を取得できるものとする。</p> <p>水中録音機の設置深さは、上層は水面から1/3の深さ、下層は海底から1/3の深さとする。</p> <p>（注：調査海域の水深が20mに満たない場合は、最も深い箇所）</p>
調査地域	設定された調査海域
調査地点	<ul style="list-style-type: none"> ・曳航観測：調査海域全域の岸沖方向の測線（測線間隔：2km） ・定点観測：調査海域を代表する水深20m程度の1地点（2層）
調査期間等	繁殖期（春季）、繁殖期以外（夏季など）に各1回の観測を行う。
調査結果のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果は、確認種のリスト、確認地点及び状況を図、表等に整理するとともに、その解説を平易に既述する。 ・確認地点等は、1/25,000～1/50,000程度の図に整理する。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・現地調査だけでは必ずしも網羅的な情報が得られない可能性があることから、地域の状況に精通した有識者や漁業者などに出現種、主な出現海域、出現時期、出現時刻などの情報を得た上で、調査対象海域における鯨類の出現状況を的確に把握できるよう、調査計画を立案すること。 ・調査対象海域の全域または一部が港湾区域内となる場合は、所管の海上保安部又は港長の作業許可を得ること。
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境調査計測辞典 第3巻 沿岸域編 ・海洋動物の音響観測（海洋音響学会） ・水中生物音響HP（http://cse.fra.affrc.go.jp/akamatsu/at/homepage.html） <p>※各参考図書については、最新版が発行された場合にはそれに倣うこと。</p>

表 3-3 海棲爬虫類

調査すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> ・海棲爬虫類相（主にウミガメ類） ・重要な種及び注目すべき生息地の分布、生息の状況及び生息環境の状況 ・接岸時期及び産卵場の状況
調査の基本的な手法	<ul style="list-style-type: none"> ①地域ヒアリング調査 ・地域の専門家（大学、博物館、NPO（ex. 日本ウミガメ協議会、Everlasting Nature of Asia）、漁業関係者等）

表 3-4 魚等の遊泳生物

調査すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> ・魚等の遊泳生物相 ・重要な種及び生息の状況及び生息環境の状況
調査の基本的な手法	<ul style="list-style-type: none"> ①地域ヒアリング調査 ・地域の専門家（大学、水産試験場等研究機関、博物館（地域の水族館等）、漁業関係者等）

表 3-5 潮間帯動物

調査すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> ・潮間帯動物相 ・重要な種及び注目すべき生息地の分布、生息の状況及び生息環境の状況
調査の基本的な手法	<ul style="list-style-type: none"> ①地域ヒアリング調査 ・地域の専門家（大学、水産試験場、水族館・博物館 等）

表 3-6 底生動物

調査すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> ・底生動物相、種別生物量 ・重要な種及び注目すべき生息地の分布、生息の状況及び生息環境の状況
調査の基本的な手法	<ul style="list-style-type: none"> ①地域ヒアリング調査 ・地域の専門家（大学、博物館・水族館、水産試験場等）

表 3-7 動物プランクトン

調査すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> ・動物プランクトン相 ・現存量
調査の基本的な手法	<ul style="list-style-type: none"> ①地域ヒアリング調査 ・地域の専門家（大学、水産試験場 等）

表 3-8 卵・稚仔

調査すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> ・卵・稚仔相
調査の基本的な手法	<ul style="list-style-type: none"> ①地域ヒアリング調査 ・地域の専門家（大学、水産試験場 等）

表 3-9 干潟・藻場・サンゴ礁に生息する動物

調査すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> ・干潟・藻場・サンゴ礁に生息する動物 ・生息環境（水質、底質）
調査の基本的な手法	<ul style="list-style-type: none"> ①地域ヒアリング調査 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の専門家（大学、水産試験場、地域の博物館・水族館、漁業関係者 等） ②現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・干潟・藻場・サンゴ礁に生息する動物相
②現地調査	
調査項目	●干潟・藻場・サンゴ礁に生息する動物相
調査手法	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の情報や表 3-16 における「ハビタット分布調査」により確認された、「藻場・干潟・サンゴ礁」の分布域を対象に 10 地点の潜水スポット観察を行い、目視等により動物の種や生息状況、海底の状況などの基盤環境の概況を把握する。
調査地域	設定された調査海域
調査地点等	文献で藻場・干潟・サンゴ礁が確認された海岸線延長 10km 当たり 10 地点
調査期間等	文献で確認された藻場等の特性を踏まえて適切な時期に 1 回
調査結果のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・現地調査結果から、調査地点の位置、水深、海底の状況（藻場・干潟・サンゴ礁のタイプ、底質など）、確認した動物の種、個体数などを整理する。 ・整理結果について、調査地点図、確認種リスト、その他の図表に整理するとともに、その解説を平易に既述する。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・調査実施に際しては、地元の漁業協同組合の承諾を得てから実施すること。 ・必要に応じて海上保安部への届出を行うこと。 ・潜水作業に際しては、潜水旗の掲示、船上監視員や潜水補助員を配置するなどにより、十分な安全管理を行うこと。
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・海洋調査技術マニュアルー海洋生物調査編ー <p>※各参考図書については、最新版が発行された場合にはそれに倣うこと。</p>

表 3-10 植物相

調査すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> ・陸上（砂浜）植物相 ・重要な種の分布、生育の状況及び生育環境の状況
調査の基本的な手法	<ul style="list-style-type: none"> ①地域ヒアリング調査 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の専門家（大学、博物館、水産試験場、NPO等）

表 3-11 植生

調査すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> ・砂浜植生 ・重要な群落の分布、生育の状況及び生育環境の状況
調査の基本的な手法	<ul style="list-style-type: none"> ①地域ヒアリング調査 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の専門家（大学、博物館、水産試験場、NPO等）

表 3-12 潮間帯植物

調査すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> ・潮間帯植物相・重要な種及び重要な群落の分布、生育の状況及び生育環境の状況
調査の基本的な手法	<ul style="list-style-type: none"> ①地域ヒアリング調査 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の専門家（大学、博物館、水産試験場、NPO等）

表 3-13 海草藻類

調査すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> ・海草藻類相 ・重要な種及び重要な群落の分布、生育の状況及び生育環境の状況
調査の基本的な手法	<ul style="list-style-type: none"> ①地域ヒアリング調査 ・地域の専門家（大学、博物館、水産試験場、NPO等）

表 3-14 植物プランクトン

調査すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> ・植物プランクトン相 ・現存量
調査の基本的な手法	<ul style="list-style-type: none"> ①地域ヒアリング調査 ・地域の専門家（大学、博物館、水産試験場、NPO等）

表 3-15 干潟・藻場・サンゴ礁に生育する植物

調査すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> ・干潟・藻場・サンゴ礁に生育する植物 ・生育環境（水質、底質）
調査の基本的な手法	<ul style="list-style-type: none"> ①地域ヒアリング調査 ・地域の専門家（大学、博物館、水産試験場、NPO等） ②現地調査 ・干潟・藻場・サンゴ礁に生育する植物相
②現地調査	
調査項目	●干潟・藻場・サンゴ礁に生育する植物相
調査手法	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の情報や表 3-16 における「ハビタット分布調査」により確認された、「藻場・干潟・サンゴ礁」の分布域を対象に 10 地点の潜水スポット観察を行い、目視等により植物の種や生育状況、海底の状況などの基盤環境の概況を把握する。
調査地域	・「干潟・藻場・サンゴ礁に生息する動物」の場合と同じ
調査期間等	・「干潟・藻場・サンゴ礁に生息する動物」の場合と同じ
調査結果のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・現地調査結果から、調査地点の位置、水深、海底の状況（藻場・干潟・サンゴ礁のタイプ、底質など）、確認した動物の種、個体数などを整理する。 ・整理結果について、調査地点図、確認種リスト、その他の図、表等に整理するとともに、その解説を平易に既述する。
留意事項	・「干潟・藻場・サンゴ礁に生息する動物」の場合と同じ
参考図書	・「干潟・藻場・サンゴ礁に生息する動物」の場合と同じ

表 3-16 地域を特徴づける生態系

調査すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> ・重要な海域生態系（藻場・干潟・サンゴ礁）の分布 ・「生態系の類型区分」、「重要な自然環境のまとまりの場の分布」及び食物網の概況 ・複数の注目種等の生態、他の動植物との関係又は生息環境若しくは生育環境の状況
調査の基本的な手法	①地域ヒアリング調査
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の専門家（大学、博物館・水族館、水産試験場等、漁業関係者、NPO等）
	②現地調査
	<ul style="list-style-type: none"> ・ハビタット分布調査
②現地調査	
調査項目	●ハビタット分布
調査手法	<ul style="list-style-type: none"> ・「藻場・干潟・サンゴ礁」について、既存の空中写真などを収集し、判読により分布範囲を特定する。また、スポット潜水により、藻場・サンゴ礁の主な構成種や生育状況（被度など）を把握する（「干潟・藻場・サンゴ礁に生息／生育する動物／植物」などの調査結果を活用する）。 ・「重要な自然環境のまとまりの場」について、文献調査、ヒアリング調査により把握するとともに、現地踏査により、基盤環境の現況について把握する。 ・基盤環境の把握は、水深、底質などを文献などにより把握するとともに、海岸及びその周辺の微地形や性状（砂浜、泥浜、岩礁、人工構造物など）、陸水流入状況などを現地踏査により把握する。
調査地域	・設定された調査地域
調査期間等	1回
調査結果のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・文献調査結果、現地踏査結果、「干潟・藻場・サンゴ礁に生息／生育する動物／植物」調査結果を解析し、主なハビタット毎に海域の生態系の概要を整理する。 ・基盤環境の解析、動植物調査結果をもとに調査区域の生態系の類型化を行い、ハビタット分布図を作成する。 ・類型区分図は、1/10,000～1/25,000程度の図に整理する。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・空中写真などの撮影時期が古い（10年以上過去のもの）場合には、最新の状況について現地踏査や地域ヒアリング等によって確認すること。 ・空中写真の撮影時期が、藻場の繁茂期ではない場合がある点に留意すること。
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・環境アセスメント技術ガイド生態系（一財 自然環境研究センター、2002） ・自然環境アセスメント技術マニュアル（一財 自然環境研究センター、1995） ・海洋生態系調査マニュアル（一財 海洋調査協会、2013） ・風力発電のための環境影響評価マニュアル（第2版）（独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構、2006） <p>※各参考図書については、最新版が発行された場合にはそれに倣うこと。</p>

表 3-17 主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観

調査すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> ・主要な眺望点 ・景観資源 ・主要な眺望景観
調査の基本的な手法	①地域ヒアリング調査
	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村、観光協会、NPO 等
	②現地調査
	<ul style="list-style-type: none"> ・主要な眺望景観
②現地調査	
調査項目	●主要な眺望景観
調査手法	<ul style="list-style-type: none"> ・主要な眺望点及び景観資源の状況について文献調査等により把握を行い、抽出した主要な眺望地点について、現地調査により眺望景観の目視確認及び写真撮影を行う。 ・現況写真の撮影に当たっては、対象とする眺望景観の状況を考慮し、実際の視野角に近い画角のレンズ（35mm フィルム換算で 28mm～35mm レンズ）を使用する。 ・眺望点からの景観と調査地域との関係を把握しやすいようにパノラマ撮影も行う。
調査地域	・設定された調査海域を眺望可能な範囲
調査地点	3～5 点/10km（海岸線延長あたり） ※調査位置は、景観特性に応じて、適宜設定する。
調査期間等	1 回以上 ※原則として、海域利用の多い夏季に実施することとするが、対象とする景観特性上、他の時期の利用が主となる場合は、適切な時期に実施する。
調査結果のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・主要な眺望点は、リスト（名称、選定理由等）及び個票（眺望点の写真、眺望特性、利用特性等）として整理する。 ・景観資源の状況は、リスト（名称、選定理由等）及び個票（景観資源の写真、資源特性、利用特性等）として整理する。 ・主要な眺望景観の状況は、リスト（名称、選定理由等）及び個票（眺望景観の写真、眺望特性、利用特性等）として整理する。 ・眺望点や景観資源の位置は、調査地域を含む広域図で位置関係が把握できるように整理する。 ・眺望景観の調査対象として選定した眺望点は、周囲の状況が確認できる位置図を整理し、撮影位置、撮影方向、撮影範囲（画角）を整理する。 ・眺望景観の写真には、調査地域に該当する範囲を明示する。
留意事項	・調査時期は、眺望点の特性、眺望景観の特性、景観資源の特性に応じて、適宜選定すること。また、調査時期の設定根拠を明らかにすること。
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境アセスメント技術マニュアル（財団法人自然環境研究センター、1995） ・環境アセスメント技術ガイド 自然とのふれあい（財団法人自然環境研究センター、2002） ・風力発電のための環境影響評価マニュアル（第 2 版）（独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構、2006） <p>※各参考図書については、最新版が発行された場合にはそれに倣うこと。</p>

表 3-18 主要な人と自然との触れ合い活動の場

調査すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> ・人と自然との触れ合いの活動の場の状況 ・主要な人と自然との触れ合いの活動の場の分布、利用の状況及び利用環境の状況
調査の基本的な手法	①地域ヒアリング調査
	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村、地域の観光協会、NPO、施設管理者等

地域固有環境情報調査事業 電子データ作成要領

第 2.9 版

平成 27 年 2 月

更新履歴

版	更新日	内容
Ver. 0	2012. 10. 24	・電子データ作成要領（案）とした
Ver. 1. 0	2012. 11. 22	・地域固有環境情報調査事業電子データ作成要領 第 1.0 版として改訂
Ver. 1. 1	2012. 12. 7	<ul style="list-style-type: none"> ・P1 複数形式点、線、面データのファイル名についての注記を追加 ・P5 データ定義書 重要種確認結果（希少猛禽）にフィールドを追加 ・P6 別表 2 重要種確認結果（希少猛禽類）属性の記述内容を修正 ・P13 4. 成果品フォルダの構成を修正 ・P14 5. 地域固有環境情報調査事業 成果品リストを追加 ・P18 サンプル図（希少猛禽）を修正 ・地域固有環境情報調査事業電子データ作成要領 第 1.1 版として改訂
Ver. 2. 0	2013. 11. 13	<ul style="list-style-type: none"> ・成果一覧を更新（表 1、表 2、表 3、表 4） ・データ定義表を更新（表 5、表 6、表 7） ・別表 1 を更新 ・別表 3 を追加 ・成果品のフォルダ構成を更新 ・成果品リストを更新 ・サンプルデータを更新 ・地域固有環境情報調査事業電子データ作成要領 第 2.0 版として改訂
Ver. 2. 1	2013. 11. 29	1. 成果データ一覧 <ul style="list-style-type: none"> ■表 1 <ul style="list-style-type: none"> ・「文献・ヒアリング調査」を「地域文献・地域ヒアリング調査」に変更 ・全てのデータに「bikou(備考)」を追加 ・011-004 自然環境保全地域：ファイル名「b_shzenkankyohozen」を「b_shizenkankyohozen」に変更 ・「010-001 漁業権」を「010-002 漁業権」に変更 ・010-002 漁業権：形式に”線”を追加、ファイル名「b_gyogyouken」を「b_gyogyouken_〇」に変更 ・011-011 都市計画区域：ファイル名「b_toshikeikak」を「b_toshikeikaku」に変更 ・011-013 海岸保全区域：ファイル名「b_kaignnhozen」を「b_kaignhozen」に変更 ・011-014 港湾区域：形式に“面”を追加 ・011-015 航路：形式に“線”を追加、「syubetu(種別)」を追加 ・「104-002 重要な自然環境のまとまりの場」を追加 ■表 2 <ul style="list-style-type: none"> ・「文献・ヒアリング調査」を「地域文献・地域ヒアリング調査」に変更 ・全てのデータに「bikou(備考)」を追加 ・202 漂砂：ファイル名を訂正 ・該当項目に●を追加 ・301 動植物：ファイル名を訂正 ・302 生態系：ファイル名を訂正 ・303 景観：ファイル名を訂正 ■表 3 <ul style="list-style-type: none"> ・報告書(公開用)の備考を訂正 ■表 4 <ul style="list-style-type: none"> ・報告書(公開用)、報告書(非公開用)の備考を訂正 2. データ定義書 <ul style="list-style-type: none"> ■表 5 <ul style="list-style-type: none"> ・全てのデータにフィールド「bikou(備考)」を追加 ・005-001 重要な種及び重要な群落、注目すべき生息地の確認結果：「koumoku(調査項目)」を「hyouji(表示項目)」に変更 「koudou(行動)」の備考を追記 「x(x座標)」「y(y座標)」の備考を追記 「syuhozon(種の保存法)」「red_kankyō(都道府県 RED)」「red_suisan(水産庁 RED)」「sonota1」「sonota2」「sonota3」の備考を変更 ・「010-001 漁業権」を「010-002 漁業権」に変更

更新履歴

版	更新日	内容
Ver. 2.1	2013. 11. 29	<ul style="list-style-type: none"> ・010-002 漁業権: 形式に“線”を追加、ファイル名「b_gyogyouken」を「b_gyogyouken_○」に変更 ・011-011 都市計画区域:区分番号・区分に「3:非線引き区域」を追加 ・011-013 海岸保全区域:ファイル名「b_kaigannhozen」を「b_kaiganhozen」に変更 ■表 5 ・水産庁 RED の区分のうち「普通」を削除 ・011-014 港湾区域:形式に“面”を追加 ・011-015 航路:形式に“線”を追加、「syubetu(種別)」を追加 ■表 6 ・水産庁 RED の区分のうち「普通」を削除 ・102-001 調査ルート・地点: 「koumoku(調査項目)」に「99:その他(追加調査など)」を追加 「syubetu(ルート・地点種別)」「bikou(備考)」の備考を追記 ・102-002 重要な種及び重要な群落、注目すべき生息地の確認結果(希少猛禽類以外): 「koumoku(調査項目)」に「99:その他(追加調査など)」を追加 「hyouji(表示項目)」「houhou(調査方法)」を追加 「koudou(行動)」「x(x座標)」「y(y座標)」「bikou(備考)」の備考を追記 ・102-003 重要な種及び重要な群落、注目すべき生息地の確認結果(希少猛禽類): 「koumoku(調査項目)」に「99:その他(追加調査など)」を追加 「hyouji(表示項目)」「houhou(調査方法)」を追加 「syousitsu1(消失)」「syousitsu2(消失状況)」の備考を変更 「koudou(行動)」「x(x座標)」「y(y座標)」「bikou(備考)」の備考を追記 ・「104-002 重要な自然環境のまとまりの場」を追加 ・105-001 眺望地点及び眺望景観の状況:区分番号「3:不明」を追加 ■別表 1 ・モデル地区を追加(H25-017～H25-034) ■別表 2 ・海ワシ類を追加 ・koudou2 に関する記入例を修正、備考を修正 ■別表 3 削除 ■表 7 ・水産庁 RED の区分のうち「普通」を削除 ・402-001 現地調査による確認種目録: 「koumoku(調査項目)」を削除 「bikou(備考)」を追加 記載例を変更 ・403-001 公開報告書 PDF ファイル管理: 「file(ファイル名)」の記載例、備考を変更 <p>3. GISデータ作成要領</p> <ul style="list-style-type: none"> ■表 8 ・測地系を変更(JGD2011) <p>4.成果品のフォルダ構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文献調査の調査地域のフォルダ(0-1_共通事項)を追加 ・任意調査のフォルダ(共通事項)を削除 <p>5.成果品リスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・座標系を記入する欄を追加 ・リストの更新に伴い、記入例を修正 <p>6. サンプルデータ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・属性表示図を修正 <p>■地域固有環境情報調査事業電子データ作成要領 第 2.1 版として改訂</p>

更新履歴

版	更新日	内容
Ver. 2.2	2013. 12. 6	<p>2. データ定義書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・属性項目のうち、該当する情報が不明の場合は空欄とせず「不明」と記入する。 ■表 5 <ul style="list-style-type: none"> ・005-001 重要な種及び重要な群落、注目すべき生息地の確認結果：「x(X座標値)」「y(Y座標)」の備考欄を「空欄(0)とする」に変更 ■表 6 <ul style="list-style-type: none"> ・102-002 重要な種及び重要な群落、注目すべき生息地の確認結果(希少猛禽類以外)：「hyouji(表示項目)」の備考欄、両生類・は虫類のコード:4を追記。「x(X座標値)」「y(Y座標)」の備考欄を「空欄(0)とする」に変更 ・102-003 重要な種及び重要な群落、注目すべき生息地の確認結果(希少猛禽類)：「x(X座標値)」「y(Y座標)」の備考欄を「空欄(0)とする」に変更 ■表7 <ul style="list-style-type: none"> ・全項目に「jid(事業ID)」を追加 ・402-001 現地調査による確認種目録：「syu(和名)」備考欄の記述を削除 <p>■地域固有環境情報調査事業電子データ作成要領 第2.2版として改訂</p>
Ver. 2.3	2014. 4. 23	<p>1. 成果データ一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域文献・地域ヒアリング調査」を「地域概況調査」に変更 ■表 1、表 2 ・格納フォルダ名を追加 ■表 3、表 4 ・該当事業、格納フォルダ名を追加 <p>2. データ定義書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域文献・地域ヒアリング調査」を「地域概況調査」に変更 ■表 1～7 ・格納フォルダ名を追加 ・形式を一部修正 ・データ型を一部修正 ・例の記載を一部修正 ・備考の記載を一部修正 <p>3. GIS データ作成要領</p> <ul style="list-style-type: none"> ・凡例色設定用レイヤファイルの注記を追加 <p>4. 成果品のフォルダ構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フォルダ構成図を修正(全モデル地区共通) ・「地域文献・地域ヒアリング調査」を「地域概況調査」に変更 <p>5. 成果品リスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業ID、地区名、想定事業、調査仕様、座標系の記入欄を追加 ・格納フォルダ名を追加 ・「地域文献・地域ヒアリング調査」を「地域概況調査」に変更 <p>別表1 事業IDを追加</p> <p>■地域固有環境情報調査事業電子データ作成要領 第2.3版として改訂</p>
Ver. 2.4	2014. 5. 23	<p>1. 成果データ一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ■表 1 <ul style="list-style-type: none"> ・002-003 自動車騒音常時監視測定地点区分名を「騒音および超低周波音」に修正 ・003-001 水質測定地点：内容を修正

更新履歴

版	更新日	内容
Ver. 2. 4	2014. 5. 23	<p>1. 成果データ一覧</p> <p>■表 1</p> <ul style="list-style-type: none"> •010 その他: 項目を「河川、湖沼および海域の利用並びに地下水の利用」に変更 格納フォルダ名を修正 •011-002 水質にかかる環境基準類型区分: 形式に「点」「線」を追加 •011-009 文化財: 形式に「点」「線」を追加 <p>2. データ定義書</p> <p>■表 5</p> <ul style="list-style-type: none"> •002-003 自動車騒音常時監視測定地点 区分名を「騒音および超低周波音」に修正 •003-001 水質測定地点: 内容を修正 •004-002 波浪: 属性項目「koumoku(項目)」のデータ型を「文字」に変更 備考の記載を取り消し •005-001 重要な種及び重要な群落、注目すべき生息地の確認結果: 属性項目「red_kankyō(環境省 RL)」のカテゴリーを修正 (CR+EN→CR) •010 その他: 項目を「河川、湖沼および海域の利用並びに地下水の利用」に変更 格納フォルダ名を修正 •011-002 水質にかかる環境基準類型区分: 形式に「点」「線」を追加 •011-009 文化財: 形式に「点」「線」を追加 <p>■表 6</p> <ul style="list-style-type: none"> •102-002 重要な種及び重要な群落、注目すべき生息地の確認結果(希少猛禽類以外): 属性項目「suisin(水深値)」の記載例を修正 属性項目「red_kankyō(環境省 RL)」のカテゴリーを修正 (CR+EN→CR) •102-003 重要な種及び重要な群落、注目すべき生息地の確認結果(希少猛禽類): 属性項目「koudou2(行動(小分類))」の記載例を修正 属性項目「red_kankyō(環境省 RL)」のカテゴリーを修正 (CR+EN→CR) <p>■表 7</p> <ul style="list-style-type: none"> •402-001 現地調査による確認種目録: フィールド名「red_kankyō(環境省 RL)」のカテゴリーを修正 (CR+EN→CR) <p>3. GIS データ作成要領 ArcView→ArcGIS</p> <p>5. 成果リスト</p> <ul style="list-style-type: none"> •002-003 自動車騒音常時監視測定地点 区分名を「騒音および超低周波音」に修正 •003-001 水質測定地点: 内容を修正 •010 その他: 項目を「河川、湖沼および海域の利用並びに地下水の利用」に変更 格納フォルダ名を修正 •011-002 水質にかかる環境基準類型区分: 形式に「点」「線」を追加 •011-009 文化財: 形式に「点」「線」を追加 <p>別表2 線データ 「koudou2」の記載例を追加</p> <p>■地域固有環境情報調査事業電子データ作成要領 第 2.4 版として改訂</p>

更新履歴

版	更新日	内容
Ver. 2.5	2014. 6. 9	<p>2. データ定義書</p> <p>■表 5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・005-001 重要な種及び重要な群落、注目すべき生息地の確認結果: 属性項目「hitoku(秘匿情報区分)」に注意書き追加 ・102-002 重要な種及び重要な群落、注目すべき生息地の確認結果(希少猛禽類以外): 属性項目「hitoku(秘匿情報区分)」のコードを”1”のみに変更 ・102-003 重要な種及び重要な群落、注目すべき生息地の確認結果(希少猛禽類): 属性項目「hitoku(秘匿情報区分)」のコードを”1”のみに変更 <p>5. 成果品リスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Web 公開の有無欄を追加 <p>6. サンプルデータ</p> <p>以下の項目に、「hitoku(秘匿情報区分)」の注意書き追加</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆102 動植物 <ul style="list-style-type: none"> 102-002 重要種確認結果(希少猛禽類以外) 102-003 重要種確認結果(希少猛禽類) <p>■地域固有環境情報調査事業電子データ作成要領 第 2.5 版として改訂</p>
Ver. 2.6	2014. 7. 2	<p>1. 成果データ一覧</p> <p>(1)GIS データ関係</p> <p>■①定型フォーマットで提出するデータ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文字コード、半角英数字に関する記載を追加 <p>■表 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・002-001～002-003: 格納フォルダ名を「1-1_大気環境の状況」に修正 ・008-001: 形式に「線」を追加 ・010-001、101-002: 格納フォルダ名を「02_水の濁り」に修正 ・102-001～102-006: 格納フォルダ名を「03_動植物」に修正 ・103-001: 格納フォルダ名を「04_植生」修正 ・104-001、104-002: 格納フォルダ名を「05_生態系」修正 ・105-001: 格納フォルダ名を「06_景観」修正 <p>■②任意フォーマットで提出するデータ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文字コード、半角英数字に関する記載を追加 <p>■表 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・202 水環境(河川一覧図)を追加 ・208 重要種(重要種確認結果 ※秘匿(公開しない)情報のみ)を追加 <p>2. データ定義書</p> <p>■表 5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・002-001～002-003: 格納フォルダ名を「1-1_大気環境の状況」に修正 ・005-001 重要な種及び重要な群落、注目すべき生息地の確認結果: 属性項目「hitoku(秘匿情報区分)」のコードを“0”のみに変更 ※秘匿情報の場合は任意フォーマットデータとして作成する。 ・008-001 交通量調査地点: 形式に「線」を追加

更新履歴

版	更新日	内容
Ver. 2.6	2014. 7. 2	<ul style="list-style-type: none"> •101-001～101-002: 格納フォルダ名を「02_水の濁り」に修正 属性項目「nengappi(調査年月日)」の記載例を修正 春期→春季、夏期→夏季 •102-001 調査ルート・地点: 格納フォルダ名を「03_動植物」に修正 属性項目「nengappi(調査年月日)」の記載例を修正 春期→春季、夏期→夏季 •102-002 重要な種及び重要な群落、注目すべき生息地の確認結果(希少猛禽類以外): 格納フォルダ名を「03_動植物」に修正 •102-003 重要な種及び重要な群落、注目すべき生息地の確認結果(希少猛禽類): 格納フォルダ名を「03_動植物」に修正 •102-004 藻場分布図: 格納フォルダ名を「03_動植物」に修正 •102-005 干潟分布図: 格納フォルダ名を「03_動植物」に修正 •102-006 サンゴ礁分布図: 格納フォルダ名を「03_動植物」に修正 •103-001 植生図: 格納フォルダ名を「04_植生」に修正 •104-001 環境類型区分図: 格納フォルダ名を「05_生態系」に修正 •104-002 重要な自然環境のまとまりの場: 格納フォルダ名を「05_生態系」に修正 •105-001 眺望地点及び眺望景観の状況: 格納フォルダ名を「06_景観」に修正 <p>5. 成果品リスト</p> <ul style="list-style-type: none"> •002-001～002-003: 格納フォルダ名を「1-1_大気環境の状況」に修正 •008-001 交通量調査地点: 形式に「線」を追加 •208 動植物 (重要種確認結果 ※秘匿(公開しない)情報のみ)を追加 101-001～101-002: 格納フォルダ名を「02_水の濁り」に修正 •102-001 調査ルート・地点: 格納フォルダ名を「03_動植物」に修正 •102-002 重要な種及び重要な群落、注目すべき生息地の確認結果(希少猛禽類以外): 格納フォルダ名を「03_動植物」に修正 •102-003 重要な種及び重要な群落、注目すべき生息地の確認結果(希少猛禽類): 格納フォルダ名を「03_動植物」に修正 •102-004 藻場分布図: 格納フォルダ名を「03_動植物」に修正 •102-005 干潟分布図: 格納フォルダ名を「03_動植物」に修正 •102-006 サンゴ礁分布図: 格納フォルダ名を「03_動植物」に修正 •103-001 植生図: 格納フォルダ名を「04_植生」に修正 •104-001 環境類型区分図: 格納フォルダ名を「05_生態系」に修正 •104-002 重要な自然環境のまとまりの場: 格納フォルダ名を「05_生態系」に修正

更新履歴

版	更新日	内容
Ver. 2.6	2014. 7. 2	<p>・105-001 眺望地点及び眺望景観の状況: 格納フォルダ名を「06_景観」に修正</p> <p>■地域固有環境情報調査事業電子データ作成要領 第2.6版として改訂</p>
Ver. 2.7	2014. 7. 8	<p>1. 成果データ一覧 (1)GIS データ関係 ■表 2 ・208 重要種(重要種確認結果 ※秘匿(公開しない)情報のみ)を削除</p> <p>2. データ定義書 ■表 5 ・005-001 重要な種及び重要な群落、注目すべき生息地の確認結果: 属性項目「hitoku(秘匿情報区分)」のコードに“1”を追加 ・102-002 重要な種及び重要な群落、注目すべき生息地の確認結果(希少猛禽類以外): 属性項目「hitoku(秘匿情報区分)」のコードに“0”を追加 ・102-003 重要な種及び重要な群落、注目すべき生息地の確認結果(希少猛禽類): 属性項目「hitoku(秘匿情報区分)」のコードに“0”を追加</p> <p>5. 成果品リスト ・002-001～002-003: 格納フォルダ名を「1-1_大気環境の状況」に修正</p> <p>6. サンプルデータ 以下の項目に、「hitoku(秘匿情報区分)」の注意書き変更 ◆102 動植物 102-002 重要種確認結果(希少猛禽類以外) 102-003 重要種確認結果(希少猛禽類)</p> <p>■地域固有環境情報調査事業電子データ作成要領 第2.7版として改訂</p>
Ver. 2.8	2014. 8. 4	<p>2. データ定義書 ■表 4 ・1 報告書(公開用) ファイル名を“[事業 ID]_houkoku.pdf”に訂正 ・2 報告書(非公開用) ファイル名を“[事業 ID]_houkoku_c.pdf”に訂正 ■表 5 ・102-002 重要な種及び重要な群落、注目すべき生息地の確認結果(希少猛禽類以外): 属性項目「suisin(水深値)」のデータ型を“小数”に変更</p> <p>3.1 成果品の形式 ■表 8 ・凡例色設定用レイヤファイル “ラベル発生の設定に <u>Maplex ラベルエンジン</u>を使用しない”との注記を追加。</p> <p>■地域固有環境情報調査事業電子データ作成要領 第2.8版として改訂</p>
Ver. 2.9	2015. 2. 19	<p>1. 成果品データ一覧 ■表 1 ・項目「地域概況調査」を「地域文献・地域ヒアリング調査」に変更 ・005 動植物 区分「重要な種及び重要な群落、注目すべき生息地」を「重要な種及び重要な群落、注目すべき生息地の分布、生息・生育の状況及び生息・生育環境の状況」に変更</p>

更新履歴

版	更新日	内容
Ver. 2.9	2015. 2. 19	<ul style="list-style-type: none"> ・101 水環境 区分「水質」を「水質(浮遊物質量の状況)」に変更 ・102 動植物 区分「重要な種及び重要な群落、注目すべき生息地」を「重要な種及び重要な群落、注目すべき生息地の分布、生息・生育の状況及び生息・生育環境の状況」に変更 <p>■4. 成果品のフォルダ構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果品フォルダ構成に注記(青字)を追加 <p>■別紙</p> <ul style="list-style-type: none"> ・別表 1 を別紙 2 に変更 ・別表 2 を別紙 1 に変更 ・別紙 2 「事業 ID」を追加、「地区名」を「市町村等」に変更 ・別紙 3 「重要種の取り扱いについての補足」を追加 <p>■地域固有環境情報調査事業電子データ作成要領 第 2.9 版として改訂</p>

目次

1. 成果データ一覧	1
(1) GISデータ関係	1
(2) データベース関係	4
(3) 報告書関係	4
2. データ定義書	5
(1) GISデータ	5
(2) データベース関係	13
3. GISデータ作成要領	14
3.1 成果品の形式	14
3.2 データの作成	15
(1) データの作成方法	15
(2) 論理構造上のエラー例	16
4. 成果品のフォルダ構成	19
5. 成果品リスト	20
6. サンプルデータ	22
別紙1 重要種確認結果（希少猛禽類、海ワシ類）属性	29
別紙2 事業ID	31
別紙3 重要種等の取り扱いについての補足	35

1. 成果データ一覧

(1) GISデータ関係

① 定型フォーマットで提出するデータ

- ・データ定義書に基づく定型フォーマットで作成するデータ
- ・WebGIS システムの収録対象
- ・ファイル形式は ESRI 社 shape ファイルとする。
- ・文字コードは Shift-JIS とする。
- ・英数字は半角を使用する。(ただし、植生の群落名に使用する “- (ハイフン)” は全角とする。

表1 定型フォーマットにて提出するデータ一覧

項目	区分	内容	陸上風力 準備書	地熱 準備書	配慮書 配慮書	陸上風力 配慮書	洋上風力 配慮書	地熱 配慮書	フォルダ名	ファイル名	形式	
地域文献・地域ヒアリング調査									01_地域概況調査			shp
001	共通	調査範囲	●	●	●	●	●	●	0-1_共通事項	b_tyosa_hani	shp 面	
002	大気環境	大気質	●	●	●	●	●	●	1-1_大気環境の状況	b_kisyou	shp 点	
		大気測定局位置	●	●	●	●	●	b_taiki		shp 点		
		騒音および超低周波音	●	●	●	●	●	b_dourosouon		shp 点		
003	水環境	水質	●	●	●	●	●	1-2_水環境の状況	b_sushitu	shp 点		
		底質調査地点	—	—	—	●	—		b_teishitu	shp 点		
		流況調査地点	—	—	—	●	—		b_ryukyou	shp 点		
004	その他の環境	地形及び地質	●	●	●	●	●	1-4_地形及び地質の状況	b_tikei_tishitsu_○	shp 点線/面		
		重要な地形・地質	●	●	●	●	●		b_harou	shp 点		
005	動植物	重要な種及び重要な群落、注目すべき生息地の分布、生息・生育の状況及び生息・生育環境の状況	●	●	●	●	●	1-5_動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況	b_dousyoku_○	shp 点線/面		
006	景観及び人と自然との触れ合い	自然的状況及び社会的状況	●	●	●	●	●	1-6_景観及び人と自然との触れ合いの活動の状況	b_keikanshigen_○	shp 点線/面		
		人と自然との触れ合いの場	●	●	●	●	●		b_hitofure_○	shp 点線/面		
007	土地利用の状況	自然的状況及び社会的状況	●	●	●	●	●	2-2_土地利用の状況	b_tochikeikaku	shp 面		
008	交通	自然的状況及び社会的状況	●	●	●	●	●	2-4_交通の状況	b_koutuuryou_○	shp 点線		
009	学校、病院、その他の施設	自然的状況及び社会的状況	●	●	●	●	●	2-5_学校、病院、その他の施設	b_gakkou_byouin	shp 点		
		集落及び住宅	●	●	●	●	●		b_juutaku_○	shp 点線/面		
010	河川、湖沼および海域の利用並びに地下水の利用	自然的状況及び社会的状況	—	—	—	●	—	2-3_河川、湖沼および海域の利用並びに地下水の利用の状況	b_gyojo	shp 面		
		漁業権	—	—	—	●	—		b_gogyouken_○	shp 線/面		
011	法令等による指定地域	自然的状況及び社会的状況	●	●	●	●	●	2-7_法令等による指定地域	b_souonruikei	shp 面		
		騒音に係る環境基準類型区分	●	●	●	●	●		b_suishituruikei_○	shp 点線/面		
		水質に係る環境基準類型区分	●	●	●	●	●		b_kokuritukokutei	shp 面		
		自然公園	●	●	●	●	●		b_shizenkankyochozen	shp 面		
		自然環境保全地域	●	●	●	●	●		b_tyoujyuu	shp 面		
		鳥獣保護区	●	●	●	●	●		b_tokuryoku	shp 面		
		特別緑地保全地区	●	●	●	●	●		b_fuuchi	shp 面		
		風致地区	●	●	●	●	●		b_keikankuiki	shp 面		
		景観区域等	●	●	●	●	●		b_bunkazai_○	shp 点線/面		
		文化財	●	●	●	●	●		b_hoannrin	shp 面		
		保安林	●	●	●	●	●		b_toshikeikaku	shp 面		
		都市計画区域	●	●	●	●	●		b_noushinhouseitei	shp 面		
		農振法指定地	●	●	●	●	●		b_kaiganhozen_○	shp 線/面		
		海岸保全区域	—	—	—	●	—		b_kowankuiki_○	shp 線/面		
		港湾区域	—	—	—	●	—		b_kouro_○	shp 線/面		
		航路	—	—	—	●	—		b_gyokokuiki_○	shp 線/面		
		漁港区域	—	—	—	●	—		b_hogosuimen	shp 面		
保護水面	—	—	—	●	—							

項目	区分	内容	陸上風力 準備書	地熱 準備書	配慮書 配慮書	陸上風力 配慮書	洋上風力 配慮書	地熱 配慮書	フォルダ名	ファイル名	形式	
現地調査									02_現地調査			shp
100	共通	調査範囲	調査地域(準備書) ※仕様書に示されている範囲	●	●	—	—	—	01_共通事項	g_tyosa_hani_j	shp 面	
			調査地域(配慮書) ※仕様書に示されている範囲	—	—	●	●	●		g_tyosa_hani_h	shp 面	
			重点調査エリア(配慮書) ※仕様書に示されている範囲	—	—	●	—	●		g_jutentyosa_hani_h	shp 面	
101	水環境	水質(浮遊物質量の状況)	水質調査地点	●	●	—	—	—	02_水の濁り	g_suishitsu_chiten	shp 点	
			土質調査地点	●	●	—	—	—		g_doshitsu_chiten	shp 点	
102	動植物	重要な種及び重要な群落、注目すべき生息地の分布、生息・生育の状況及び生息・生育環境の状況	調査ルート・地点	●	●	●	●	●	03_動植物	g_dousyoku_chiten_○	shp 点線/面	
			重要な種及び重要な群落、注目すべき生息地の確認結果(希少猛禽類以外)	●	●	●	●	●		g_dousyoku_○	shp 点線/面	
			重要な種及び重要な群落、注目すべき生息地の確認結果(希少猛禽類)	●	●	●	●	●		g_moukin_○	shp 点線/面	
			藻場分布図	—	—	—	●	—		g_mobabunpuzu	shp 面	
			干潟分布図	—	—	—	●	—		g_higatabunpuzu	shp 面	
サンゴ礁分布図	—	—	—	●	—	g_sangoshobunpuzu	shp 面					
103	植生	重要な種及び重要な群落	●	●	●	●	●	04_植生	g_syokuseizu	shp 面		
104	生態系	地域を特徴づける生態系	環境類型区分図	●	●	●	●	●	05_生態系	g_ruikeikubunzu_○	shp 線/面	
			重要な自然環境のまとまりの場	—	—	●	●	●		g_matomari_○	shp 点線/面	
105	景観	主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観	●	●	●	●	●	06_景観	g_tyoubou	shp 点		

※●：データ作成対象事業
 ※成果データの形式が点、線、面と複数ある場合、ファイル名の最後を以下のようにする。
 点データの場合：***_p (アルファベット小文字の「p」をつける)
 線データの場合：***_l (アルファベット小文字の「l」をつける)
 面データの場合：***_a (アルファベット小文字の「a」をつける)

②任意フォーマットで提出するデータ

- ・任意のフォーマットで作成するデータ。ただし、データ定義書をエクセル (MS EXCEL2007以上) で作成すること (表 5、表 6 を参照)。
- ・WebGIS システムの収録対象ではないが、利用者 (申請に基づき許可された者) には個別に配布する。
- ・点、線、面のファイル形式は ESRI 社 shape ファイル、画像データ (背景図など) の形式は Geotiff 等が望ましい。
- ・文字コードは Shift-JIS とする。
- ・英数字は半角を使用する。(ただし、植生の群落名に使用する “- (ハイフン)” は全角とする)。

表 2 任意フォーマットにて提出するデータ一覧

項目	区分	内容	陸上風力 準備書	準地熱 準備書	陸上風力 配慮書	洋上風力 配慮書	準地熱 配慮書	フォルダ名	ファイル名	形式
地域文献・地域ヒアリング調査								03_任意調査		任意
201	共通	背景情報						01_地域概況 調査	(各事業者で設定) 例:tikeizu01	geotiff
		地形図	●	●	●	●	●		(各事業者で設定)	geotiff
		航空写真	●	●	●	●	●		(各事業者で設定)	geotiff
202	河川、湖沼 及び海域の 利用	自然的状況及び社会的 状況							(各事業者で設定)	geotiff/ shp
		河川一覧図	●	●	●	●	●		(各事業者で設定)	shp 面
203	その他の環 境	地形及び地質							(各事業者で設定) 例:b_tikeibunrui	shp 面
		地形分類図	●	●	●	●	●		(各事業者で設定) 例:g_hyousa_○	shp 点 線/ 面
		漂砂	—	—	—	●	—		(各事業者で設定) 例:b_tikei_hendou_○	shp 点 線/ 面
		地形変動	—	●	—	—	●		(各事業者で設定) 例:b_totiriyou_○	shp 点 線/ 面
204	土地利用	自然的状況及び社会的 状況							(各事業者で設定) 例:b_gyogyokensettei_○	shp 点 線/ 面
		土地利用区分図	●	●	●	●	●		(各事業者で設定) 例:b_syusui_risui	shp 点
205	人口及び産 業	自然的状況及び社会的 状況							(各事業者で設定) 例:b_kowankeikaku_○	shp 点 線/ 面
		漁業権設定状況	—	—	—	●	—		(各事業者で設定) 例:g_kashiryoiki	shp 面
206	河川、湖沼 及び海域の 利用	自然的状況及び社会的 状況							(各事業者で設定)	shp 点
		取水・利水地点	●	●	●	●	●		(各事業者で設定)	shp 点
207	法令等による 指定地域	自然的状況及び社会的 状況							(各事業者で設定)	shp 点 線/ 面
		港湾計画	—	—	—	●	—		(各事業者で設定)	shp 点 線/ 面
....								
現地調査								03_任意調査		任意
301	動植物	重要種以外の分布 情報 (海棲哺乳類の分 布状況、生態系調 査で確認した動植 物種など)	●	●	●	●	●	02_現地調査	(各事業者で設定) 例: g_dousyoku_kaisui_○	shp 点 線/ 面
302	生態系	地域を特徴づける生 態系	●	●	●	●	●		(各事業者で設定) 例:g_seitaikei_○	shp 点 線/ 面
303	景観	主要な眺望点及び景 観資源ならびに主要 な眺望景観	●	●	●	●	●		(各事業者で設定) 例:g_kashiryoiki	shp 面
....								

これらは例です。GIS化されたもの全てが対象となります。

※●：データ作成対象事業

※成果データの形式が点、線、面と複数ある場合、ファイル名の最後を以下のようにする。

点データの場合：***_p (アルファベット小文字の「p」をつける)

線データの場合：***_l (アルファベット小文字の「l」(エル)をつける)

面データの場合：***_a (アルファベット小文字の「a」をつける)

(2) データベース関係

- ・ファイル形式はMS Access2007(mdb) とする。
- ・mdb ファイル名は事業 ID (別紙 2 参照) とする。例：H25-001.mdb
- ・文字コードは Shift-JIS とする。
- ・英数字は半角を使用する。(ただし、植生の群落名に使用する“- (ハイフン)”は全角とする。

表 3 データベース関係一覧

項目	内容	陸上風力 準備書	準地熱 準備書	陸上風力 配慮書	洋上風力 配慮書	地熱 配慮書	フォルダ名	テーブル名	形式	備考
1 景観	眺望地点及び眺望景観の状況 (確認年月日と写真)	●	●	●	●	●	01_景観	keikan_kekka	mdb	
2 動植物	現地調査による確認種目録	●	●	●	●	●	02_動植物	seibutumokuroku	mdb	
3 報告書 (公開用)	報告書(公開用)PDFファイル 管理 (PDFファイルと各タイトルの対 応表)	●	●	●	●	●	03_公開用報 告書	houkokusyo	mdb	PDFファイルは、1ファイル 100MBを超える場合は分割 する。

※●：データ作成対象事業

(3) 報告書関係

- ・ファイル形式や構成等は「地域モデル事業の報告書等の作成に関する留意点」に準ずる。

表 4 報告書関係一覧

項目	内容	陸上風力 準備書	準地熱 準備書	陸上風力 配慮書	洋上風力 配慮書	地熱 配慮書	フォルダ名	ファイル名	形式	備考
1 報告書 (公開用)	秘匿情報(重要種分 布図、個人名など)を 含まないもの。Webで 一般公開する。	●	●	●	●	●	01_公開用報告書	[事業ID]houkoku.pdf	PDF	・報告書(公開用)と報告書資 料編(公開用)は、連結した1 つのPDFファイルとして作成 する ・1ファイル100MBを超える場 合は分割する
2 報告書 (非公開用)	全ての調査成果を収 録したもの。今後、特 定の利用者(申請・許 可された事業者等)に は配布される。	●	●	●	●	●	02_非公開用報告 書	[事業ID]houkoku_c.pdf	ワード、エク セル、PDF等	・報告書(非公開用)と報告書 資料編(非公開用)は、連結 した1つのPDFファイルとして 作成する ・1ファイル100MBを超える場 合は分割する
3 図表	報告書で使用した図 表の元データ	●	●	●	●	●	02_非公開用報告 書¥ORGY図表	任意	JPG、エクセ ル等	
4 写真	現地写真等	●	●	●	●	●	02_非公開用報告 書¥ORGY写真	任意	JPG	
5 その他	その他関係するファ イル等	●	●	●	●	●	02_非公開用報告 書¥ORGYその他	任意		

※●：データ作成対象事業

2. データ定義書

(1) GISデータ

地域概況調査

表5 地域概況調査<1/4>

項目	区分	No	内容	陸上風力 準備書	地熱 準備書	陸上風力 配慮書	洋上風力 配慮書	地熱 配慮書	フォルダ	ファイル名	形式	属性項目					
												フィールド名	属性項目の内容	データ 型	例	備考	
001	共通事項 調査範囲	001-001	文献調査範囲(準備書、配慮書)	●	●	●	●	●	0-1_共通事項	b_tyosa_hani	shp	面	jid	事業ID	文字	H25-001	別紙2参照
													jigyomei	業務名	文字	平成25年度風力発電等環境アセスメント 基礎情報整備モデル事業(〇〇県△市情報整備モデル地区における地域固有環境情報調査事業)委託業務	
													jigyousva	調査実施者名	文字	〇〇株式会社	
													kikan1	実施期間(自)	日付	2012/05/15	
													kikan2	実施期間(至)	日付	2013/03/23	
													pref	実施場所(都道府県)	文字	〇〇県	
													city	実施場所(市町村)	文字	〇〇市	
bikou	備考	文字															
002	大気環境 大気質	002-001	気象観測位置	●	●	●	●	●	1-1_大気環境の状況	b_kisyuu	shp	点	jid	事業ID	文字	H25-001	別紙2参照
													No	通し番号	整数		
													meisyuu	名称	文字	〇〇气象台	
													syutten	出典	文字	「〇〇県環境白書」(平成〇年〇月、〇〇県)	
													bikou	備考	文字		
													jid	事業ID	文字	H25-001	
	No	通し番号	整数														
	kubun	区分	文字	一般環境大気測定局、自動車排ガス測定局													
	meisyuu	名称	文字	〇〇市役所													
	syutten	出典	文字	「〇〇県環境白書」(平成〇年〇月、〇〇県)													
	bikou	備考	文字														
	騒音及び超低周波音	002-003	自動車騒音常時監視測定地点	●	●	●	●	●	1-1_大気環境の状況	b_dourosouon	shp	点	jid	事業ID	文字	H25-001	別紙2参照
No													通し番号	整数			
syozaiti													所在地	文字	〇〇市〇丁目〇番地		
syutten													出典	文字	「〇〇県環境白書」(平成〇年〇月、〇〇県)		
bikou													備考	文字			
jid													事業ID	文字	H25-001		
No	通し番号	整数															
meisyuu	河川・地点名	文字	〇〇川・〇〇橋付近														
syutten	出典	文字	「〇〇県環境白書」(平成〇年〇月、〇〇県)														
bikou	備考	文字															
003	水環境 水質	003-001	水質測定地点	●	●	●	●	●	1-2_水環境の状況	b_sushitu	shp	点	jid	事業ID	文字	H25-001	別紙2参照
													koumoku	項目	整数	1	
													No	通し番号	整数		
		meisyuu	河川・地点名	文字	〇〇川・〇〇橋付近												
		syutten	出典	文字	「〇〇県環境白書」(平成〇年〇月、〇〇県)												
		bikou	備考	文字													
		jid	事業ID	文字	H25-001	別紙2参照											
		No	通し番号	整数													
		meisyuu	地点名	文字	G-1												
syutten	出典	文字	「〇〇調査結果」(平成〇年〇月、〇〇県)														
bikou	備考	文字															
jid	事業ID	文字	H25-001	別紙2参照													
No	通し番号	整数															
kikan1	実施期間(自)	日付	2012/04/16														
kikan2	実施期間(至)	日付	2013/03/29														
pref	実施場所(都道府県)	文字	〇〇県														
city	実施場所(市町村)	文字	〇〇市														
meisyuu	地点名・区域	文字	〇〇湾から〇〇までの沿岸及び沖合														
syutten	出典	文字	「〇〇県流況調査報告書」(平成〇年〇月、〇〇県)														
bikou	備考	文字															
004	その他の環境 地形及び地質	004-001	重要な地形・地質	●	●	●	●	●	1-4_地形及び地質の状況	b_tikei_tishitsu_0	shp	点 線 面	jid	事業ID	文字	H25-001	別紙2参照
													koumoku	項目	整数	1	
													No	通し番号	整数		
													meisyuu	名称	文字		
													syutten	出典	文字	「〇〇県の地形・地質」(平成〇年〇月、〇〇県)	
		bikou	備考	文字													
		jid	事業ID	文字	H25-001	別紙2参照											
		koumoku	項目	文字													
		No	通し番号	整数													
		meisyuu	地点名	文字													
syutten	出典	文字	「波浪踏査結果報告書」(平成〇年〇月、〇〇県)														
bikou	備考	文字															

※●：データ作成対象事業

地域概況調査

表5 地域概況調査<2/4>

項目	区分	No	内容	陸上風力 準備書	地熱 準備書	陸上風力 配慮書	洋上風力 配慮書	地熱 配慮書	フォルダ	ファイル名	形式	属性項目				
												フィールド名	属性項目の内容	データ 型	例	備考
005 動植物	重要な種及び重要な群 落、注目すべき生息地	005-001	重要な種及び重要な 群落、注目すべき生 息地の確認結果	●	●	●	●	●	1-5_動植物 の生息又は 生育、植生 及び生態系 の状況	b_dousyoku_○	shp 点 線/ 面	jid	事業ID	文字	H25-001	別紙2参照
												hyouji	表示項目 (確認した種の分類 群)	整数	2	確認した種の分類群のうち該当する項目番号を記入する。 1:哺乳類(海棲哺乳類含む)、2:鳥類、3:希少猛禽類(イヌワシ、クマタ カ、オオタカ等)、4:両生類・は虫類(海棲は虫類含む)、5:魚類(遊泳生 物含む)、6:昆虫類、7:植物相、8:植生、9:希少猛禽類(海ワシ類)、10:渡 り鳥、11:ガン、ハクチョウ類、12:ガン、ハクチョウ類(越冬地)、13:底生動 物、14:潮間帯動物、15:動物プランクトン、16:卵・稚仔、17:干潟・藻場・ サンゴ礁に生息する動物、18:潮間帯植物、19:海草藻類、20:植物プラン クトン、21:干潟・藻場・サンゴ礁に生育する植物
												moku	目名	文字		
												ka	科名	文字		
												svu	和名	文字		表示項目が「8:植生」の場合は群落名
												nengappi	確認年月日	文字		
												kotaisuu	個体数	文字		
												koudou	行動	文字		渡り鳥については、表示項目に関係なく「渡り」と記入する。
												hisyou	飛翔高度	文字		希少猛禽類のみ 値は絶対高度(標高+飛翔高)(単位:m)
												jyoukyou	確認地点の状況	文字		
												sonota	その他確認事項	文字		
												x	X座標値	小数	0	
												y	Y座標値	小数	0	空欄(0)とする
												tennen	選定根拠 (天然記念物)	文字	特天	以下のうち該当するカテゴリーを記入する。 特天:国指定特別天然記念物、国天:国指定天然記念物、県天:○○ 県指定天然記念物、空欄:該当なし
												syuhozon	選定根拠 (種の保存法)	文字	国内	以下のうち該当するカテゴリーを記入する。 国内:国内希少野生生物種、国際:国際希少野生生物種、空欄:該当な し
												red_kankyo	選定根拠 (環境省RL)	文字	EN	環境省RLのうち該当するカテゴリーを記入する。 EX:絶滅種、EW:野生絶滅、CR:絶滅危惧 I A類、EN:絶滅危惧 I B類、 VU:絶滅危惧 II 類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、LP:絶滅の恐れのある 地域個体群、空欄:該当なし
												red_chihou	選定根拠 (都道府県RDB)	文字	EN	都道府県RDBのうち該当するカテゴリーを記入する。 空欄:該当なし
												red_suisan	選定根拠 (水産庁RDB)	文字	危急	水産庁RDBのうち該当するカテゴリーを記入する。 絶滅危惧:絶滅の危機に瀕している種・亜種、危急:絶滅の危険が増大 している種・亜種、希少:存続基盤が脆弱な種・亜種、減少:明らかに減少 しているもの、減少傾向:長期的にみて減少しつつあるもの、地域個体 群:保護に留意すべき地域個体、空欄:該当なし
												sonota1	選定根拠(その他1)	文字	最重要保護鳥類(○○市レッドリスト)など	
sonota2	選定根拠(その他2)	文字	ヒアリング調査結果など	その他の選定根拠がある場合に記入する。												
sonota3	選定根拠(その他3)	文字														
bunken	文献名	文字		著者名(発行年西暦)、「書名」,参考引用ページ 出版者名												
hitoku	秘匿情報区分	整数	0	以下のうち該当する区分番号を記入する。(必ず確認してください) 0:公開情報、1:秘匿情報 ※秘匿情報の場合は任意フォーマットデータとして作成してください												
bikou	備考	文字														
006 景観及び人と 自然との触れ 合い	自然的状況及び社会的 状況	006-001	景観資源	●	●	●	●	●	1-6_景観及 び人と自然 との触れ合 いの場	b_keikanshigen_○	shp 点 線/ 面	jid	事業ID	文字	H25-001	別紙2参照
												meisyou	名称	文字		
		syutten	出典	文字		「○○県の重要な景観」(平成○年○月、○ ○県)										
		bikou	備考	文字												
		006-002	人と自然との触れ合 いの場	●	●	●	●	●	●	1-6_景観及 び人と自然 との触れ合 いの活動の状 況	b_hitofure_○	shp 点 線/ 面	jid	事業ID	文字	H25-001
meisyou	名称												文字			
syutten	出典												文字		「○○県の観光ガイド」(平成○年○月、○ ○県)	
bikou	備考												文字			
syutten	出典												文字		「○○県土地利用基本計画図」(平成○年 ○月、○○県)	
007 土地利用の 状況	自然的状況及び社会的 状況	007-001	土地利用基本計画	●	●	●	●	2-2_土地利 用の状況	b_tochikeikaku	shp 面	jid	事業ID	文字	H25-001	別表1参照	
											hanrei_no	凡例番号	整数	3	以下のうち該当する凡例番号、凡例名を記入する。 1:都市地域、2:農業地域、3:森林地域、4:自然公園地域、5:自然保全 地域	
											hanrei_mei	凡例名	文字	森林地域		
											syutten	出典	文字		「○○県土地利用基本計画図」(平成○年 ○月、○○県)	
											bikou	備考	文字			

※●: データ作成対象事業

地域概況調査

表5 地域概況調査<3/4>

項目	区分	No	内容	陸上風力 準備書	地熱 準備書	陸上風力 配慮書	洋上風力 配慮書	地熱 配慮書	フォルダ	ファイル名	形式	属性項目																							
												フィールド名	属性項目の内容	データ 型	例	備考																			
008	交通	自然的状況及び社会的 状況	008-001	交通量調査地点	●	●	●	●	●	2-4_交通の 状況	b_koutuuryou_○	shp	点/ 線	jid	事業ID	文字	H25-001	別表1参照																	
														No	通し番号	整数																			
														rosen	路線名	文字	一般国道○号																		
														meisyou	地点名	文字	○○市○丁目○番地																		
														koutsuu	平日12時間交通量	小数																			
														syutten	出典	文字	「○年道路交通センサス」(平成○年○月、国土交通省)																		
009	学校、病院、 その他の施設	自然的状況及び社会的 状況	009-001	学校・病院位置	●	●	●	●	●	2-5_学校、病 院、その他の 施設	b_gakkou_byouin	shp	点	jid	事業ID	文字	H25-001	別紙2参照																	
														No	通し番号	整数																			
														kubun_no	区分番号	整数	12		以下のうち該当する区分番号、区分名を記入する。 11:幼稚園・保育所、12:小学校、13:中学校、14:高等学校、15:大学・ 短大等、21:医療施設、22:福祉施設、31:その他																
														kubun_mei	区分名	文字	小学校																		
														meisyou	名称	文字	○○小学校																		
														syutten	出典	文字	「○○年教育便覧」(平成○年○月、○○県)																		
			bikou	備考	文字																														
			009-002	集落及び住宅	●	●	●	●	●	●	●	2-5_学校、病 院、その他の 施設	b_juutaku_○	shp	面/ 点	jid	事業ID	文字	H25-001	別紙2参照															
																No	通し番号	整数																	
																bikou	備考	文字																	
																010	河川、湖沼お よび海域の利 用並びに地下 水の利用	自然的状況及び社会的 状況	010-001		漁場利用状況	—	—	—	●	—	2-3_河川、湖 沼および海域の利 用並びに地下水 の利用の状況	b_gyojo	shp	面	jid	事業ID	文字	H25-001	別紙2参照
																															gyosyurui	漁業種類	文字		
syutten	出典	文字																													「ヒアリング」(平成○年○月○日)				
010-002	漁業権	—	—	—	●	—	—	2-3_河川、湖 沼および海域の利 用並びに地下水 の利用の状況	b_gyogyouken_○	shp	面/ 線	jid	事業ID	文字	H25-001				別表1参照																
												syurui	漁業権の種類	整数	1					以下のうち該当する番号を記入する。 1:定置漁業権、2:区画漁業権、3:共同漁業権															
												kikan1	存続期間(自)	日付	2012/04/16						存続期間(vvyy/mm/dd)														
												kikan2	存続期間(至)	日付	2013/03/29	存続期間(vvyy/mm/dd)																			
												gyosyurui	漁業種類	文字	貝類、藻類																				
												menkyo	免許先	文字	○○県																				
												syutten	出典	文字	「○○県の漁業連絡図」(平成○年○月、○○ 県)																				
												bikou	備考	文字																					
												011	法令等による 指定地域	自然的状況及び社会的 状況	011-001	騒音に係る環境基準 類型区分	●	●		●	●	●	2-7_法令等 による指定地 域	b_souonruikei	shp	面	jid	事業ID	文字	H25-001	別紙2参照				
ruikou	備考	文字																																	
ruikou	備考	文字																																	
011-002	水質に係る環境基準 類型区分	●	●	●	●	●	●	●	2-7_法令等 による指定地 域	b_suishituruikei_○	shp				点/ 線/ 面	jid	事業ID	文字	H25-001	別紙2参照															
																ruikou	備考	文字																	
																ruikou	備考	文字																	
011-003	自然公園	●	●	●	●	●	●	●	2-7_法令等 による指定地 域	b_kokuritukokutei	shp				面	jid	事業ID	文字	H25-001	別紙2参照															
																kubun	公園区分	文字	国立公園		以下のうち該当する区分を記入する。 国立公園、国定公園、都道府県立自然公園														
																meisyou	公園名	文字	○○国立公園																
																tisyu_no	地種区分番号	整数	1																
																tisyu	地種区分名	文字	特別保護地区																
																bikou	備考	文字																	
011-004	自然環境保全地域	●	●	●	●	●	●	●	2-7_法令等 による指定地 域	b_shizenkanyoh_ozen	shp				面	jid	事業ID	文字	H25-001	別紙2参照															
																shitei	指定区分	文字	国		「国」または「条例」のいずれかを記入する														
																meisyou	地域名称	文字																	
																kubun_no	区分番号	整数	1																
																kubun	区分名	文字	特別地区																
																bikou	備考	文字																	
011-005	鳥獣保護区	●	●	●	●	●	●	●	2-7_法令等 による指定地 域	b_tyoujyuu	shp				面	jid	事業ID	文字	H25-001	別紙2参照															
																shitei	指定区分	文字	国指定		「国指定」または「都道府県指定」のいずれかを記入する														
																meisyou	地域名称	文字																	
																kubun_no	区分番号	整数	1																
																kubun	区分名	文字	特別保護地区																
																bikou	備考	文字																	
011-006	特別緑地保全地区	●	●	●	●	●	●	●	2-7_法令等 による指定地 域	b_tokuryoku	shp	面	jid	事業ID	文字	H25-001	別紙2参照																		
													meisyou	地域名称	文字																				
													bikou	備考	文字																				

※●：データ作成対象事業

地域概況調査

表5 地域概況調査<4/4>

項目	区分	No	内容	陸上風力 準備書	地熱 準備書	陸上風力 配慮書	洋上風力 配慮書	地熱 配慮書	フォルダ	ファイル名	形式	属性項目						
												フィールド名	属性項目の内容	データ 型	例	備考		
011	法令等による 指定地域	自然的状況及び社会的 状況	011-007	風致地区	●	●	●	●	●	2-7.法令等 による指定地 域	b_fuuchi	shp	面	jid	事業ID	文字	H25-001	別紙2参照
			meisyou	地域名称	文字													
			kubun_no	区分番号	整数	1	以下のうち該当する区分番号、区分名を記入する。 1:第1種、2:第2種、3:第3種											
			kubun	区分名	文字	第1種												
			bikou	備考	文字													
			011-008	景観区域等	●	●	●	●	●	2-7.法令等 による指定地 域	b_keikankuiki	shp	面	jid	事業ID	文字	H25-001	別紙2参照
			meisyou	地域名称	文字	〇〇景観計画区域、〇〇景観形成地域など												
			bikou	備考	文字													
			011-009	文化財	●	●	●	●	●	2-7.法令等 による指定地 域	b_bunkazai_〇	shp	点 線/ 面	jid	事業ID	文字	H25-001	別紙2参照
			kubun_no	区分番号	整数	1	以下のうち該当する区分番号、区分名を記入する。 1:国指定、2:都道府県指定、3:市町村指定											
			kubun	区分名	文字	国指定												
			syubetu	種別	文字	史跡、名称、天然記念物など												
			meisyou	名称	文字													
			bikou	備考	文字													
011-010	保安林	●	●	●	●	●	2-7.法令等 による指定地 域	b_hoanrin	shp	面	jid	事業ID	文字	H25-001	別紙2参照			
bikou	備考	文字																
011-011	都市計画区域	●	●	●	●	●	2-7.法令等 による指定地 域	b_toshikeikaku	shp	面	jid	事業ID	文字	H25-001	別紙2参照			
kubun_no	区分番号	整数	1	以下のうち該当する区分番号、区分名を記入する。 1:市街化区域、2:市街化調整区域、3:非線引き区域														
kubun	区分名	文字	市街化区域															
bikou	備考	文字																
011-012	農振法指定地	●	●	●	●	●	2-7.法令等 による指定地 域	b_noushinhouste i	shp	面	jid	事業ID	文字	H25-001	別紙2参照			
kubun_no	区分番号	整数	1	以下のうち該当する区分番号、区分名を記入する。 1:農業振興地域、2:農用地区域														
kubun	区分名	文字	農業振興地域															
bikou	備考	文字																
011-013	海岸保全区域	—	—	—	●	—	2-7.法令等 による指定地 域	b_kaiganhozen_〇	shp	線/ 面	jid	事業ID	文字	H25-001	別紙2参照			
shokan	所管	整数	3	以下のうち該当する所管番号を記入する。 1:国土交通省河川局、2:国土交通省港湾局、3:農林水産省農村振興 局、4:農林水産省水産庁														
bikou	備考	文字																
011-014	港湾区域	—	—	—	●	—	2-7.法令等 による指定地 域	b_kowankuiki_〇	shp	線/ 面	jid	事業ID	文字	H25-001	別紙2参照			
meisyou	港湾名	文字	〇〇港															
bikou	備考	文字																
011-015	航路	—	—	—	●	—	2-7.法令等 による指定地 域	b_kouro_〇	shp	線/ 面	jid	事業ID	文字	H25-001	別紙2参照			
syubetu	種別	文字	定期(フェリー船等)航路、港湾法航路など															
bikou	備考	文字																
011-016	漁港区域	—	—	—	●	—	2-7.法令等 による指定地 域	b_gyokoukuiki_〇	shp	線/ 面	jid	事業ID	文字	H25-001	別紙2参照			
kanrisya	管理者	文字																
bikou	備考	文字																
011-017	保護水面	—	—	—	●	—	2-7.法令等 による指定地 域	b_hogosuimen	shp	面	jid	事業ID	文字	H25-001	別紙2参照			
bikou	備考	文字																

※●：データ作成対象事業

現地調査

表6 現地調査<1/4>

項目	区分	No	内容	陸上風力 準備書	地熱 準備書	陸上風力 配慮書	洋上風力 配慮書	地熱 配慮書	フォルダ名	ファイル名	形式	属性項目					
												フィールド名	属性項目の内容	データ 型	例	備考	
100	共通事項	調査範囲	100-001 調査地域(準備書) ※仕様書に示されて いる範囲	●	●	—	—	—	01_共通事項	g_tyosa_hani_j	shp	面	jid	事業ID	文字	H25-001	別表1参照
													jigyomei	業務名	文字	平成25年度風力発電等環境アセスメント 基礎情報整備モデル事業(〇〇県△市情報整備モデル地区における地域固有環境情報調査事業)委託業務	
													jigyosva	調査実施者名	文字	〇〇株式会社	
													kikan1	実施期間(自)	日付	2012/04/16	契約期間 (yyyy/mm/dd)
													kikan2	実施期間(至)	日付	2013/03/29	契約期間 (yyyy/mm/dd)
													pref	実施場所(都道府県)	文字	〇〇県	
													city	実施場所(市町村)	文字	〇〇市	
													bikou	備考	文字		
													jid	事業ID	文字	H25-001	別表1参照
100	共通事項	調査範囲	100-002 調査地域(配慮書) ※仕様書に示されて いる範囲	—	—	●	●	●	01_共通事項	g_tyosa_hani_h	shp	面	jigyomei	業務名	文字	平成25年度風力発電等環境アセスメント 基礎情報整備モデル事業(〇〇県△市情報整備モデル地区における地域固有環境情報調査事業)委託業務	
													jigyosva	調査実施者名	文字	〇〇株式会社	
													kikan1	実施期間(自)	日付	2012/05/15	契約期間 (yyyy/mm/dd)
													kikan2	実施期間(至)	日付	2013/03/23	契約期間 (yyyy/mm/dd)
													pref	実施場所(都道府県)	文字	〇〇県	
													city	実施場所(市町村)	文字	〇〇市	
													bikou	備考	文字		
													jid	事業ID	文字	H25-001	別表1参照
													100	共通事項	重点調査エリア(配慮書) ※仕様書に示されて いる範囲	—	—
jigyosva	調査実施者名	文字	〇〇株式会社														
kikan1	実施期間(自)	日付	2012/05/15	契約期間 (yyyy/mm/dd)													
kikan2	実施期間(至)	日付	2013/03/23	契約期間 (yyyy/mm/dd)													
pref	実施場所(都道府県)	文字	〇〇県														
city	実施場所(市町村)	文字	〇〇市														
bikou	備考	文字															
jid	事業ID	文字	H25-001	別表1参照													
101	水環境	水質	101-001 水質調査地点	●	●	—	—	—	02_水の濁り	g_suishitsu_chite_n	shp	点					
													cid	地点ID	整数		連番
													nengappi	調査年月日	文字	春季:2012/05/23、夏季:2012/08/01	
													bikou	備考	文字		
													jid	事業ID	文字	H25-001	別表1参照
													cid	地点ID	整数		連番
101	水環境	水質	101-002 土質調査地点	●	●	—	—	—	02_水の濁り	g_doshitsu_chiten	shp	点	nengappi	調査年月日	文字	春季:2012/05/23	
													bikou	備考	文字		
													jid	事業ID	文字	H25-001	別表1参照
													cid	地点ID	整数		連番
													nengappi	調査年月日	文字	春季:2012/05/23	
													bikou	備考	文字		
102	動植物	重要な種及び重要な群落、注目すべき生息地	102-001 調査ルート・地点 ※配慮書での生態系調査の調査地点、ルート等は任意フォーマットで整理してください。	●	●	●	●	●	03_動植物	g_dousyoku_chite_n_0	shp	点/線	jid	事業ID	文字	H25-001	別表1参照
													koumoku	調査項目 (実施した調査項目)	整数	1	実施した調査項目について、以下のうち該当する項目番号を記入する。 1:哺乳類(海棲哺乳類含む)、2:鳥類、3:希少猛禽類(イヌワシ、クマタカ、オオタカ等)、4:両生類・は虫類(海棲は虫類含む)、5:魚類(遊泳生物含む)、6:昆虫類、7:植物相、8:植生、9:希少猛禽類(海ワシ類)、10:渡り鳥、11:ガン、ハクチョウ類、12:ガン、ハクチョウ類(越冬地)、13:底生動物、14:潮間帯動物、15:動物プランクトン、16:卵・稚仔、17:干潟・藻場・サンゴ礁に生息する動物、18:潮間帯植物、19:海草藻類、20:植物プランクトン、21:干潟・藻場・サンゴ礁に生育する植物、99:その他(追加調査など)
													syubetu	ルート・地点種別	文字	踏査ルート、〇〇トラップ設置地点、ラインセンサスルート、定点センサス地点、対象水系、コドラート設置地点、スポット潜水など	仕様書に示されている調査方法を記入する。
													tid	ナンバー・名称	文字	No.1	個々の調査で設定した番号等
													nengappi	調査年月日	文字	春季:2012/05/23~2012/05/25、夏季:2012/08/01~2012/08/03、...	
													bikou	備考	文字	任意調査、追加調査:ため池調査など	調査項目「99:その他」とした場合、備考に具体的な調査項目名を記入する。

※●: データ作成対象事業

現地調査

表 6 現地調査<2/4>

項目	区分	No	内容	陸上風力準備書	地熱準備書	陸上風力配慮書	洋上風力配慮書	地熱配慮書	フォルダ名	ファイル名	形式	属性項目					
												フィールド名	属性項目の内容	データ型	例	備考	
102	動植物	102-002	重要な種及び重要な群落、注目すべき生息地の確認結果(希少猛禽類以外)	●	●	●	●	●	03_動植物	g_dousyoku_○	shp	点線面	jid	事業ID	文字	H25-001	別紙2参照
													hyouji	表示項目(確認した種の分類群)	整数	2	確認した種の分類群について、以下のうち該当する項目番号を記入する。 1:哺乳類(海棲哺乳類含む)、2:鳥類、4:両生類・は虫類(海棲は虫類含む)、5:魚類(遊泳生物含む)、6:昆虫類、7:植物相、8:植生、10:渡り鳥、11:ガン、ハクチョウ類、12:ガン、ハクチョウ類(越冬地)、13:底生動物、14:潮間帯動物、15:動物プランクトン、16:卵・稚仔、17:干潟・藻場・サンゴ礁に生息する動物、18:潮間帯植物、19:海草藻類、20:植物プランクトン、21:干潟・藻場・サンゴ礁に生育する植物
													koumoku	調査項目(実施した調査項目)	整数	99	実施した調査項目について、以下のうち該当する項目番号を記入する。 1:哺乳類(海棲哺乳類含む)、2:鳥類、3:希少猛禽類(イヌワシ、クマタカ、オオタカ等)、4:両生類・は虫類(海棲は虫類含む)、5:魚類(遊泳生物含む)、6:昆虫類、7:植物相、8:植生、9:希少猛禽類(海ワシ類)、10:渡り鳥、11:ガン、ハクチョウ類、12:ガン、ハクチョウ類(越冬地)、13:底生動物、14:潮間帯動物、15:動物プランクトン、16:卵・稚仔、17:干潟・藻場・サンゴ礁に生息する動物、18:潮間帯植物、19:海草藻類、20:植物プランクトン、21:干潟・藻場・サンゴ礁に生育する植物、22:生態系、99:その他(追加調査など)
													moku	目名	文字		
													ka	科名	文字		
													svu	和名	文字		調査項目が「8:植生」の場合は群落名
													houhou	調査方法	文字		仕様書に示されている調査方法を記入する。
													nengappi	確認年月日	日付	2012/05/15	yyyy/mm/dd
													jikoku	確認時刻	文字		
													kotaisuu	個体数	文字	3、約○○	
													koudou	行動	文字	求愛行動、爪痕、足跡、食痕、糞、声、など	
													hisyou	飛翔高度	文字	○～○m	絶対高度(標高+飛翔高)(単位:m)
													jyoukyou	確認地点の状況	文字	湿地、谷(植林)、道路上、林縁、など	
													sonota	その他確認事項	文字	成体、幼生、群生など	
													x	X座標値	小数	0	空欄(0)とする
													y	Y座標値	小数	0	
													suisin	水深値	小数	-99999.0	平均水深値(単位:m、小数第1位までは必ず入力)、該当なしの場合は「-9999.0」とする
													tennen	選定根拠(天然記念物)	文字	国天	以下のうち該当するカテゴリを記入する。 特天:国指定特別天然記念物、国天:国指定天然記念物、県天:○○県指定天然記念物、空欄:該当なし
													syuhozon	選定根拠(種の保存法)	文字	国内	以下のうち該当するカテゴリを記入する。 国内:国内希少野生生物種、国際:国際希少野生生物種、空欄:該当なし
													red_kankyo	選定根拠(環境省RL)	文字	EN	環境省RLのうち該当するカテゴリを記入する。 EX:絶滅種、EW:野生絶滅、CR:絶滅危惧 I A類、EN:絶滅危惧 I B類、VU:絶滅危惧 II 類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、LP:絶滅の恐れのある地域個体群、空欄:該当なし
red_chihou	選定根拠(都道府県RDB)	文字	EN	都道府県RDBのうち該当するカテゴリを記入する。 空欄:該当なし													
red_suisan	選定根拠(水産庁RDB)	文字	絶滅危惧	水産庁RDBのうち該当するカテゴリを記入する。 絶滅危惧:絶滅の危機に瀕している種・亜種、危急:絶滅の危険が増大している種・亜種、希少:存続基盤が脆弱な種・亜種、減少:明らかに減少しているもの、減少傾向:長期的にみて減少しつつあるもの、地域個体群:保護に留意すべき地域個体、空欄:該当なし													
sonota1	選定根拠(その他1)	文字	絶滅危惧I類(○○市レッドデータブック)など														
sonota2	選定根拠(その他2)	文字		その他の選定根拠がある場合に記入する。													
sonota3	選定根拠(その他3)	文字															
hitoku	秘匿情報区分	整数	1	以下のうち該当する区分番号を記入する。(必ず確認してください) 0:公開情報、1:秘匿情報 (必ず1を記入する)													
bikou	備考	文字	任意調査、追加調査:ため池調査にて確認など	調査項目「99:その他」とした場合、備考に具体的な調査項目名を記入する。													

※●: データ作成対象事業

現地調査

表 6 現地調査<3/4>

項目	区分	No	内容	陸上風力準備書	地熱準備書	陸上風力配慮書	洋上風力配慮書	地熱配慮書	フォルダ名	ファイル名	形式	属性項目					
												フィールド名	属性項目の内容	データ型	例	備考	
102	動植物	重要な種及び重要な群落、注目すべき生息地	重要な種及び重要な群落、注目すべき生息地の確認結果(希少猛禽類)	●	●	●	●	●	03_動植物	g_moukin_○	shp	点/線/面	jid	事業ID	文字	H25-001	別紙2参照
													hyouji	表示項目(確認した種の分類群)	整数	9	確認した種の分類群について、以下のうち該当する項目番号を記入する。3:希少猛禽類(イヌワシ、クマタカ、オオタカ等)、9:希少猛禽類(海ワシ類)
													koumoku	調査項目(実施した調査項目)	整数	9	実施した調査項目について、以下のうち該当する項目番号を記入する。1:哺乳類(海棲哺乳類含む)、2:鳥類、3:希少猛禽類(イヌワシ、クマタカ、オオタカ等)、4:両生類・は虫類(海棲は虫類含む)、5:魚類(遊泳生物含む)、6:昆虫類、7:植物相、8:植生、9:希少猛禽類(海ワシ類)、10:渡り鳥、11:ガン、ハクチョウ類、12:ガン、ハクチョウ類(越冬地)、13:底生動物、14:潮間帯動物、15:動物プランクトン、16:卵・稚仔、17:干潟・藻場・サンゴ礁に生息する動物、18:潮間帯植物、19:海藻類、20:植物プランクトン、21:干潟・藻場・サンゴ礁に生育する植物、22:生態系、99:その他(追加調査など)
													moku	目名	文字		
													ka	科名	文字		
													syu	和名	文字		
													houhou	調査方法	文字		仕様書に示されている調査方法を記入する
													sex	性別	文字	雄	雄、雄?、雌、雌?、不明など
													age	年齢	文字	成鳥	成鳥、成鳥?、幼鳥、幼鳥?、不明、若鳥、若鳥など
													kotai	個体情報	文字		
													nengappi	確認年月日	日付	2012/05/15	yyyy/mm/dd
													jikoku_c	発見時刻	文字		
													jikoku_l	消失時刻	文字		
													kakunin	確認地点	文字	N1、E2など	記入は任意。
													kotaisuu	個体数	文字	1	
													kotai_no	個体番号	文字		記入は任意。
													koudou_no	行動番号	文字		記入は任意。
													koudou1	行動(大分類)	文字	飛翔	別紙1参照
													koudou2	行動(小分類)	文字	移動	別紙1参照(koudou1の詳細)
													syousitsu1	消失	文字	1	別紙1参照
													syousitsu2	消失状況	文字	林内消失	別紙1参照
													hisyou	飛翔高度	文字	○~○	絶対高度(標高+飛翔高)(単位:m)
													jyoukyou	確認地点の状況	文字		
													sonota	その他確認事項	文字		
													x	X座標値	小数	0	
													y	Y座標値	小数	0	空欄(0)とする
													tennen	選定根拠(天然記念物)	文字	国天	以下のうち該当するカテゴリーを記入する。特天:国指定特別天然記念物、国天:国指定天然記念物、県天:○○県指定天然記念物、空欄:該当なし
													syuhozon	選定根拠(種の保存法)	文字	国内	以下のうち該当するカテゴリーを記入する。国内:国内希少野生生物種、国際:国際希少野生生物種、空欄:該当なし
													red_kankyō	選定根拠(環境省RL)	文字	CR	環境省RLのうち該当するカテゴリーを記入する。EX:絶滅種、EW:野生絶滅、CR:絶滅危惧I A類、EN:絶滅危惧I B類、VU:絶滅危惧II類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、LP:絶滅の恐れのある地域個体群、空欄:該当なし
													red_chihou	選定根拠(都道府県RDB)	文字		都道府県RDBのうち該当するカテゴリーを記入する。空欄:該当なし
red_suisan	選定根拠(水産庁RDB)	文字	絶滅危惧	水産庁RDBのうち該当するカテゴリーを記入する。絶滅危惧:絶滅の危機に瀕している種・亜種、危急:絶滅の危険が増大している種・亜種、希少:存続基盤が脆弱な種・亜種、減少:明らかに減少しているもの、減少傾向:長期的にみて減少しつつあるもの、地域個体群:保護に留意すべき地域個体、空欄:該当なし													
sonota1	選定根拠(その他1)	文字	絶滅危惧I類(○○市レッドデータブック)など														
sonota2	選定根拠(その他2)	文字		その他の選定根拠がある場合に記入する。													
sonota3	選定根拠(その他3)	文字															
bunken	文献名	文字															
hitoku	秘匿情報	整数	1	以下のうち該当する区分番号を記入する。(必ず確認してください)0:公開情報、1:秘匿情報(必ず1を記入する)													
bikou	備考	文字	任意調査、追加調査:ため池調査にて確認など	調査項目「99:その他」とした場合、備考に具体的な調査項目名を記入する。													
102-004	藻場分布図	—	—	—	●	—	—	03_動植物	g_mobabunpuzu	shp	面	jid	事業ID	文字	H25-001	別紙2参照	
												hanrei_no	凡例番号	文字	1	下記より該当する分布タイプ(番号、タイプ名)を記入する。	
												hanrei_mei	凡例名	文字	アマモ場	1:アマモ場、2:ガラモ場、3:アラモ場、4:カジモ場、5:コンブ場、6:その他の藻場	
												bikou	備考	文字			

※●: データ作成対象事業

現地調査

表 6 現地調査<4/4>

項目	区分	No	内容	陸上風力 準備書	地熱 準備書	陸上風力 配慮書	洋上風力 配慮書	地熱 配慮書	フォルダ名	ファイル名	形式	属性項目							
												フィールド名	属性項目の内容	データ 型	例	備考			
102	動植物	重要な種及び重要な群 落、注目すべき生息地	102-005	干潟分布図	—	—	—	●	—	03_動植物	g_higatabunpuzu	shp	面	jid	事業ID	文字	H25-001	別紙2参照	
														hanrei_no	凡例番号	文字	1	下記より該当する分布タイプ(番号、タイプ名)を記入する。 1:前浜、2:河口、3:潟湖、4:人工干潟、5:その他	
														hanrei_mei	凡例名	文字	前浜		
														bikou	備考	文字			
102-006	サンゴ礁分布図	—	—	—	—	—	●	—	03_動植物	g_sangoshobunpu zu	shp	面	jid	事業ID	文字	H25-001	別紙2参照		
													hanrei_no	凡例番号	文字	1	下記より該当する分布タイプ(番号、タイプ名)を記入する。 1:枝状、2:卓状、3:塊状、4:その他		
													hanrei_mei	凡例名	文字	枝状			
													bikou	備考	文字				
103	植生	重要な種及び重要な群 落	103-001	植生図	●	●	●	●	●	04_植生	g_syokuseizu	shp	面	jid	事業ID	文字	H25-001	別紙2参照	
														hanrei_no	凡例番号	文字		凡例番号は任意	
														hanrei_mei	凡例名	文字			
														bikou	備考	文字			
104	生態系	地域を特徴づける生態 系	104-001	環境類型区分図	●	●	●	●	●	05生態系	g_ruikeikubunzu_	shp	線/ 面	jid	事業ID	文字	H25-001	別紙2参照	
														hanrei_no	凡例番号	文字		凡例番号は任意	
														hanrei_mei	凡例名	文字			
			104-002	重要な自然環境のま とまりの場	—	—	●	●	●	●	05生態系	g_matomari_○	shp	点/ 線/ 面	jid	事業ID	文字	H25-001	別紙2参照
															meisyou	重要な自然環境のま とまりの場の名称	文字		
															bikou	備考	文字		
105	景観	眺望地点及び眺望景 観の状況	105-001	●	●	●	●	●	06_景観	g_tyoubou	shp	点	jid	事業ID	文字	H25-001	別紙2参照		
													cid	地点ID	整数	連番			
													meisyou	名称	文字				
													kashi	眺望の可否	整数	1	以下のうち該当する区分番号を記入する。 1:可視、2:不可視、3:不明 時期別の眺望写真はデータベースファイルの方で整理する。		
bikou	備考	文字																	

※●：データ作成対象事業

(2) データベース関係

表7 データベース関係

項目	No	内容	陸上風力 準備書	地熱 準備書	陸上風力 配慮書	洋上風力 配慮書	地熱 配慮書	フォルダ名	テーブル名	形式	フィールド 名	内容	データ 型	例	備考	
401 景観	401-001	眺望地点及び眺望景観の状況	●	●	●	●	●	01_景観	keikan_kekka	mdb	jid	事業ID	文字	H25-001	別紙2参照	
											cid	地点ID	整数			
											nengappi	調査年月日	日付	2012/05/15		yyyy/mm/dd
											syasin	写真	文字	○○.jpg		写真をリンク表示 ファイル名:○○.jpg、1枚/期・地点
402 動植物	402-001	現地調査による確認種目録	●	●	●	●	●	02_動植物	seibutumokuroku	mdb	jid	事業ID	文字	H25-001	別紙2参照	
											moku	目名	文字			
											ka	科名	文字			
											syu	和名	文字			
											gakumei	学名	文字			
											tennen	重要種選定根拠 (天然記念物)	文字	国天		以下のうち該当するカテゴリーを記入する。 特天:国指定特別天然記念物、国天:国指定天然記念物、県天:○○ 県指定天然記念物など、空欄:該当なし
											syuhozon	重要種選定根拠 (種の保存法)	文字	国内		以下のうち該当するカテゴリーを記入する。 国内:国内希少野生生物種、国際:国際希少野生生物種、空欄:該当なし
											red_kankyo	重要種選定根拠 (環境省RL)	文字	EN		環境省RLのうち該当するカテゴリーを記入する。 EX:絶滅種、EW:野生絶滅、CR:絶滅危惧 I A類、EN:絶滅危惧 I B類、 VU:絶滅危惧 II類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、LP:絶滅の恐れのある 地域個体群、空欄:該当なし
											red_chihou	重要種選定根拠 (都道府県RDB)	文字	EN		都道府県RDBのうち該当するカテゴリーを記入する。 空欄:該当なし
											red_suisan	重要種選定根拠 (水産庁RDB)	文字	危急		水産庁RDBのうち該当するカテゴリーを記入する。 絶滅危惧:絶滅の危機に瀕している種・亜種、危急:絶滅の危険が増大 している種・亜種、希少:存続基盤が脆弱な種・亜種、減少:明らかに減少 しているもの、減少傾向:長期的にみて減少しつつあるもの、地域個体 群:保護に留意すべき地域個体、空欄:該当なし
											sonota1	重要種選定根拠 (その他1)	文字	絶滅危惧I類(○○市レッドデータブック)な ど		その他の選定根拠がある場合に記入する。 空欄:該当なし
											sonota2	重要種選定根拠 (その他2)	文字			
											sonota3	重要種選定根拠 (その他3)	文字			
gairai	外来種区分	文字	特定	以下のうち該当するカテゴリーを記入する。 特定:特定外来種、要注意:要注意外来生物、国外:おおよそ明治以降 に人為的影響により侵入したと考えられる国外由来の動植物(国外外来 種)、空欄:該当なし												
bikou	備考	文字														
403 報告書	403-001	公開用報告書PDF ファイル管理(PDF ファイルと各タイトルの 対応表)	●	●	●	●	●	03_公開用報 告書	houkokusyo	mdb	jid	事業ID	文字	H25-001	別紙2参照	
											ID	連番	整数			
											syouban	章番号内容	文字	「第1章～第3章」		
											file	ファイル名	文字	H25-001_houkoku_c.pdf		ファイル名は「[事業ID]houkoku_c.pdf」とする。 (事業IDは別表1を参照) 1ファイル100MBを超える場合は分割する。

※●: データ作成対象事業

3. GISデータ作成要領

3.1 成果品の形式

成果品の形式は以下の通り。

表 8 成果品の形式など

ファイル形式	Esri 社 Shape ファイル形式 (dbf、shp、shx、prj 等) ※ prj ファイル (投影法と座標系の情報を書き込んだファイル) も成果品に含める。
投影座標系	平面直角座標 ※国土交通省国土地理院の定める平面直角座標系 (平成十四年国土交通省告示第九号) を使用すること。
測地系	世界測地系 (日本測地系 2011 : Japan Geodetic Datum 2011)
凡例色設定用レイヤファイル (凡例レイヤファイル)	ArcGIS Lyr ファイル (バージョン 9.0/9.1) ※ArcGIS で作成するシンボルの形状や色・ラベルのフォントサイズや形式や「表示」に関する情報が保存されているファイル (拡張子 lyr)。 ※ <u>ファイル名は shape ファイルと同名とし、同じフォルダに格納する。</u> ※ファイルのバージョンは 9.1/9.0 とし、 <u>相対パス設定</u> を行い作成すること。 ※ <u>ラベル発生の設定に Maplex ラベルエンジンを使用しない</u>

Esri Maplex ラベルエンジン (Maplex for ArcGIS) が備えている以下の機能は使用しないください。

<Maplex for ArcGIS 機能例>

- ・土地区画、河川、境界などを表現する各種スタイルをはじめとするポリゴンの高度な配置スタイル
- ・道路、河川、等高線のフィーチャを表現するラインの特殊な配置方法
- ・フィーチャからのラベルのオフセット
- ・ラインに沿って、またはポリゴン内部で指定間隔でのラベルの繰り返し
- ・単語および文字の間隔の制御
- ・投影法の経緯線に合わせたラベルの配置
- ・ラベル配置ゾーンの制御
- ・より多くのラベルをエリアに収めるための柔軟な配置
- ・ラベルの改行の微調整
- ・ラベルの略称および切詰め
- ・ラベルが密集しているエリアのためのフォント縮小パラメータ
- ・フィーチャをはみ出すラベルを許可するかどうかの制御
- ・フィーチャ ウェイトによるラベルの配置指定
- ・ラベリング対象のフィーチャの最小サイズの制御
- ・背景テキストとしてのラベルの配置
- ・検索許容値による同じラベルの削除
- ・ラベル調整ルールの適用順序の制御

※ESRI ArcGIS Resource Center より抜粋

3.2 データの作成

(1) データの作成方法

GIS データは、隙間や重なりなどの論理構造上矛盾のないデータとして作成する必要がある。以下に推奨する作成方法を示す。

【推奨するデータ作成方法】

- ① 構造化データとして作成し、最終的に Shape ファイル形式のデータとして作成する。
- ② 構造化データを意識した Shape ファイル形式のデータを作成する。
ArcGIS では「ファイルジオデータベース (*.gdb)」(ArcGIS バージョン 10 より対応)あるいは「パーソナルジオデータベース (*.mdb)」などのジオデータベース形式でデータを作成し、最終的に Shape ファイル形式のデータとして作成するとよい。

※ 構造化データの作成機能がソフトにある場合、事前に作業工程の十分な検証を行うこと。
※ 使用ソフトなどはあくまでも参考で、データは最終的に仕様を満たしていれば構わない。

【参考】 構造化データとシェープデータ

構造化データとは、図形の隙間や重なり、境界線の捻れやはみ出し（オーバーシュート）などの論理的に矛盾の無いデータのことである。図のようにポリゴン A、B は線で囲まれた内部空間として定義されるため、ポリゴン間の境界線（緑の線）は 1 本の線で共有している。

一方、シェープ（Shape）データとは、各ポリゴンが独立に存在する形式のデータである。図のように見た目上 1 つの境界線であっても 2 つの線が重なっている。そのため境界線上の線や構成点に不一致が生じるデータとなる危険性がある。

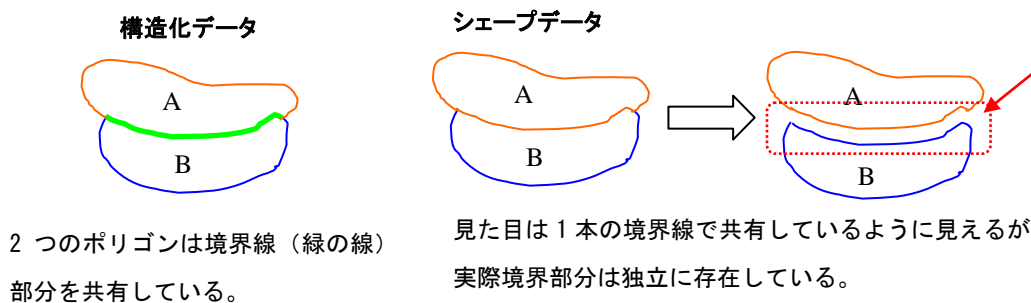


図 構造化データ、シェープデータの構造の相違

(2) 論理構造上のエラー例

作成する GIS データの論理構造上のエラーの例を以下に示す。これらのエラーが出ないようにデータを作成し、エラーが見られる場合はデータの修正を行う。

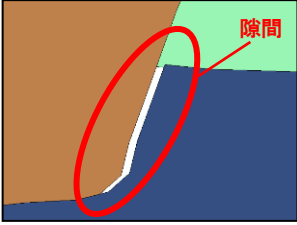
例①	隙間
対象形式	面
説明	隣り合うポリゴン（面）とポリゴン（面）の間に隙間が存在する。 
対象データ	植生（植生図）、生態（類型区分図）等

図 隙間（例）

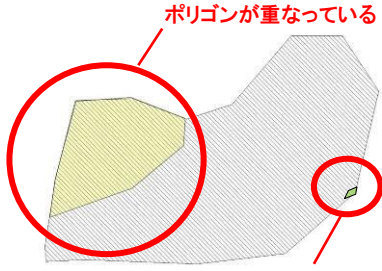
例②	重複
対象形式	点、線、面
説明	点、線、面データにそれぞれ重複したデータ（座標値が同じでかつ同じ属性情報を持っているもの）が存在する。 
対象データ	全ての点データ、全ての線データ、植生（植生図）、植生（植生図）、生態（類型区分図）、法令等による指定地域（騒音に係る環境基準類型区分、水質に係る環境基準類型区分、自然公園、自然環境保全地域、鳥獣保護区、特別緑地保全地区、風致地区、景観区域等、文化財、保安林、都市計画区域、農振法指定地）等

図 ポリゴン重複（例）

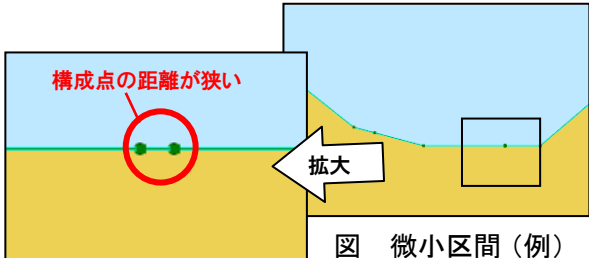
例③	微小区間
対象形式	線、面
説明	ポリゴン（面）やライン（線）構成点の連続する2点間の距離が0.25メートル以下（平面直角座標値によるメートル単位の数値）、または0（ゼロ）の場合。 
対象データ	全ての線データ、全ての面データ

図 微小区間（例）

例④	スパイク
対象形式	線、面
説明	<p>異常な幾何形状。</p> <p>ポリゴン（面）やライン（線）の連続する構成点で作られる辺が微小なとげ（スパイク）形状になっている場合。なお、長さが 0.25 メートル以下（平面直角座標値によるメートル単位の数値）、とげの角度を 30 度以下のものをスパイクとする。</p>
対象データ	全ての線データ、全ての面データ

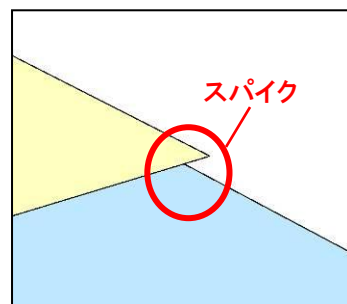


図 スパイク（例）

例⑤	キックバック
対象形式	線、面
説明	<p>異常な幾何形状。</p> <p>ポリゴン（面）の連続する構成点で作られる辺に、「Z」字型が上下につぶれたような冗長な往復（キックバック）形状となっている箇所。なお、「Z」字型の高さが 0.25 メートル以下（平面直角座標値によるメートル単位の数値）で、往復している線の角度が 30 度以下のものをキックバックとする。</p>
対象データ	全ての線データ、全ての面データ

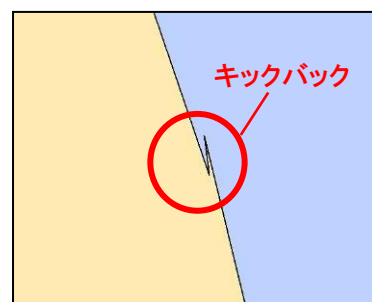
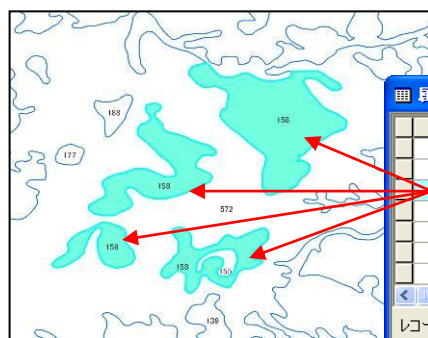


図 キックバック（例）

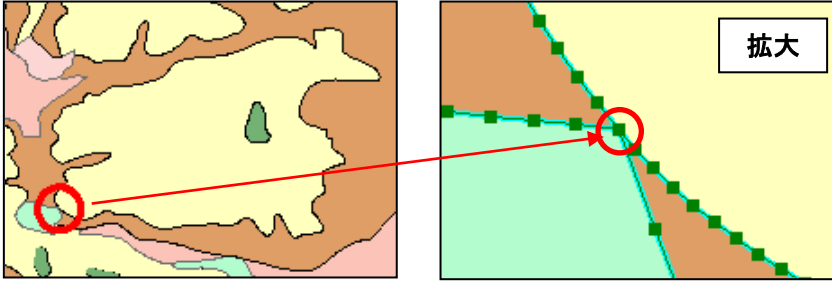
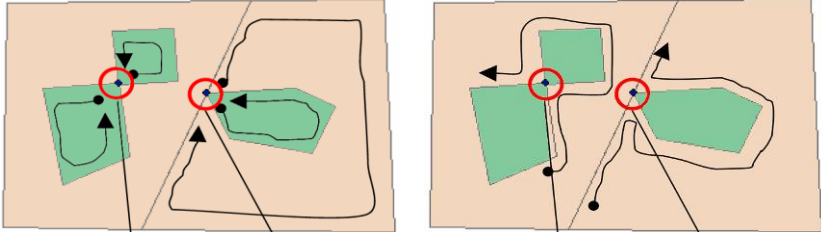
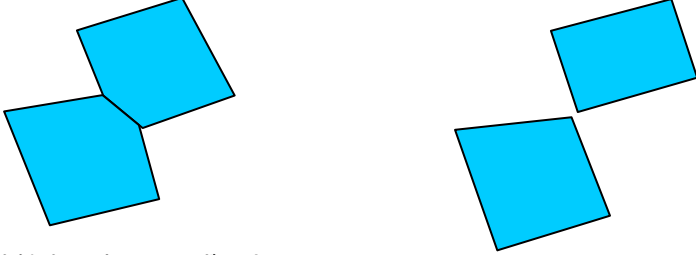
例⑥	マルチパート
対象形式	点、線、面
内容	<p>1つの属性データのみを参照する複数のフィーチャで構成されるデータ。</p>
解消方法	1つの属性データに対して1つのフィーチャで構成されるシングルパートデータとして作成する。
対象データ	全ての点、線、面データ



属性データとフィーチャが1対1対応になっていない

FID	Shape*	iid	hanrei_no
0	Polygon	139	8
1	Polygon	155	7
2	Polygon	158	8
3	Polygon	177	8
4	Polygon	188	8
5	Polygon	194	8
6	Polygon	572	7

図 マルチパートポリゴン（例）

<p>例⑦</p>	<p>点接触（1点ぶら下がり）</p>
<p>対象形式</p>	<p>面</p>
<p>説明</p>	<p>ポリゴン（面）が1点で接触する（自己交差の一種）</p>  <p>中央の黄色い領域を茶色の領域が取り巻くような図形になっているが、赤丸の場所では南北から伸びた茶色の領域が1点で接している（左図、右図は拡大図）。この部分は同じ座標を有しているため、茶色の図形ではこの座標が2度出現することになる。</p>  <p>タイプ1 タイプ2 タイプ3 タイプ4</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>タイプ1：内部リング同士が接している タイプ2：外部リングと内部リングが接している タイプ3：内部リングが自分自身と接している タイプ4：外部リングが自分自身と接している</p> </div>
<p>解消方法</p>	<p>1点で接触する図形を作らないようにする。また、作業前にこのような場面を十分想定しておくことが必要である。</p>  <p>図形が接触する時には必ず2点以上（線分として）図形を接触させる</p> <p>不必要に接触している図形は離す</p>
<p>対象データ</p>	<p>全ての面データ</p>

4. 成果品のフォルダ構成

成果品のフォルダ構成は以下の通り（青字：記入例）。

【成果品フォルダ構成（全モデル地区共通）】

事業者 ID (例)H25-001

└─DB

| └─01_景観

| └─02_動植物

| └─03_公開用報告書

└─GIS

| └─01_地域概況調査

| | └─0-1_共通事項

| | └─1-1_大気環境の状況

| | └─1-2_水環境の状況

| | └─1-3_土壌及び地盤の状況

| | └─1-4_地形及び地質の状況

| | └─1-5_動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況

| | └─1-6_景観及び人と自然との触れ合いの活動の状況

| | └─2-1_人口及び産業の状況

| | └─2-2_土地利用の状況

| | └─2-3_河川、湖沼及び海域の利用並びに地下水の利用の状況

| | └─2-4_交通の状況

| | └─2-5_学校、病院、その他の施設

| | └─2-6_下水道の状況

| | └─2-7_法令等による指定地域

| └─02_現地調査

| | └─01_共通事項

| | └─02_水の濁り

| | └─03_動植物

| | └─04_植生

| | └─05_生態系

| | └─06_景観

| └─03_任意調査

| | └─01_地域概況調査

| | | └─共通事項

| | └─02_現地調査

└─REPORT

└─01_公開用報告書（公開用報告書 PDF ファイルを格納）

| └─ORG（公開用報告書のオリジナルファイル(Word 等)を格納）

└─02_非公開用報告書

| └─ORG（非公開用報告書オリジナルファイル(Word 等)を格納）

| | └─図表（報告書に掲載している図表のオリジナルファイルを格納）

| | └─写真

| | └─その他

| └─PDF（非公開用報告書 PDF ファイルを格納）

5. 成果品リスト

成果品については別途配布する成果品リストに成果の有無等を記載する。記載例を以下に示す(青字：記入例)。

地域固有環境情報調査事業 成果品リスト				
事業ID	地区名	想定事業	調査仕様	座標系
H26-001	北海道寿都町	陸上風力	準備書	平面直角座標系 第 13 系(JGD2011)

(1)GISデータ関係

①定型フォーマットで提出するデータ

項目	No	内容	陸上風力 準備書	地熱 準備書	陸上風力 配慮書	洋上風力 配慮書	地熱 配慮書	ファイル名/凡例レイ ヤファイル名	フォルダ名	形式	備考	成果 作成	Web公 開	
地域情報調査														
001	共通	001-001 文獻調査地域(準備書、配慮書)	●	●	●	●	●	b_tyosa_hani	0-1_共通事項	shp	面	○	○	
002	大気環境	002-001 気象観測位置	●	●	●	●	●	b_kisyuu	1-1_大気環境の状況	shp	点	○	○	
		002-002 大気測定局位置	●	●	●	●	●	b_taiki	1-1_大気環境の状況	shp	点	○	○	
		002-003 自動車騒音常時監視測定地点	●	●	●	●	●	b_dourosouon	1-1_大気環境の状況	shp	点	○	○	
003	水環境	003-001 水質調査地点	●	●	●	●	●	b_sushitu	1-2_水環境の状況	shp	点	○	○	
		003-002 底質調査地点	-	-	-	●	-	b_teishitu	1-2_水環境の状況	shp	点			
		003-003 流況調査地点	-	-	-	●	-	b_ryukyuu	1-2_水環境の状況	shp	点			
004	その他の環境	004-001 重要な地形・地質	●	●	●	●	●	b_tikei_tishitsu_○	1-4_地形及び地質の状況	shp	点/線/面	○	○	
		004-002 波浪	-	-	-	●	-	b_harou	1-4_地形及び地質の状況	shp	点			
005	動植物	005-001 重要種確認結果	●	●	●	●	●	b_dousyoku_○	1-5_動植物の生息又は生育、 種生及び生態系の状況	shp	点/線/面	○	○	
006	景観及び人と自然との 触れ合い	006-001 景観資源	●	●	●	●	●	b_keikanshigen_○	1-6_景観及び人と自然との触 れ合いの活動の状況	shp	点/線/面	○	○	
		006-002 人と自然との触れ合いの場	●	●	●	●	●	b_hitofure_○	1-6_景観及び人と自然との触 れ合いの活動の状況	shp	点/線/面	○	○	
007	土地利用の 状況	007-001 土地利用基本計画	●	●	●	●	●	b_tochikeikaku	2-2_土地利用の状況	shp	面	○	○	
008	交通	008-001 交通量調査地点	●	●	●	●	●	b_kouturyou_○	2-4_交通の状況	shp	点/線	○	○	
009	学校、病院、 その他の施設	009-001 学校・病院位置	●	●	●	●	●	b_gakkou_byouin	2-5_学校、病院、その他の施設	shp	点	○	○	
		009-002 集落及び住宅	●	●	●	●	●	b_juutaku_○	2-5_学校、病院、その他の施設	shp	面/点	○	○	
010	河川、湖沼 および海域 の利用並び に地下水の 利用	010-001 漁場利用状況	-	-	-	-	-	b_gyojo	2-3_河川、湖沼および海域の利用 並びに地下水の利用の状況	shp	面			
		010-002 漁業権	-	-	-	●	-	b_gyogyouken_○	2-3_河川、湖沼および海域の利用 並びに地下水の利用の状況	shp	面/線			
011	法令等による 指定地域	011-001 騒音に係る環境基準類型区分	●	●	●	●	●	b_souonruikai	2-7_法令等による指定地域	shp	面	○	○	
		011-002 水質に係る環境基準類型区分	●	●	●	●	●	b_suishituruikai_○	2-7_法令等による指定地域	shp	点/線/面	○	○	
		011-003 自然公園	●	●	●	●	●	b_kokuritikokutei	2-7_法令等による指定地域	shp	面	○	○	
		011-004 自然環境保全地域	●	●	●	●	●	b_shizenkankyohozon	2-7_法令等による指定地域	shp	面	○	○	
		011-005 鳥獣保護区	●	●	●	●	●	b_tyoujyuu	2-7_法令等による指定地域	shp	面	「隣接ポリゴンがない」エラーは確認済み(OKエラー)	○	○
		011-006 特別緑地保全地区	●	●	●	●	●	b_tokuryoku	2-7_法令等による指定地域	shp	面	○	○	
		011-007 風致地区	●	●	●	●	●	b_fauchi	2-7_法令等による指定地域	shp	面	○	○	
		011-008 景観区域等	●	●	●	●	●	b_keikankuiki	2-7_法令等による指定地域	shp	面	○	○	
		011-009 文化財	●	●	●	●	●	b_bunkazai_○	2-7_法令等による指定地域	shp	点/線/面	○	○	
		011-010 保安林	●	●	●	●	●	b_hoanrin	2-7_法令等による指定地域	shp	面	○	○	
		011-011 都市計画区域	●	●	●	●	●	b_toshikeikaku	2-7_法令等による指定地域	shp	面	○	○	
		011-012 農振法指定地	●	●	●	●	●	b_noushinhoustei	2-7_法令等による指定地域	shp	面	○	○	
		011-013 海岸保全区域	-	-	-	●	-	b_kaiiganhozen_○	2-7_法令等による指定地域	shp	線/面			
		011-014 港湾区域	-	-	-	●	-	b_kowanikuiki_○	2-7_法令等による指定地域	shp	線/面			
011-015 航路	-	-	-	●	-	b_kouro_○	2-7_法令等による指定地域	shp	線/面					
011-016 漁港区域	-	-	-	●	-	b_gyokokuiki	2-7_法令等による指定地域	shp	面					
011-017 保護水面	-	-	-	●	-	b_hogossumen	2-7_法令等による指定地域	shp	面					
現地調査														
100	共通	100-001 調査地域(準備書) ※仕様書に示されている範囲	●	-	-	-	-	g_tyosa_hani_j	01_共通事項	shp	面	○	○	
		100-002 調査地域(配慮書) ※仕様書に示されている範囲	-	-	●	●	●	g_tyosa_hani_h	01_共通事項	shp	面			
		100-003 重点調査エリア(配慮書) ※仕様書に示されている範囲	-	-	●	-	●	g_jutentyosa_hani_h	01_共通事項	shp	面			
101	水環境	101-001 水質調査地点	●	●	-	-	-	g_suishitsu_chiten	02_水の濁り	shp	点	○	○	
		101-002 土質調査地点	●	●	-	-	-	g_doshitsu_chiten	02_水の濁り	shp	点	○	○	
102	動植物	102-001 調査ルート・地点	●	●	●	●	●	g_dousyoku_chiten_○	03_動植物	shp	点/線	○	○	
		102-002 重要な種及び重要な群落、注 目すべき生息地の確認結果 (希少猛禽類以外)	●	●	●	●	●	g_dousyoku_○	03_動植物	shp	点/線/面	○	○	
		102-003 重要な種及び重要な群落、注 目すべき生息地の確認結果 (希少猛禽類)	●	●	●	●	●	g_moukin_○	03_動植物	shp	点/線/面	○	○	
		102-004 薬場分布図	-	-	-	●	-	g_mobabanpuzu	03_動植物	shp	面			
		102-005 干潟分布図	-	-	-	●	-	g_higatabunpuzu	03_動植物	shp	面			
		102-006 サングラ分布図	-	-	-	●	-	g_sangosobunpuzu	03_動植物	shp	面			
103	植生	103-001 植生図	●	●	●	●	●	g_syokuseizu	04_植生	shp	面	○	○	
104	生態系	104-001 環境類型区分	●	●	●	●	●	g_ruikaiibunzu_○	05_生態系	shp	線/面	○	○	
		104-002 重要な自然環境のまとまりの場	-	-	●	●	●	g_matomari_○	05_生態系	shp	点/線/面			
105	景観	105-001 眺望地点及び眺望景観の状況	●	●	●	●	●	g_tyoubou	06_景観	shp	点	○	○	

地域固有環境情報調査事業 成果品リスト				
事業ID	地区名	想定事業	調査仕様	座標系
H26-001	北海道寿都町	陸上風力	準備書	平面直角座標系 第 13 系(JGD2011)

(1)GISデータ関係

②任意フォーマットで提出するデータ

項目	内容	陸上風力準備書	地熱準備書	陸上風力配慮書	洋上風力配慮書	地熱配慮書	ファイル名/凡例レイヤファイル名	フォルダ名	形式	備考	成果作成	Web公開
地域概況調査												
201	共通	地形図					b_tikeizu01	01_地域概況調査	geotif		○	×
		航空写真					国土基本図メッシュ番号	01_地域概況調査	geotif		○	×
		道路					b_douro	01_地域概況調査	shp 線		○	×
		行政区域					b_gyosei	01_地域概況調査	shp 面		○	×
203	その他の環境	河川一覧図					b_kasenitranzu	01_地域概況調査	tif			
		地形分類図					b_tikeibunrui_a	01_地域概況調査	shp 面		○	×
		漂砂					b_hyousa_p	01_地域概況調査	shp 点		○	×
		地形変動					b_tikej_hendou_l	01_地域概況調査	shp 線		○	×
		土壌図					b_dojozu	01_地域概況調査	shp 面		○	×
		表層地質図					b_hyosotisituzu	01_地域概況調査	shp 面		○	×
204	土地利用	地すべり分布図					b_jisuberibunpuzu	01_地域概況調査	shp 面		○	×
		土地利用区分図					b_totiriyou_a	01_地域概況調査	shp 面		○	×
205	人口及び産業	漁業権設定状況					b_gyogyokenjokyo	01_地域概況調査	shp 面		○	×
206	河川、湖沼及び海域の利用	取水・利水地点					b_syusui_risui	01_地域概況調査	shp 点		○	×
207	法令等による指定地域	港湾計画					b_kowankeikaku_l	01_地域概況調査	shp 線		○	×
現地調査												
301	動植物	重要種以外の分布情報(海棲哺乳類の分布状況、生態系調査で確認した動植物種など)						02_現地調査				
302	生態系	注目種(上位種・典型種・特殊種)の分布						02_現地調査				
303	景観	可視領域図						02_現地調査				
.....										

(2)データベース関係 (ファイル形式:MS Access2007(mdb))

項目	内容	テーブル名	フォルダ名	形式	備考	成果作成	Web公開
01	景観	眺望地点及び眺望景観の状況(確認年月日と写真)	keikan_kekka	01_景観	mdb		×
02	動植物	現地調査による確認種目録	seibutumokuroku	02_動植物	mdb		×
03	報告書(公開用)	報告書(公開用)PDFファイル管理(PDFファイルと各タイトルの対応表)	houkokusyo	03_公開用報告書	mdb		×

(3)報告書関係

項目	内容	フォルダ名	形式	備考	成果作成	Web公開
01	報告書(公開用)	秘匿情報(重要種分布図、個人名など)を含まないもの。Webで一般公開する。	01_公開用報告書	PDF		○
02	報告書(非公開用)	全ての調査成果を収録したもの。今後、特定の利用(申請・許可された事業者等)には配布される。	02_非公開用報告書	ワード、エクセル、PDF等		×
03	図表	報告書で使用した図表の元データ	02_非公開用報告書 YORGV図表	JPG、エクセル等		×
04	写真	現地写真等	02_非公開用報告書 YORGV写真	JPG		×
05	その他	その他関係するファイル等	02_非公開用報告書 YORGVその他			×

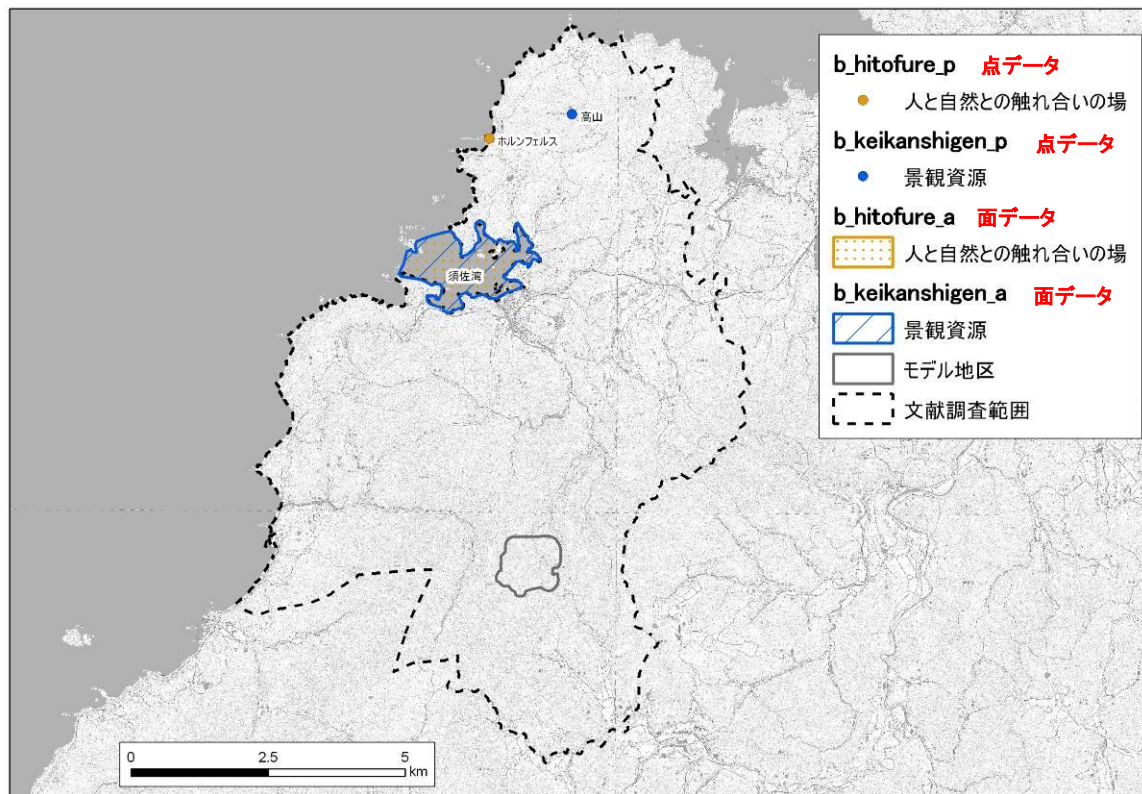
6. サンプルデータ

以下にサンプルデータ（GIS データ）を示す。

◆006 景観及び人と自然との触れ合い

006-001 景観資源、006-002 人と自然との触れ合いの場

【データ画面表示】



【属性データ】

点データ(景観資源) : b_keikanshigen_p

FID	Shape*	jid	meisyou	syutten
0	Point	H24-009	高山	「茨市観光ポータルサイト」

点データ(人と自然との触れ合いの場) : b_hitofure_p

FID	Shape*	jid	meisyou	syutten
0	Point	H24-009	高山	「茨市観光ポータルサイト(茨市役所観光課)」
1	Point	H24-009	ホルンフェルス	「茨市須佐観光協会ウェブサイト」

レコード: 0 / 2 選択されました

面データ(景観資源) : b_keikanshigen_a

FID	Shape	jid	meisyou	syutten
0	Polygon	H24-009	須佐湾	「茨市観光ポータルサイト」

レコード: 1 / 1 選択されました

面データ(人と自然との触れ合いの場) : b_hitofure_a

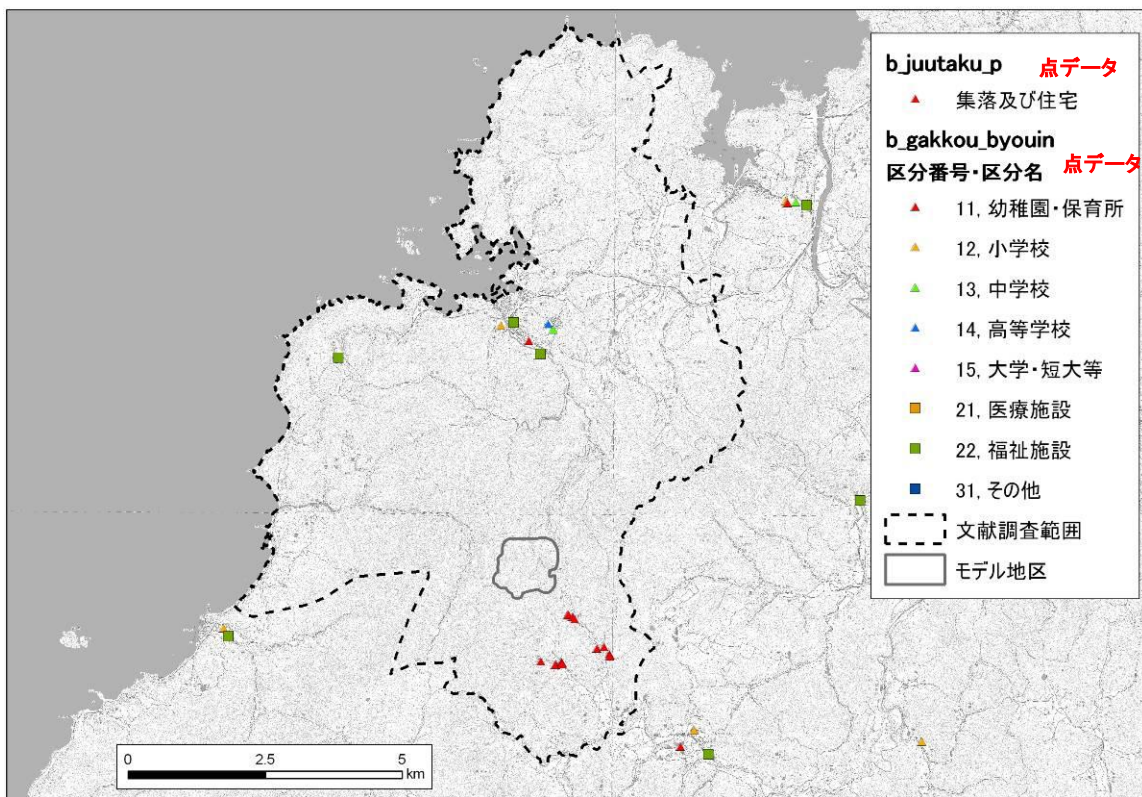
FID	Shape	jid	meisyou	syutten
0	Polygon	H24-009	須佐湾	「茨市観光ポータルサイト」

レコード: 1 / 1 選択されました

◆009 学校、病院、その他の施設

009-001 学校・病院位置、 009-002 集落及び住宅

【データ画面表示】



【属性データ】

点データ(学校・病院位置) : b_gakkou_byouin

属性 : b_gakkou_byouin

FID	Shape*	jid	No	kubun_no	kubun_mei	meisyou	syutten
0	Point	H24-009	1	12	小学校	市立むつみ小学校	「山口県教育委員会資料 公立小学校一覧」(平成23年3月、山口県)
1	Point	H24-009	2	12	小学校	市立育英小学校	「山口県教育委員会資料 公立小学校一覧」(平成23年3月、山口県)
2	Point	H24-009	3	12	小学校	市立越ヶ浜小学校	「山口県教育委員会資料 公立小学校一覧」(平成23年3月、山口県)
3	Point	H24-009	4	12	小学校	市立見島小学校	「山口県教育委員会資料 公立小学校一覧」(平成23年3月、山口県)
4	Point	H24-009	5	12	小学校	市立佐々並小学校	「山口県教育委員会資料 公立小学校一覧」(平成23年3月、山口県)
5	Point	H24-009	6	12	小学校	市立三見小学校	「山口県教育委員会資料 公立小学校一覧」(平成23年3月、山口県)

レコード: 0 / 126 選択されました

点データ(集落及び住宅) : b_juutaku_p

属性 : b_juutaku_p

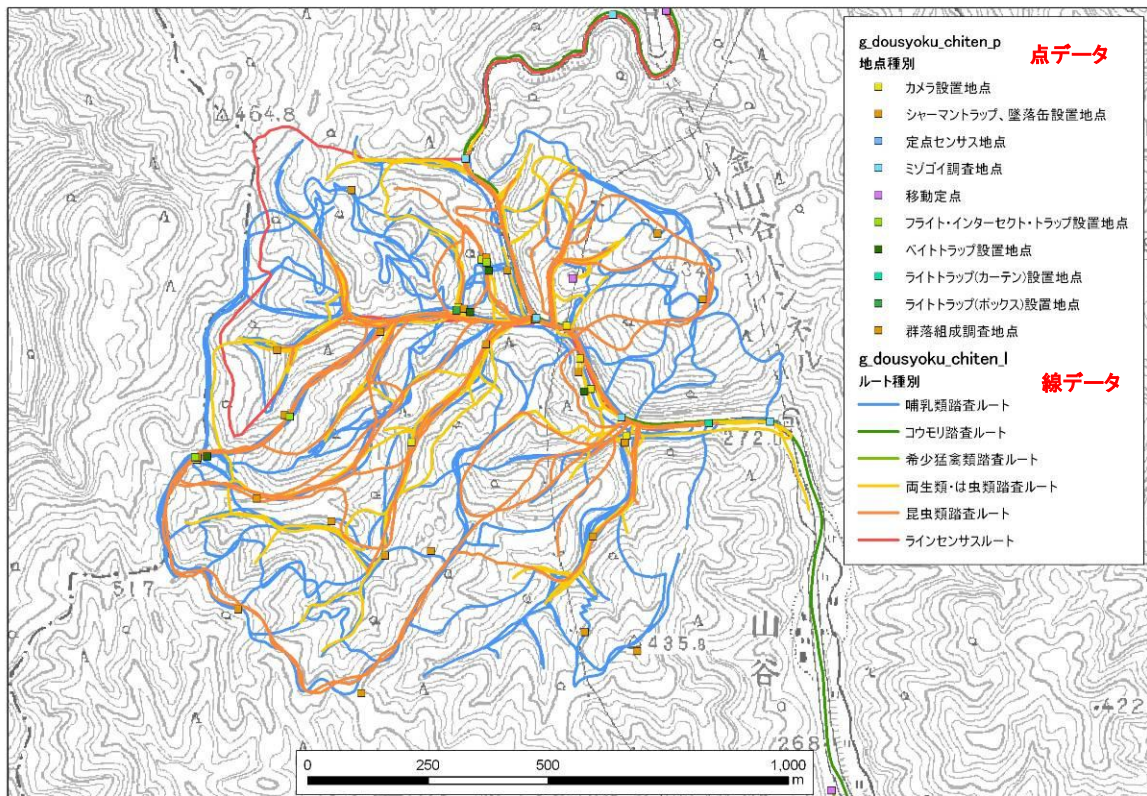
FID	Shape	jid	No
0	Point	H24-009	1
1	Point	H24-009	2
2	Point	H24-009	3
3	Point	H24-009	4
4	Point	H24-009	5
5	Point	H24-009	6

レコード: 0

◆102 動植物

102-001 調査ルート・地点

【データ画面表示】



【属性データ】

点データ: dousyoku_chiten_p

シャーマントラップ、墜落缶など（1 調査地区に複数のトラップを設置するため点データとして整理）

属性 : g_dousyoku_chiten_p

FID	Shape	jid	koumoku	syube tu	tid	nengappi
0	Point	H24-009	8	群落組成調査地点	No.1	秋期: 2012/10/9
1	Point	H24-009	8	群落組成調査地点	No.2	秋期: 2012/10/9
2	Point	H24-009	8	群落組成調査地点	No.3	秋期: 2012/10/10
3	Point	H24-009	8	群落組成調査地点	No.4	秋期: 2012/10/10
4	Point	H24-009	8	群落組成調査地点	No.5	秋期: 2012/10/10

レコード: 0 / 170 選択されました

線データ: dousyoku_shiten_l

踏査ルート、ラインセンサスルートなど

属性 : g_dousyoku_chiten_l

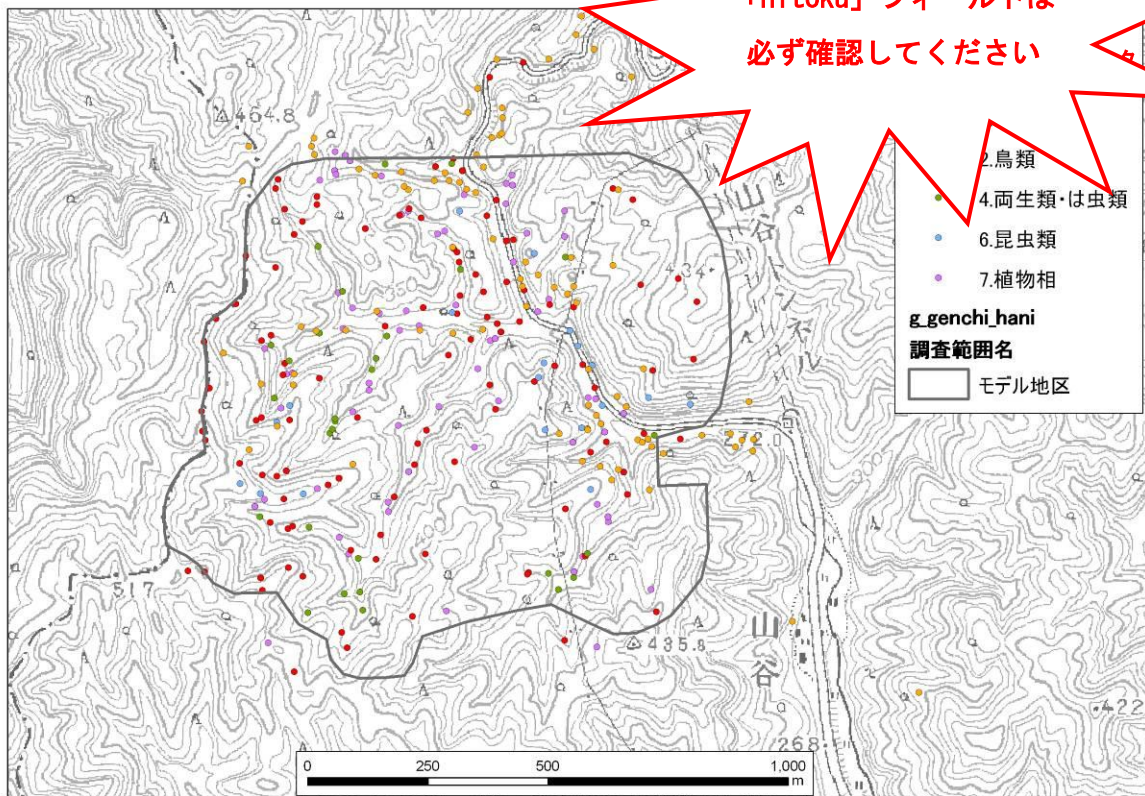
FID	Shape	jid	koumoku	syube tu	tid	nengappi
225	Polyline	H24-009	2	ラインセンサスルート	L2	春期: 2012年4月30日~2012年5月1日
227	Polyline	H24-009	2	ラインセンサスルート	L2	ミゾゴイ調査1: 2012年5月2日~2012年5月3日
229	Polyline	H24-009	2	ラインセンサスルート	L2	ミゾゴイ調査2: 2012年5月11日~2012年5月12日
231	Polyline	H24-009	2	ラインセンサスルート	L2	繁殖期: 2012年5月26日~2012年5月27日

レコード: 0 / 479 選択されました

◆102 動植物

102-002 重要種確認結果(希少猛禽類以外)

【データ画面表示】



【属性データ】

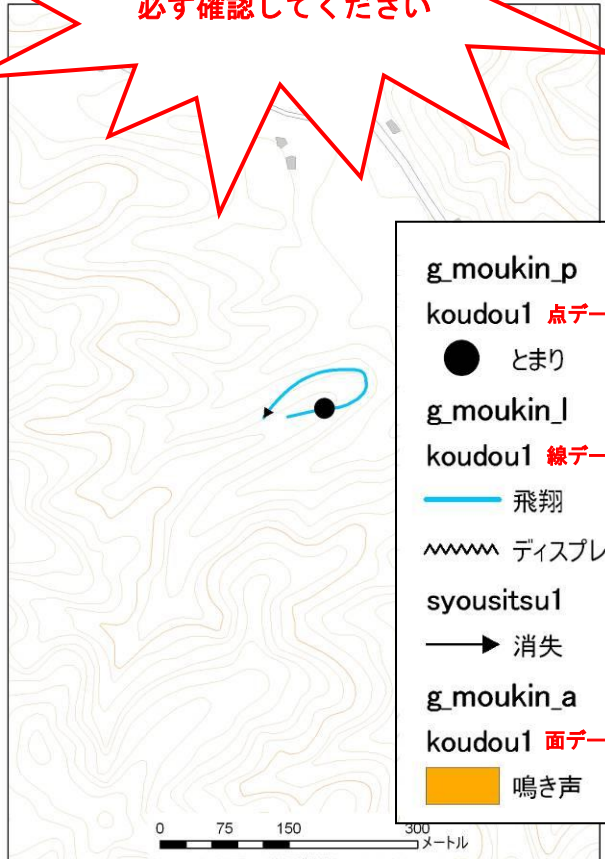
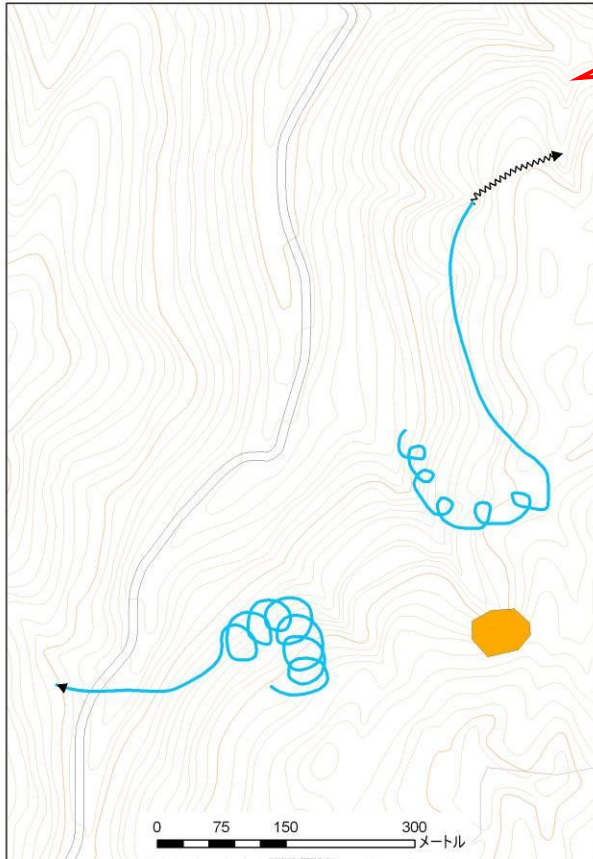
点データ:g_dousyoku_p

FID	Sh	jid	koumoku	moku	ka	syu	nengappi	kotaisuu	koudou	hisyou	iyoukyou	sonota	x	y	tennen	syuhozon	red_kankyuu	red_chihou	red_suisan	sonota1	sonota2	sonota3	hitoku	
0	Poin	H24-009	7	キリ目	キリ科	ヒメガンカビ	2012/08/02	8株					-51380.058	-157315.3										1
1	Poin	H24-009	7	イネ目	イネ科	アズマガヤ	2012/08/02	10株					-51208.150	-157698.4										1
2	Poin	H24-009	7	キリ目	キリ科	ヒメガンカビ	2012/08/02	3株					-51188.777	-157668.9										1
3	Poin	H24-009	7	キリ目	キリ科	ヒメガンカビ	2012/08/02	18株					-51255.889	-157689.9										1
4	Poin	H24-009	7	キリ目	キリ科	ヒメガンカビ	2012/08/02	3株					-51253.722	-157959.3										1
5	Poin	H24-009	7	キリ目	キリ科	ヒメガンカビ	2012/08/02	7株					-51206.456	-159115.5										1
6	Poin	H24-009	7	シソ目	シソ科	ニシキドロモ	2012/08/02	6株					-51182.809	-157846.2										1
7	Poin	H24-009	7	シソ目	シソ科	ニシキドロモ	2012/08/02	3株					-51205.499	-157819.3										1
8	Poin	H24-009	7	ラン目	ラン科	キンラン	2012/08/02	2株					-51273.093	-157208.6										1
9	Poin	H24-009	7	ラン目	ラン科	エビネ	2012/08/02	5株					-51273.093	-157261.5										1
10	Poin	H24-009	7	アカネ	アカネ	イネモリウ	2012/08/02	2株					-51306.236	-157392.1										1
11	Poin	H24-009	7	ゴマハ	ゴマハ	サンインカワ	2012/08/02	10株					-51597.794	-157750.9										1
12	Poin	H24-009	7	ゴマハ	ゴマハ	サンインカワ	2012/08/02	10株					-51428.402	-157478.2										1

◆102 動植物

102-003 重要種確認結果(希少猛禽類)

【データ画面表示】



- g_moukin_p
- koudou1 点データ
- とまり
- g_moukin_l
- koudou1 線データ
- 飛翔
- ~~~~ ディスプレイ
- syousitsu1
- 消失
- g_moukin_a
- koudou1 面データ
- 鳴き声

【属性データ】

点データ:g_moukin_p

FID	Shape	jid	koumoku	moku	ka	syu	sex	age	kotai	nengappi	ikoku_c	ikoku_J	kakanin	kotaisuu	kota_no	koudou_no	koudou1	koudou2	syousitsu1	hizyou	
0	Point	H24-009	3	鳥か目	鳥か科	ツツバ	雌	成鳥	既、尻にも目立つ欠なし	2012/7/21	1046:05	1046:25	F	1	SS-01	3	飛翔	飛翔		1	尾羽表に消失

線データ:g_moukin_l

FID	Shape	jid	koumoku	moku	ka	syu	sex	age	kotai	nengappi	ikoku_c	ikoku_J	kakanin	kotaisuu	kota_no	koudou_no	koudou1	koudou2	syousitsu1	hizyou	
0	Polyline	H24-009	3	鳥か目	鳥か科	ツツバ	雌	成鳥	既、尻にも目立つ欠なし	2012/7/21	1046:05	1046:25	F	1	SS-01	3	飛翔	飛翔		1	尾羽表に消失
1	Polyline	H24-009	3	鳥か目	鳥か科	ツツバ	雌	成鳥	既、尻にも目立つ欠なし	2012/7/21	1046:05	1046:25	F	1	SS-01	1	飛翔	飛翔		0	
2	Polyline	H24-009	3	鳥か目	鳥か科	ツツバ	雌	成鳥	S3付近に切り込み	2012/7/25	1130:54	1132:02	F	1	KM-01	1	飛翔	飛翔		1	季節の撮影で消失
3	Polyline	H24-009	3	鳥か目	鳥か科	ツツバ	不明	成鳥	右P9付近の曲がっている	2012/11/26	1129:54	1129:02	G	1	KM-02	2	ディスプレイ	ディスプレイ		0	
4	Polyline	H24-009	3	鳥か目	鳥か科	ツツバ	不明	成鳥	右P9付近の曲がっている	2012/11/26	1129:54	1129:02	G	1	KM-02	1	飛翔	飛翔		0	
5	Polyline	H24-009	3	鳥か目	鳥か科	ツツバ	不明	成鳥	右P9付近の曲がっている	2012/11/26	1133:54	1129:02	G	1	KM-02	3	消失	消失		1	季節の撮影で消失

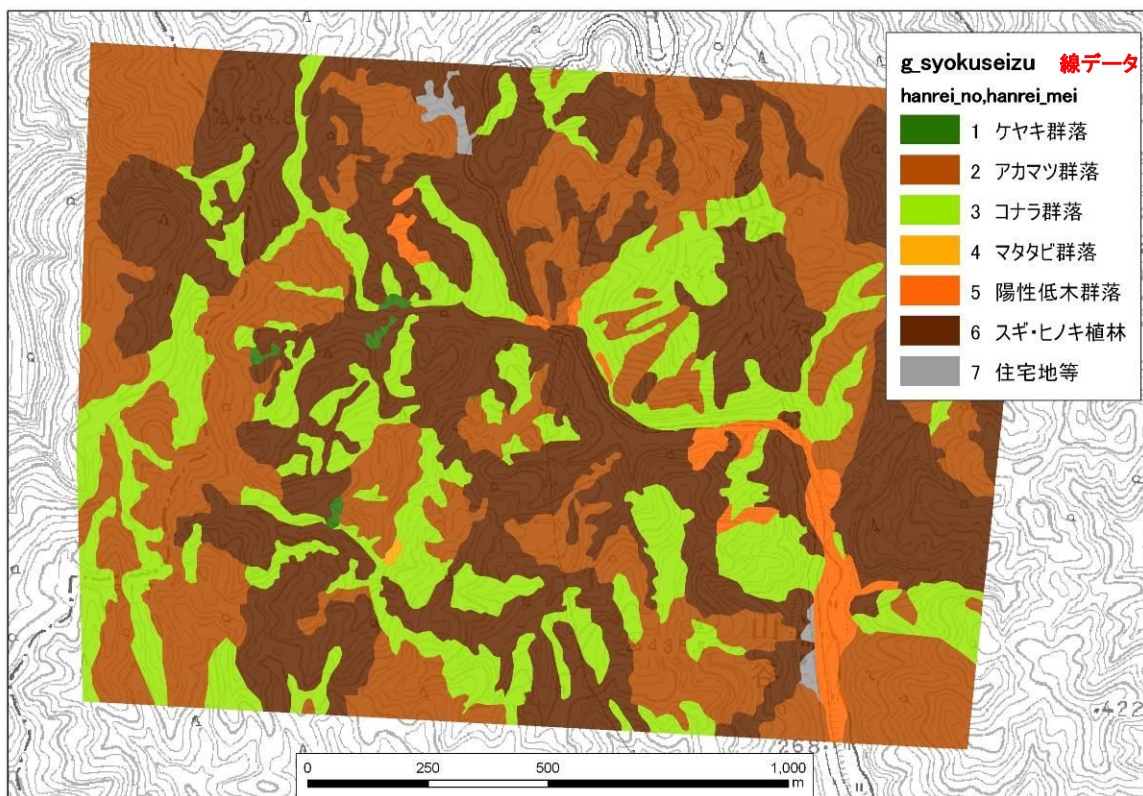
面データ:g_moukin_a

FID	Shape*	jid	koumoku	moku	ka	syu	sex	age	kotai	nengappi	ikoku_c	ikoku_J
0	Polygon	H24-009	3	鳥か目	鳥か科	ウマカ	不明	不明		2012/7/25	11:30	11:31

◆103 植生

103-001 植生図

【データ画面表示】



【属性データ】

面データ:g_syokuseizu

属性 : g_syokuseizu

FID	Shape	jid	hanrei_no	hanrei_mei	bikou
0	Polygon	H24-009	3	コナラ群落	
1	Polygon	H24-009	3	コナラ群落	
2	Polygon	H24-009	2	アカマツ群落	
3	Polygon	H24-009	2	アカマツ群落	
4	Polygon	H24-009	7	住宅地等	
5	Polygon	H24-009	3	コナラ群落	
6	Polygon	H24-009	3	コナラ群落	
7	Polygon	H24-009	3	コナラ群落	

レコード: 0 / 101 選択されました

別紙 1 重要種確認結果（希少猛禽類、海ワシ類）属性

- ・データの形式（点/線/面）により格納する情報が異なるので注意すること。
- ・GIS のシンボルは任意
- ・項目内容については猛禽類保護の進め方（改定案）を参考に作成。

<入力時の注意>

koudou1（行動（大分類））：該当する項目を選択し記載する。

koudou2（行動（小分類））：koudou1 の詳細を記入。記入方法は任意。

syousitsu2（消失）：消失状況を記入。記入方法は各任意。

【点データ】

koudou1 (以下より該当する項目を記入)	koudou2 (koudou1 の詳細を記入。記入方法は任意)	備考
旋回上昇	例) 旋回飛翔など	・飛翔による内容を記入する。 ・その場で旋回上昇したものを入力する。 ・移動しながらの上昇は、飛翔（線データ）で入力する。
防衛行動	例) 攻撃など	飛翔による内容を記入する。
採食行動	例) 狩りなど	飛翔による内容を記入する。
とまり	例) 休息（羽づくろい）、見張り とまり、摂餌とまり、探餌とまり、 不明など	とまりによる内容を記入する。
ディスプレイ行動	例) 見張りとまり、誇示とまり、 並びとまりなど	・とまりによる内容を記入する。 ・koudou2 には koudou1 にある「とまり」 の koudou2 についても併記可
繁殖行動	例) 交尾を伴うとまり、偽交尾を 伴うとまりなど	・とまりによる内容を記入する。 ・koudou2 には koudou1 にある「とまり」 及び「ディスプレイ行動」の koudou2 についても併記可

【線データ】

koudou1 (以下より該当する項目を記入)	koudou2 (koudou1 の詳細を記入。記入方法は任意)	備考
飛翔	例) 移動、探餌飛翔、旋回上昇を 伴う飛翔など	
採食行動	例) 空中で直接狩りを行う、急降 下等で林の中等に飛び込んだなど	
ディスプレイ飛翔	例) V字飛翔、波状飛翔、平行飛翔、 枝落とし、爪合わせなど	
防衛行動	例) 追い払い、他個体への攻撃（急 降下を含む）など	・防衛行動のうち、飛翔によるものを 入力する。 ・明らかに侵入個体に対するディス プレイ飛翔は「防衛行動」を含む。 ・直接攻撃したポイントについては “点”データで入力する。
繁殖行動	例) 巣材運び、餌運びなど	

syousitsu1 (以下より該当する項目を記入)	syousitsu2 (消失状況を記入。記入方法は各任意)	備考
0（消失以外） または 1（消失）	林内消失、その他（その他の表記 は各社に一任）	syousitsu1 が「1」（消失）の場合、ライ ンの先端に矢印（→）のシンボルを付 ける。

【面データ】

koudou1 (以下より該当する項目を記入)	koudou2 (koudou1の詳細を記入。記入方法は任意)	備考
鳴き声	例) 警戒、えごい、鳴き交わし、交尾声など	
群れ	例) 渡り、ねぐら、休息、採食、狩り、個体数 (○～○)、成幼の割合 (○ぐらい) など	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団での渡り (主に春・秋期) や海ワシ類の群れ (主に越冬期) を確認した場合。 ・ koudou1に「群れ」と入力した場合、以下の項目の記入は省略可能。 <ul style="list-style-type: none"> -sex (性別) -age (齢) -kotai (個体情報) -kotaisuu (個体数) -kotai_no (個体番号)

別紙 2 事業 I D

事業 ID	情報整備モデル地区名	都道府県	市町村等	想定事業	調査仕様
H24-001	北海道ノ国町情報整備モデル地区	北海道	上ノ国町	陸上風力	準備書
H24-002	青森県青森市情報整備モデル地区	青森県	青森市	陸上風力	準備書
H24-003	青森県横浜町情報整備モデル地区	青森県	横浜町	陸上風力	準備書
H24-004	岩手県洋野町情報整備モデル地区	岩手県	洋野町(種市)	陸上風力	準備書
H24-005	秋田県由利本荘市情報整備モデル地区	秋田県	由利本荘市(岩城)	陸上風力	準備書
H24-006	山形県小国町情報整備モデル地区	山形県	小国町	陸上風力	準備書
H24-007	福島県いわき市情報整備モデル地区	福島県	いわき市(雨降山)	陸上風力	準備書
H24-008	福井県小浜市情報整備モデル地区	福井県	小浜市	陸上風力	準備書
H24-009	山口県萩市情報整備モデル地区	山口県	萩市	陸上風力	準備書
H24-010	鹿児島県阿久根市情報整備モデル地区	鹿児島県	阿久根市	陸上風力	準備書
H25-001	北海道八雲町情報整備モデル地区	北海道	八雲町	陸上風力	配慮書
H25-002	北海道島牧村情報整備モデル地区	北海道	島牧村	陸上風力	配慮書
H25-003	青森県田子町情報整備モデル地区	青森県	田子町	陸上風力	配慮書
H25-004	岩手県洋野町情報整備モデル地区	岩手県	洋野町(中野)	陸上風力	配慮書
H25-005	秋田県由利本荘市情報整備モデル地区	秋田県	由利本荘市(東由利)	陸上風力	配慮書
H25-006	千葉県館山市情報整備モデル地区	千葉県	館山市	陸上風力	配慮書
H25-007	愛媛県砥部町・内子町情報整備モデル地区	愛媛県	砥部町・内子町	陸上風力	配慮書
H25-008	山口県阿武町・萩市情報整備モデル地区	山口県	阿武町・萩市	陸上風力	配慮書
H25-009	秋田県湯沢市情報整備モデル地区	秋田県	湯沢市	地熱	配慮書
H25-010	秋田県能代市情報整備モデル地区	秋田県	能代市(沖)	洋上風力	配慮書
H25-011	長崎県西海市情報整備モデル地区	長崎県	西海市(沖)	洋上風力	配慮書
H25-012	秋田県大仙市情報整備モデル地区	秋田県	大仙市	陸上風力	準備書
H25-013	千葉県君津市情報整備モデル地区	千葉県	君津市	陸上風力	準備書
H25-014	山口県下関市情報整備モデル地区	山口県	下関市	陸上風力	準備書
H25-015	熊本県芦北町情報整備モデル地区	熊本県	芦北町	陸上風力	準備書
H25-016	鹿児島県指宿市情報整備モデル地区	鹿児島県	指宿市	地熱	準備書
H25-017	北海道稚内市沖情報整備モデル地区	北海道	稚内市沖	洋上風力	配慮書
H25-018	岩手県普代村・野田村情報整備モデル地区	岩手県	普代村・野田村	陸上風力	準備書
H25-019	岩手県洋野町沖情報整備モデル地区	岩手県	洋野町沖	洋上風力	配慮書
H25-020	秋田県秋田市・潟上市情報整備モデル地区	秋田県	秋田市・潟上市	陸上風力	準備書
H25-021	秋田県北部沖情報整備モデル地区	秋田県	北部沖	洋上風力	配慮書
H25-022	秋田県南部沖情報整備モデル地区	秋田県	南部沖	洋上風力	配慮書
H25-023	福島県南相馬市・飯館村情報整備モデル地区	福島県	南相馬市・飯館村	陸上風力	準備書
H25-024	福島県いわき市情報整備モデル地区	福島県	いわき市(一本山毛樺)	陸上風力	準備書
H25-025	福島県天栄村情報整備モデル地区	福島県	天栄村	陸上風力	準備書
H25-026	福島県古殿町情報整備モデル地区	福島県	古殿町	陸上風力	準備書
H25-027	兵庫県神河町情報整備モデル地区	兵庫県	神河町	陸上風力	準備書
H25-028	山口県萩市情報整備モデル地区	山口県	萩市	陸上風力	準備書
H25-029	静岡県御前崎港情報整備モデル地区	静岡県	御前崎港	洋上風力	配慮書
H25-030	鳥取県中部沖情報整備モデル地区	鳥取県	中部沖	洋上風力	配慮書
H25-031	鹿児島県串木野港情報整備モデル地区	鹿児島県	串木野港	洋上風力	配慮書
H25-032	福岡県北九州市沖情報整備モデル地区	福岡県	北九州市沖	洋上風力	配慮書
H25-033	長崎県長崎市池島町沖情報整備モデル地区	長崎県	長崎市池島町沖	洋上風力	配慮書
H25-034	長崎県五島市黄島沖情報整備モデル地区	長崎県	五島市黄島沖	洋上風力	配慮書
H26-001	北海道稚内市沖情報整備モデル地区	北海道	稚内市沖	洋上風力	配慮書
H26-002	岩手県普代村・野田村情報整備モデル地区	岩手県	普代村・野田村	陸上風力	準備書
H26-003	岩手県洋野町沖情報整備モデル地区	岩手県	洋野町沖	洋上風力	配慮書
H26-004	秋田県秋田市・潟上市情報整備モデル地区	秋田県	秋田市・潟上市	陸上風力	準備書
H26-005	秋田県北部沖情報整備モデル地区	秋田県	北部沖	洋上風力	配慮書
H26-006	秋田県南部沖情報整備モデル地区	秋田県	南部沖	洋上風力	配慮書
H26-007	福島県南相馬市・飯館村情報整備モデル地区	福島県	南相馬市・飯館村	陸上風力	準備書
H26-008	福島県いわき市情報整備モデル地区	福島県	いわき市(一本山毛樺)	陸上風力	準備書

事業ID	情報整備モデル地区名	都道府県	市町村等	想定事業	調査仕様
H26-009	福島県天栄村情報整備モデル地区	福島県	天栄村	陸上風力	準備書
H26-010	福島県古殿町情報整備モデル地区	福島県	古殿町	陸上風力	準備書
H26-011	兵庫県神河町情報整備モデル地区	兵庫県	神河町	陸上風力	準備書
H26-012	山口県萩市情報整備モデル地区	山口県	萩市	陸上風力	準備書
H26-013	静岡県御前崎港情報整備モデル地区	静岡県	御前崎港	洋上風力	配慮書
H26-014	鳥取県中部沖情報整備モデル地区	鳥取県	中部沖	洋上風力	配慮書
H26-015	鹿児島県串木野港情報整備モデル地区	鹿児島県	串木野港	洋上風力	配慮書
H26-016	福岡県北九州市沖情報整備モデル地区	福岡県	北九州市沖	洋上風力	配慮書
H26-017	長崎県長崎市池島町沖情報整備モデル地区	長崎県	長崎市池島町沖	洋上風力	配慮書
H26-018	長崎県五島市黄島沖情報整備モデル地区	長崎県	五島市黄島沖	洋上風力	配慮書
H26-019	北海道寿都町情報整備モデル地区	北海道	寿都町	陸上風力	準備書
H26-020	北海道ニセコ町情報整備モデル地区	北海道	ニセコ町	陸上風力	配慮書
H26-021	北海道寿都町沖情報整備モデル地区	北海道	寿都町沖	洋上風力	配慮書
H26-022	北海道岩内町沖情報整備モデル地区	北海道	岩内町沖	洋上風力	配慮書
H26-023	青森県八戸市情報整備モデル地区	青森県	八戸市	陸上風力	配慮書
H26-024	秋田県能代市情報整備モデル地区	秋田県	能代市	陸上風力	準備書
H26-025	福島県南相馬市情報整備モデル地区	福島県	南相馬市	陸上風力	配慮書
H26-026	石川県輪島市情報整備モデル地区	石川県	輪島市	陸上風力	配慮書
H26-027	静岡県磐田市情報整備モデル地区	静岡県	磐田市	陸上風力	配慮書
H26-028	愛媛県八幡浜市情報整備モデル地区	愛媛県	八幡浜市	陸上風力	配慮書
H26-029	高知県室戸市情報整備モデル地区	高知県	室戸市	陸上風力	配慮書
H26-033	福岡県北九州市沖情報整備モデル地区	福岡県	北九州市沖	洋上風力	配慮書
H26-034	長崎県新上五島町沖情報整備モデル地区	長崎県	新上五島町沖	洋上風力	配慮書
H26-035	鹿児島県薩摩川内市沖情報整備モデル地区	鹿児島県	薩摩川内市沖	洋上風力	配慮書
H26-036	北海道八雲町山崎情報整備モデル地区	北海道	八雲町山崎	陸上風力	配慮書
H26-037	青森県五所川原市金木町情報整備モデル地区	青森県	五所川原市金木町	陸上風力	配慮書
H26-038	青森県五所川原市魔ノ岳情報整備モデル地区	青森県	五所川原市魔ノ岳	陸上風力	配慮書
H26-039	青森県八戸市南郷区情報整備モデル地区	青森県	八戸市南郷区	陸上風力	配慮書
H26-040	岩手県奥州市情報整備モデル地区	岩手県	奥州市	陸上風力	配慮書
H26-041	岩手県久慈市情報整備モデル地区	岩手県	久慈市	陸上風力	配慮書
H26-042	兵庫県豊岡市竹野町情報整備モデル地区	兵庫県	豊岡市竹野町	陸上風力	配慮書
H26-043	兵庫県豊岡市但東町情報整備モデル地区	兵庫県	豊岡市但東町	陸上風力	配慮書
H26-044	兵庫県新温泉町情報整備モデル地区	兵庫県	新温泉町	陸上風力	配慮書
H26-045	新潟県村上市沖情報整備モデル地区	新潟県	村上市沖	洋上風力	配慮書
H26-046	静岡県牧之原市沖情報整備モデル地区	静岡県	牧之原市沖	洋上風力	配慮書
H26-047	兵庫県洲本市沖情報整備モデル地区	兵庫県	洲本市沖	洋上風力	配慮書
H26-048	島根県出雲市沖情報整備モデル地区	島根県	出雲市沖	洋上風力	配慮書
H27-001	北海道八雲町山崎情報整備モデル地区	北海道	八雲町山崎	陸上風力	配慮書
H27-002	青森県五所川原市金木町情報整備モデル地区	青森県	五所川原市金木町	陸上風力	配慮書
H27-003	青森県五所川原市魔ノ岳情報整備モデル地区	青森県	五所川原市魔ノ岳	陸上風力	配慮書
H27-004	青森県八戸市南郷区情報整備モデル地区	青森県	八戸市南郷区	陸上風力	配慮書
H27-005	岩手県奥州市情報整備モデル地区	岩手県	奥州市	陸上風力	配慮書
H27-006	岩手県久慈市情報整備モデル地区	岩手県	久慈市	陸上風力	配慮書
H27-007	兵庫県豊岡市竹野町情報整備モデル地区	兵庫県	豊岡市竹野町	陸上風力	配慮書
H27-008	兵庫県豊岡市但東町情報整備モデル地区	兵庫県	豊岡市但東町	陸上風力	配慮書
H27-009	兵庫県新温泉町情報整備モデル地区	兵庫県	新温泉町	陸上風力	配慮書
H27-010	新潟県村上市沖情報整備モデル地区	新潟県	村上市沖	洋上風力	配慮書
H27-011	静岡県牧之原市沖情報整備モデル地区	静岡県	牧之原市沖	洋上風力	配慮書
H27-012	兵庫県洲本市沖情報整備モデル地区	兵庫県	洲本市沖	洋上風力	配慮書
H27-013	島根県出雲市沖情報整備モデル地区	島根県	出雲市沖	洋上風力	配慮書
H27-014	岩手県二戸市浄法寺町情報整備モデル地区	岩手県	二戸市浄法寺町	陸上風力	配慮書
H27-015	岩手県二戸市仁左平情報整備モデル地区	岩手県	二戸市仁左平	陸上風力	配慮書
H27-016	福島県郡山市御霊櫃峠情報整備モデル地区	福島県	郡山市御霊櫃峠	陸上風力	配慮書
H27-017	福島県郡山市諏訪峠情報整備モデル地区	福島県	郡山市諏訪峠	陸上風力	配慮書
H27-018	福島県郡山市須賀川市情報整備モデル地区	福島県	郡山市須賀川市	陸上風力	配慮書
H27-019	京都府伊根町情報整備モデル地区	京都府	伊根町	陸上風力	配慮書
H27-020	鳥取県鳥取市情報整備モデル地区	鳥取県	鳥取市	陸上風力	配慮書
H27-021	島根県大田市朝山情報整備モデル地区	島根県	大田市朝山	陸上風力	配慮書

事業 ID	情報整備モデル地区名	都道府県	市町村等	想定事業	調査仕様
H27-022	島根県大田市鳥井情報整備モデル地区	島根県	大田市鳥井	陸上風力	配慮書
H27-023	徳島県鳴門市情報整備モデル地区	徳島県	鳴門市	陸上風力	配慮書

別紙 3 重要種等の取り扱いについての補足

表 (1) 重要種等の取扱について

項目	No	内容	対応
GIS	1	<p>調査中に調査項目以外の動植物を確認した場合。</p> <p><例></p> <p>例1：植生調査中に確認された哺乳類。</p> <p>例2：鳥類調査中に確認された希少猛禽類。</p> <p>例3：希少猛禽類（イヌワシ類）調査中に確認された海ワシ類。</p> <p>例4：追加調査中に確認された希少猛禽類。</p>	<p>「調査項目」に実施していた調査項目を入力し、「表示項目」にはそれぞれ確認した種の分類群の項目（1 哺乳類、2 鳥類、4 両生類・は虫類など）を入力する。但し、鳥類（希少猛禽類等を含む）に関する調査項目以外で確認した鳥類（希少猛禽類等を含む）の「表示項目」は全て「2 鳥類」とする（例2～4）。</p> <p><例></p> <p>例1：調査項目は「8 植生」、表示項目は「1 哺乳類」。</p> <p>例2：調査項目は「2 鳥類」、表示項目は「2 鳥類」。</p> <p>例3：調査項目は「3 希少猛禽類」、表示項目は「2 鳥類」。</p> <p>例4：調査項目は「99 その他」、表示項目は「2 鳥類」とし、備考欄に「追加調査：○○調査にて確認」と記載。</p>
GIS	2	モデル地区範囲外で重要な動植物を確認した場合。	モデル地区範囲外であっても本調査で確認された種であれば整理する。
GIS	3	配慮書の生態系調査の中で実施した動植物調査結果の整理。	定型フォーマットで入力する種は重要種のみとし、「g_dousyoku」ファイルの「調査項目」には「22：生態系」を、「表示項目」にはそれぞれ確認した種の分類群の項目（1 哺乳類、2 鳥類、4 両生類・は虫類など）を入力する。重要種以外は、任意フォーマットにて整理する。
GIS	4	配慮書の生態系調査の調査地点、ルート等のデータのまとめ方。	任意フォーマットにて整理する。
GIS	5	希少猛禽類調査中に「渡りの個体」を多く確認した場合の付加情報。	行動に入力する。（例：行動（大分類）は「飛翔」、行動（小分類）は「渡り」など。別紙1参照。）
GIS	6	希少猛禽類の属性項目「飛翔高度」記載方法。	確認した出現地点の最低標高値および最高標高値等を絶対高度で整理する（●m～●mなど）。

表(2) 重要種等の取扱いについて

項目	No	内容	対応
GIS	7	希少猛禽類の「確認地点」の表現方法。	確認された行動に応じて別紙1を参照のうえ、点、線、面で表現する。
GIS	8	仕様書以外の追加調査の結果の取り扱い（「ツル類調査」、「ため池調査」など）。	<p>「調査項目」は「99 その他」とし、「表示項目」にはそれぞれ確認した種の分類群の項目（1 哺乳類、2 鳥類、4 両生類・は虫類など）を入力する。また、備考欄に具体的な調査項目名を記載する。</p> <p><例></p> <p>例1：調査項目は「99 その他」、表示項目は「2 鳥類」、備考欄は「追加調査：ツル類調査にて確認」。</p> <p>例2：調査項目は「99 その他」、表示項目はそれぞれ確認した種の分類群の項目（1 哺乳類、2 鳥類、4 両生類・は虫類など）、備考欄は「追加調査：ため池調査にて確認」。</p>
GIS	9	既存データ（植生図や国土数値情報等）の取り扱い。	論理構造上のエラーが見られる場合は、データを修正する。
GIS	10	地域概況調査において重要種の確認地点情報が市町村界や2次メッシュなど広い範囲の場合の取り扱い。	面データ（b_dousyoku_a.shp）として整理する。
データベース	1	<p>調査中に調査項目以外の動植物を確認した場合の「現地調査による確認種目録」への記載方法。</p> <p><例></p> <p>例1：植生調査中に確認された哺乳類。</p> <p>例2：鳥類調査中に確認された希少猛禽類。</p> <p>例3：希少猛禽類（イヌワシ類）調査中に確認された海ワシ類。</p> <p>例4：追加調査中に確認された希少猛禽類。</p>	調査項目によらず本調査で確認された全種の目録となるように1種、1レコードで整理する。

表(3) 重要種等の取扱について

項目	No	内容	対応
データ ベース	2	モデル地区範囲外で重要な動植物を確認した場合。	モデル地区範囲外であっても本調査で確認された種であれば整理する。